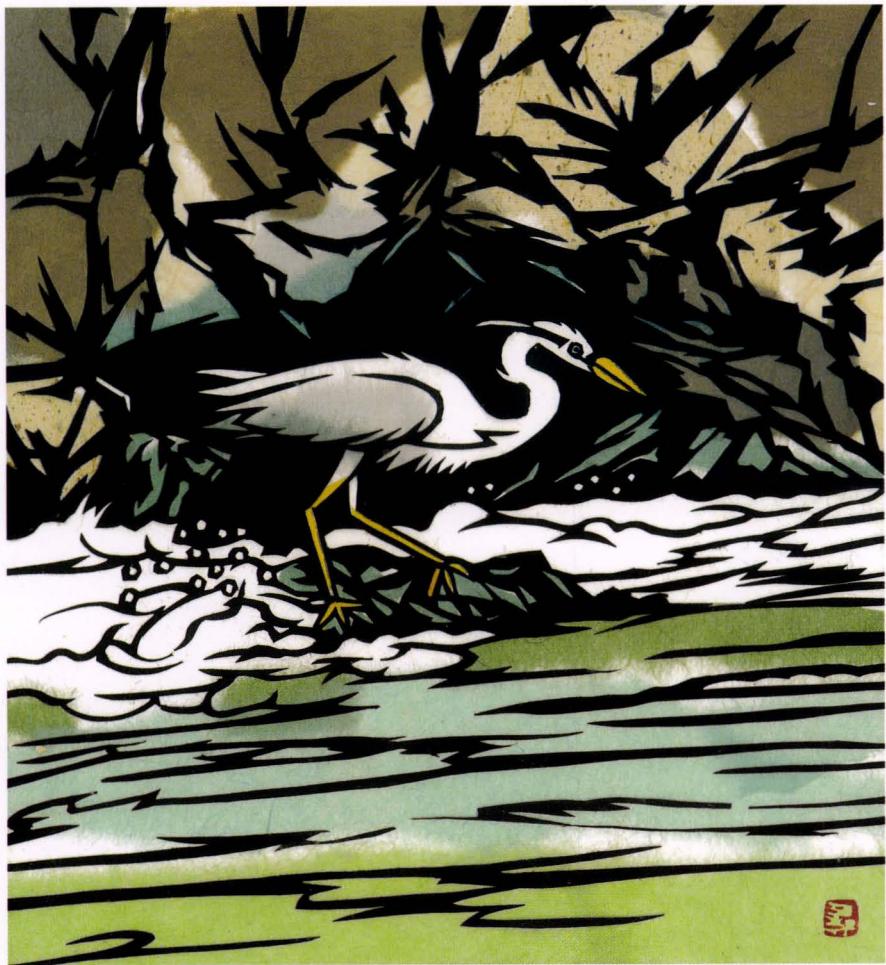


令和五年七月一日発行  
創刊大正十三年通卷一一五四号

# 川柳塔



日川協加盟

No.1154

七月号

## — 路郎賞・川柳塔賞の応募は

八月号の刷り込み用紙で —

① 川柳塔欄・水煙抄欄に6か月以上、出句した人に応募資格を認める。

② 令和四年九月号から令和五年八月号までの入選句（自分の句を出句する）から自選。

③ 八月号刷り込み用紙に5句を楷書で書き  
8月15日必着のこと。

昨年九月から今年八月の間に  
誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選択して応募して下さい。

ただし「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いないようにお願いします。

## 選者交代のお知らせ

九月号（七月投句締め切り分）から来年八月号までの選者を次の通り交代します。

水 煙 抄 川 上 大 輪

檸 檬 抄 鈴 木 いさお  
川 本 真理子 共選

川 柳 塔 社

## 「檸 檬 抄」課 題

共選

発表	月	課 題	締め切り日
5年	9月	記 号	7月15日
	10月	本 気	8月15日
	11月	裂 く	9月15日
	12月	彩 り	10月15日
6年	1月	半 端	11月15日
	2月	のほん	12月15日
	3月	泥	1月15日
	4月	宇 宙	2月15日
	5月	情 報	3月15日
	6月	ぞ ろ り	4月15日
	7月	筒	5月15日
	8月	印 象	6月15日

## 雅号

小島蘭幸

昭和38年9月、第6回近県川柳大会が竹原市の森川邸で開催されました。出席者132名、投句者77名の盛会でした。竹原川柳会の会員になつたばかりの私たち同級生4名も出席しています。高校1年生の時でした。

東京を一生知らず竹細工

冬二

課題「竹」、岡田俗菩薩選の天位句です。津山市必定金冬二氏の作品でした。

初めて出席した川柳大会で私が一番驚いたのは、出席者の皆さんの呼名です。選者が入選句を読み上げると、間髪を容れず大きな声で呼名をされるのです。個性的で独特な節回し、衝撃でした。山内静水竹原川柳会会长も普段の句会ではみせない程の大きな声で呼名をされていました。「セイスーイ」今でも私の耳底に残っています。

大会が終わって暫くして、私は静水会長に「雅号をつけて下さい」とお願いしました。しかし、まだ高校生ということで雅号はいただけませんでした。

高校卒業を間近に控えた私は、雅号は自分でつけることにしました。そこでパツと浮かんだのが小学4年生からのニックネームでした。「ランラン小鳥」、

小島君はいつも小鳥のように楽しそうにしていると転校して来た友達がつけてくれました。そうしてみんなから「ランちゃん」と呼ばれるようになったのです。「ランちゃん」の「ラン」と本名の「和幸」の「幸」を合わせて「蘭幸」は生まれました。当時、私は尾上梅幸という歌舞伎役者がいたのは知っていました。

「蘭幸」にしたのはもう一つ理由があります。友達の中には「ランこう」「ランこう」と親しく呼ぶ人もいたのです。よしいつか、「蘭幸さん」とさん付けで呼ばせてやろうと思つたのです。

高校卒業と同時に雅号をつけたのは私と、静水会長の次男「静雨」君の二人だけでした。

あれから57年、今では可愛い二人の孫が、「蘭幸さん」と雅号で呼んでくれます。

座右の句

恋人の膝は檜櫻のまるさかな

橋高薰風

私の句

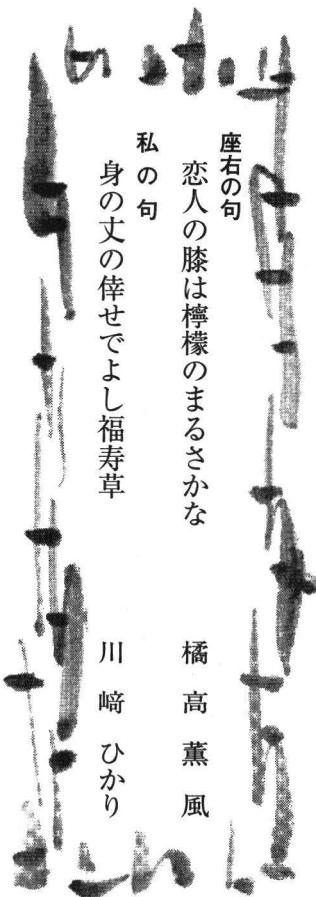
身の丈の偉せでよし福寿草

川崎ひかり

## 川柳塔七月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田尋「アオサギ・闘竜灘」

- |                           |       |      |
|---------------------------|-------|------|
| ■巻頭言 雅号                   | 小島蘭幸  | (1)  |
| 仏教から見る路郎の句                | 西村哲夫  | (2)  |
| 川柳塔(同人吟)                  | 小島蘭幸  | (4)  |
| 波稜草の花 <sup>⑦</sup>        | 野沢省悟  | (36) |
| 英語 de Senryu <sup>⑩</sup> | 吉村佑久代 | (37) |
| 誹風柳多留一三篇研究                | 山田季賛  | (43) |
| 自選集                       | 木本朱夏選 | (44) |
| 句集の森                      | 木本朱夏選 | (43) |
| 温故知新                      | 木本朱夏選 | (43) |
| 水煙抄                       | 木本朱夏選 | (44) |
| 橋高薰風句集『肉眼』                | 木本朱夏選 | (61) |
| 愛染帖                       | 新家完司選 | (62) |



無常とや猫も金魚も死んで見せ 路郎

西村哲夫

無常とは常がない事である。その表現の仕方は色々であつて良いと思うがしかし、「生が常で死が無常ではない。無常なるが故ぬるばかりが無常ではない。無常なるが故に花も咲くのである。

花が咲くこれも無常の成せる業 哲夫

檀家参りの「コマ」。

「綺麗な熱帯魚沢山いますね」金魚からグッピー・メダカまで飼つては水槽を洗い、そして死なせる事の繰り返し、一時期水槽は空っぽになっていた。中にいたメダカは玄関先の手水鉢の中。いつものごとくそのメダカ3匹に挨拶して、玄関に入ると、空っぽのはずの水槽に綺麗なグッピーみたいな奴が泳いでいる。ネオンテトラと言うらしい。青色の蛍光色を発している。「人間の目から綺麗な魚と見てますが、勝手なも

檸檬抄「サイズ」…………江島谷勝弘・永見心咲共選……(66)

一路集（「救う」）…………杉野羅天選……(70)

初歩教室「本」…………齋藤さくら選……(71)

川柳塔鑑賞…………水野黒兎……(72)

水煙抄鑑賞…………藤井宏造……(74)

せんりゅう飛行船(5)…………工藤千代子……(76)

インスピレーション・ナビ 印象吟…………新家完司……(77)

六月本社句会…………大西泰世……(78)

各地柳壇（佳句地十選／高瀬霜石・古久保和子）…………(86)

柳界展望…………(88)

七月各地句会案内…………(90)

■編集後記（ひとこと／藤田武人）…………道夫・勝弘・眞澄……(126)

座右の句

立話長うて犬も坐り換え

橋高薰風

私の句

大阪弁ひとりわでかいオノマトペ

村上玄也

無常とや猫も私もニヤンマイダ 哲夫

のですね」ご主人のこの趣味を暖かく見守る奥様がそう言う。「本当、本当に加減のはいつも人間の方です」と私。どんな魚も一所懸命生きているのだ、それを綺麗とか可愛いとか人間の勝手な見方に過ぎません。自己一如、生死一如の念仏が、慈悲の姿で私を莊厳し、私をすくい取つて下さるのである。

諸行無常——それはこの世の中で変わらないものはない、変わつていかないものは存在しないという意味である。私の存在は奇跡とは言わない、縁のつながりで存在し合つてゐるのだ。唯一真理となる仏法のみだけは変わらないのである。無常なるが故の「老病死」の苦悩は自分自身ではコントロール不可能であり、自然界もまた同じなのである。この苦悩を越える道は、真理に目覚めた仏と関わり続けること。仏のみが私を生かす存在なのであった。  
自分中心の世にあつて、ブレーキをかけ下さる仏と共生する事だ。それはまず、念仏を称えることから始まる。

# 小島蘭幸選



藤井寺市 鴨谷 瑞美子

大漁旗を振る愛の待つ港  
ユーモアじやないおもしろい句を作る  
おしゃべりな心を川柳に宿す

大阪市 谷口 義

一緒に頑張ろうと友達と話す  
ふつくらとした明日をお願いします  
半分子供半分大人のおばあさん  
知らん顔してたらその内に終る

私の人生クリーニングしておきました  
生きているのが不思議ぐらいの夏の空

大阪市 平井 美智子

一粒の涙の痕がある手紙  
春の風ですか切ない恋ですか  
葉桜の下に恋しき人の影

ビタミン剤五錠飲んでもまだ淋し  
ゴールデンウイークの無い介護現場  
泣いていていいよと雨が降っている

笠岡市 藤井智史

荒れ球を投げて受け取る妻でした  
マナー モードしてから午後の喫茶店

鶴の舞いまねてよろけている日傘  
静かにいるとすみれの紫が匂う  
さよならの五分前から好きになる  
ゴメンネとただそれだけの置手紙

大阪市 高杉 力

常連も景色になつている酒場  
あさつての方に向かつてうさぎ飛び  
ハッショタグ多めにつけておきました  
ざらついた街で終わりのないコント  
酔うて寝るこの世も捨てたものじゃない

鶴の舞い群像の中で普通が光つてる  
マナー モードしてから午後の喫茶店  
鶴の舞いまねてよろけている日傘  
静かにいるとすみれの紫が匂う  
さよならの五分前から好きになる

大阪市 高杉 力

婚活を終えて幸活へと走る

尼崎市 山田耕治

今日あたり竹の子御飯きっと来る  
桜降る下で八十五の写真

ケアホーム見舞えば遠き日の話

肩抱いた写真いつまで見ていてるの  
秒読みを聞こえぬふりで生きている

暖かくなればと墓へ行く話

堺市 杣原道夫

知らんぷりして葉桜の下を行く  
悔恨のひとつは猫に舐めさせる

逃れ来て囁みしめている水の味  
蝶が遊びに来たので暫し遊ばせる

波が手を挙げる手を挙げ返す  
波が手を挙げる手を挙げ返す

一瞬にして永遠の水の輪や

西予市 西田美恵子

力を抜いてふわっと飛べば良いのです  
洗つても青田の匂い父のシャツ

ポケットから手を出しなさい春ですよ  
私も好きあなたが好きと言つたから

お疲れさんと淹れてもらつた茶が旨い  
遺品整理こんな所に亡妹が

うつかりと空の財布を持つて出る  
借金をことわったから今も友

偏差値が足りず極楽いけません

大阪市 寺本 実

真似をした料理本家よりうまい  
ラッキーといつも努力を無視される  
お別れの手紙切手もはつてない

鳥取県 斎尾くにこ

目的地通り過ぎてた聞き上手  
持ち味は天然素材添加無し

雨バージョン晴れバージョンのファッショントヨー  
手料理の楽しさを楽しませ

博識の横で仕入れた人生訓  
一滴も残さぬ磨かれたシンク

街中がいま燃えているトマト投げ  
人々の坩堝を支配してトマト

トマト粥夏をいのちを戴いて  
ブチトマト庭でウインクしています

千の顔みせるトマトの虜です

わかるかなさやまるアイコ桃太郎

松江市 藤井寿代

黄昏れて老いを楽しむ難破船  
ミサイルが飛んでブランコ揺れてい

ウクライナ思えば日本パラダイス  
飽きが来ない星降る夜の天体シヨー

ブライドを脱ぎ捨て明日もほんやりと

生一本空けて今日を折りたたむ

岸和田市 岩佐ダン吉

四面楚歌それでもこの道を歩く  
しんどいと言うても楽になりまへん

聞く力ないけどやる気までもない  
括られたその他の中で吠えている

口癖はぼちぼち敵も作らない  
責任は私にあるとだけを言う

羽ばたきは雛鳥リハビリはわたし  
こころ安まるわが家の眠り

まだ奮退院待つてくれた椿  
気遣いもなくゆつくりと爪を切る

親友の来訪一日が早い

心なごむ友はわたしの観世音

西予市 黒田茂代

会話ある暮し 会話のない暮し  
余生にもリズム感ある時間割り  
天国は寂しくないか亡夫に聴く

風薫る今日も侍絶好調

東大に拘る訳があるらしい  
人生いろいろ好きに生きてもいい齡

数えきれぬ約束果たしたのはいくつ  
端っこに座る當てられぬように

二十四時間働く父を見て育つ  
途中下車こころ変りをしたんだね

豆苗が伸びた命をいただこう

優しい人と思うか金魚わたくしを

大阪市 田中ゆみ子  
和歌山市 柏原夕胡

7月のイベント我的誕生日  
ネコのためですクーラーは消せません

ふるさとにまだ叔母も居る友も居る  
真夏でも湯舟に浸かりたい私

プランターの花よ暑さに負けないで  
蚊に愛されながら水やりをする

香芝市 大内朝子

今更に亡父の怒声が懐かしい  
布張りの「のらくろ」鎮座する書棚  
地味な顔洒落たマスクは手放せぬ  
堅物の意外に広い夜の顔

平凡と喜びあつていい夫婦

六甲おろしにフツフツと湧く鬪志

新緑に生氣を貰う誕生日  
眼裏に心やすらぐ星の景  
五十グラム新茶を買った老いの贊

ゴーレデンウイーク友はもう居ない  
病む足が外に出たいと駄駄こねる  
一花へ老いと戦をするお洒落

横浜市 川島良子

四面楚歌それでもこの道を歩く  
しんどいと言うても楽になりまへん

聞く力ないけどやる気までもない  
括られたその他の中で吠えている

口癖はぼちぼち敵も作らない  
責任は私にあるとだけを言う

羽ばたきは雛鳥リハビリはわたし  
こころ安まるわが家の眠り

まだ奮退院待つてくれた椿  
気遣いもなくゆつくりと爪を切る

親友の来訪一日が早い

心なごむ友はわたしの観世音

西予市 黒田茂代

会話ある暮し 会話のない暮し  
余生にもリズム感ある時間割り  
天国は寂しくないか亡夫に聴く

風薫る今日も侍絶好調

東大に拘る訳があるらしい  
人生いろいろ好きに生きてもいい齡

数えきれぬ約束果たしたのはいくつ  
端っこに座る當てられぬように

二十四時間働く父を見て育つ  
途中下車こころ変りをしたんだね

豆苗が伸びた命をいただこう

優しい人と思うか金魚わたくしを

大阪市 田中ゆみ子  
和歌山市 柏原夕胡

7月のイベント我的誕生日  
ネコのためですクーラーは消せません

ふるさとにまだ叔母も居る友も居る  
真夏でも湯舟に浸かりたい私

プランターの花よ暑さに負けないで  
蚊に愛されながら水やりをする

香芝市 大内朝子

今更に亡父の怒声が懐かしい  
布張りの「のらくろ」鎮座する書棚  
地味な顔洒落たマスクは手放せぬ  
堅物の意外に広い夜の顔

平凡と喜びあつていい夫婦

六甲おろしにフツフツと湧く鬪志

新緑に生氣を貰う誕生日  
眼裏に心やすらぐ星の景  
五十グラム新茶を買った老いの贊

松山市 大内 せつ子

春色のきみにもらつたビターチョコ  
風呂敷をかぶつて化けたはずでした  
「なるほどね」って軽く背中を押されたの  
ちぐはぐな君を抱きたくなるのです  
乱れ飛ぶもの大和魂とやら

松山市 栗田 忠士

残生は神に任せて鍼を振る

父の日も仕事休まぬ父だつた

僕の手紙が亡父の文箱に残つてた

父よ母よ冥土の水は合いますか

托卵の礼は言わないホトトギス

松山市 古手川

光

子供の声聞こえはしない子供の日

設計図あるのか蜘蛛の巣を眺め

三途の川の手前でまたも引き返す

ボケちゃつた財布持たずに買物へ

A.I.に弄ばれていくヒト科

松山市 宮尾 みのり

道具みな軽さで選ぶ歳になる

コロナから割り切ることが多くなり

その昔力バヤ文庫に恩がある

後悔はすまい選んだ岐路だもの

墓まいりしだした友が案じられ

松山市 柳田 かおる

失つて大切なこと気づいたの  
生きていくための筋力つけなくちゃ  
身の丈というがサイズが掴めない  
心晴れない冤罪は晴れたけど  
なんとなく貰つておいた試供品

今治市 永井松柏

無人駅に降り立つときの無重力

偶像を毀し続ける男の手

抜かれたり抜いたりヒトも競走馬

動搖を抑えるよう爪を切る

戦好きさてはホモ・サピエンスだな

今治市 安野 かか志

廃屋のぺんぺん草が花を付け

静止画の水面を染める花吹雪

爛漫の春へすっぽり落椿

カルガモの列が塞いだラッシュ時

筒抜けの隣近所が温い村

土佐清水市 辻内 次根

五月入る庭にトンボの飛ぶ姿

更新を絶えずしてくる山の風

手渡しで手紙受け取るいい天気

有り余る時間で沖を見て帰る

四月二十二日転んだ

高知市 三 谷 松太郎

絶景の高い眺めは猫も好き

ゼレンスキーモナリザ顔になつてきた

椎の木がもういいかいと花仕舞い

詠みよみて叙事人間と心得た

ブーチンさん久米仙人が呼んでたよ

阿南市 小 畑 定 弘

三面鏡開いたままの亡妻の部屋

新樹光独りの卓のにぎり飯

行間に心変りが埋めてある

七回忌遺影の妻はまだ熟女

カーブミラーあの老人は誰だろう

東かがわ市 川 崎 ひかり

猫抱いて猫好きが寄り猫自慢

油断なくコロナそれほど甘くない

これからを明るく生きる夢を編む

これからも左脳鍛える辞書を繰る

朝採れキヤベツ美味しいと虫が保証する

北九州市 小 松 紀 子

自分史のハートに光るボランティア

頑張つてゐる満身創痍ではあるが

おしゃれより体の線をかくす服

少年よありがとう席立つてくれ

よりわかる種に祈りを深くする

唐津市 坂 本 蜂 朗

平等に皆美しい厚化粧

検査値は高め安定美味い酒

傷付けず傷も付かない片思い

惚れた人美人でしたよ皆故人

異状なしの結果に杖を置き忘れ

熊本市 杉 野 羅 天

戦闘へり即死救えぬのが疑問

世界平和背負う日本の桜花

請求に合掌とある面白さ

戦争のミスは雁首まで晒せ

逆境を薔薇の優雅に支えられ

札幌市 小 澤 淳

開花日の締めは根室に稚内

畑産の香りない独活酢味噌和え

京ブキはわが坪庭で群生す

わらびぜんまい古代人から贈りもの

タンポポの黄は可愛くて外来種

黒石市 石 澤 はる子

誕生日力が入るスクワット

菜園へ今年も増やすナストマト

朝の日課折り込みチラシまず点検

お茶一服チヨコ一粒のサプリメント  
夕暮れの鐘に急かされ草むしり

黒石市 北山 まみどり

朝霞市 前田 洋子

また風に乗りそこなつて現在地  
ときどきは風の温度を確かめる

生温い風には少し飽きた頃

行く先のひとつがあなただとしても

桜さくらサクラあつけなく過ぎる

弘前市 稲見 則彦

越谷市 久保田 千代

スカートをひらひら揺らす風が好き

ソロキャンプ炎の先に君いそう

ショパン聴くたつひとりでショパン聴く

四月の計桜もとうに散りました

桜からの詫び状続く津軽 春

塩竈市 木田 比呂朗

東京都 川本 真理子

5類とや胸にしみ入る生ビール

少しずつシナリオずれる昨日今日

終章を磨くカルチャーアート

グルメ旅などと家のクーデター

今朝もまた妻と一緒にショータイム

上尾市 中村 伸子

八王子市 川名 洋子

A.I.が何でも造り出す不気味

夫入院知らない電話無視できぬ

入院へ届け忘れの乾電池

コーヒータイム娘のお土産と孫話

免許返納して良かったと思う事故

父譲り痩せた体も呑めるのも  
好きだったジジの魚拓を飾る孫

独り居は自分で私守り立てる

野良ネコはちゃんと独りで生きている

戴冠式ライブで見てるビール手に

甘い物あるよと誘う友が出来

句読点なくて多弁なティータイム

老人が口癖にする佳き時代

渋滞のテールランプのニュース見る

長生きをしそうじっくり策を練る

改行をしよう散文の人生

ぜんまいを巻く方式で生き直す

ボールペンこどものような字になつて

老化とは一を立てれば二が立たず

そうだまだあるかもしだね青い山

脱マスク心ゆくまで花と風

風任せなるようになる老いの恋

導眠剤の代わりにと罪と罰

大谷とふる里一緒に鼻高い

抱きしめてほしい時ありでも独り

横浜市 菊地政勝

犬山市 金子美千代

帰省して時代遅れの里に会う  
庇い合い分かちあいする老夫婦

急げない歩行速度に老いを知る  
物価高老後の資金揺さぶられ

今ここにある幸せに気がつかぬ

各務原市 喜多村 正儀

犬山市 関本かつ子

様子見をしながら出番待つコロナ

見送りますます深い母の海

ふる里の橋のたもとにある初心

来し方を問うふる里の山と川

雪どけの山山遠い人思う

可児市 板山まみ子

豊橋市 西郷紀美代

卒業後七十年のクラス会

マスク取れようやく旅へ出るプラン

そのうちが禁句になつた高齢者

期限切れそここにある備蓄品

災害があつても日本ワンドフル

名古屋市 山本三樹夫

愛知県 早川遡行

宇宙開発いよいよ月に国旗立つ

生きよと叫ぶ咲くひまわりに陽があたる

摩訶波羅密頭を空に朝の経

ジクジたる思いの政治選挙來た

偏西風望まぬ黄砂持つて来る

抜いても抜いてもドクダミのど根性  
通販へ頭を冷やす三四日

コロナ解禁さあこれからへ痛む膝

通販が祝つてくれる誕生日

住み慣れたこの地で最期までいたい

当然のように単身子も五十

三世代久方ぶりのバーベキュー

父と子の会話を繋ぐのもビール

マスク無しの子供生き生き遊園地

遊園地優しいパパの多いこと

覚えない夢に疲れて冴えぬ朝

不便さも承知でスマホ置いて行く

くり返す歴史の中にいる不穏

どこでどう間違つたのか子の育ち

誕生日サービス券でとるランチ

些細なことに憤る歳になり  
薔薇の字は書けなくていいバラである

元気だと元気を出して言ってみる

目ぐすりを差しても変わらない日本

慘状へ当り障りのない支援

石川県 堀 本 のりひろ

びっしりと敷き詰められた妻の愛

山の神にマスクの下で舌を出す

ハーモニー微妙にずれる私たち

ズーと耐え生きていきますこれからも

得て勝手やつてきたから独りぼち

奈良市 東 定 生

うわさ話聞き飽きている露天風呂

戦争は望んでいない自衛官

万博に行けそうもない現金派

古希過ぎて埋まる手帳に酔いしれる

三年分の話が弾むノーマスク

奈良市 大久保 真 澄

尾を振つてあなたと散歩しています

帰つて来いと子供に言つたことがない

眠れない夜の拷問足が響る

閻魔帳も改ざん自在脱ハンコ

自転車にヘルより欲しい免許証

奈良市 加 藤 江里子

ローレライ口ずさんでた亡母のこと

貴女といふと採点されているよう

ゴングは鳴る地味な私の暮らしにも

近くなる宇宙遠くなる平和よ

奈良市 高 橋 敬 子

思つたとおり美術館には客は居ず

奇街わぬ昭和の絵画波長合

連休の無聊を救う招待状

解説を読んでから行く能舞台

連休終り平常心になる財布

奈良市 辻 内 げんえい

金婚式子らの計らい同じ場所

婆娘孫みんな丸顔心根も

好物のタケノコのため山椒植え

喜寿夫婦駆け巡り行く観光地

日暮れまで立ち話してまた明日

奈良市 山 本 昌 代

時どきはにこつと猫をかぶります

割り切つて今は昼寝の時間です

スグおこりスグにわらつて日が暮れる

マイペースもいいじゃないのと老いの道

「ひのとり」に乗つたと孫のご報告

奈良市 生駒市 飛 永 ふりこ

嘲りが脳の霞みを押し開く

拘りがミルクココアに解けていく

亡き友のアマリリスです根が強い

下地ある方はどこでも自然体

三年ぶり三日外出ああしんど

香芝市 山下じゅん子

奈良県 中原比呂志

保護ネコが母を見守る一軒屋  
心配事解決した日の朝風呂  
うさぎ島へ卯年生まれの子と孫と  
バランスボール使いこなしてお家ジム  
嫁が来る気合いを入れて掃除する

桜井市 安土理恵

奈良県 中堀 優

影に日向に夫の脇を支えねば  
風呂あがり夫の白い爪を切る  
あと少しせめて越えたい父母の齢  
実山椒青青と煮て夏を呼ぶ  
ビーズのような揚羽の卵見てしまう

奈良県 安福和夫

奈良県 長谷川崇明

意氣揚々繁る若葉に励まされ

シルバーの剪定作業気が抜けぬ

脚立踏む足許ぐらり補佐が要る

耕運機じいは助手席孫主役

施肥撒布今はドローンが飛び廻る

奈良県 谷川憲

奈良県 渡辺富子

尽きぬ好奇心AIには負けぬ

読むたびに発見のある愛読書

黄砂来て大和三山見えぬ春

喧嘩しても加減知つてた昭和の子  
顔のない肩書だけが歩いてる

今晚も想い出語り眠ります

言い切つて妥協の道を埋めたまま  
蜘蛛の巣にもがく自分を見た寝汗  
この椅子に座りなさいと父正座  
連休は畑を耕す夫婦いて

帰省車に餃子豚饅匂う混み

階段で年だと気づく昨日今日

貴方ならきっとやるはずやれるはず  
のど自慢妻が好きなら俺も好き

年の数かける百歩は歩こうよ

頼んだぞと言われた父の顔浮かぶ

戦止めぬ地球氷山の涙

聞けブーチン戦争による平和なし

ステダンもまた過ちの戦する

核というスキル目指して民は飢え

人の欲これ程怖いものはない

奈良県 渡辺富子

友達のひとりふたりとホーム入り

笑えない思い違いが多くなる

二人しておぼろの記憶つなぎ合う

二年先の約束は無理ふと思う

今晚も想い出語り眠ります

和歌山市 上田紀子

京都市 藤井文代

多国籍食材頼る明日不安  
本当の私写さない鏡

ローギアに変えよう人生ゆつたりと  
以下同文昨日と同じ明日が待つ

海見るとテンション上がる海が好き  
柔らかく的を外して聞いてみる

和歌山市 松原寿子

閉じ込もり流れる日々にある不安  
生きる欲ないが命の尊さよ

落ち込めば犒う仲間いてくれる  
聞き流すだけでは前に進めない

橋本市 石田隆彦

コロナ抜け群がる人をのむホール  
ワクチンで嫌いな注射五回打つ

村起し地産地消の食まつり  
飾らずに支えてくれた妻感謝

微笑みは人生の花日々咲かす

京都市 清水英旺

値上げ値上げ食後のデザート姿消す

水たまり飛びそこなつてああ年か  
ヘルメットいらぬ出費と妻ぼやく

戦争が好きな御仁がいる限り  
お役ご免マスク路傍に無残なり

大勢の中独り居るより尚淋し  
ポケットの中すぐに出せます「ありがとう」  
泣かされたことみな忘れ今ひとつ屋根

捨てるより溜めること好き貧乏性  
電話は今悪い奴等の入口に  
大勢の中独り居るより尚淋し  
ポケットの中すぐに出せます「ありがとう」  
泣かされたことみな忘れ今ひとつ屋根

京田辺市 北野クニオ

私のアナクロニズム昭和流  
長生きの秘訣と聞かれ趣味と言う

借りた恩キッチリ返す眞面目人  
健康とヤル気があれば夢叶う

鯉幟今日の天気にありがとう

長岡京市 山田葉子

母卒業遊べる人になれるかな  
鳴鳴くまだまだ下手と耳します

楽しい日声が大きく高くなる  
居るだけで和む可愛さ大の徳

誕生日メール電話に癒される  
臆病が出会い求めてひとり旅

八幡市 武田悦寛

老いの坂ふたつのいのち杖と杖  
飛べるかなやさしく誘う水たまり  
雨の日は濃いコーヒーと文庫本

気まずさを忘れるように米を研ぐ

大阪市 東 敏 郎

大阪市 岩 崎 公 誠

さらさらの血に入れ換えるジェネリック  
口笛を吹いて初音に挑む苑

立ち呑み屋袖擦りあつて友となる  
アブリには魔力が潜む知らんけど

石頭歳を重ねて軽くなる

大阪市 石 田 孝 純

大阪市 岩 崎 玲 子

二人にひとりだからあなたは大丈夫  
病室で三食付きの雨宿り

一回休み双六だつて盛り上がる  
病氣ですが病人ではありません

メルカリで病を越える靴を買う

大阪市 磯 島 福貴子

大阪市 内 田 志津子

国際色豊かに活気観光地  
スーパーに無い温もり通う個人商店

被災地で尊い汗のボランティア  
北から南地震のニュースいつ我が身

早朝も苦にならず見るショータイム

大阪市 井 丸 昌 紀

大阪市 宇 都 満知子

保護色でみんなに紛れ枯れてゆく  
錯覚が覚めずあなたはまだ奇麗  
やさしさと誤解されてる気の弱さ  
ほいほいとベルト緩めた飲む誘い

本になつたら立派に見える僕の駄句

値上げ波ざんぶとかぶる高齢者  
スマホには怖いおばけも棲んでいる  
不満ない健やかな日は茶もうまい  
値札つく土産もらつて気軽なり

月末は特売並ぶうちの膳

マスク取り顔一杯に受ける春

サークルの役が決まつて惚けられぬ

今日ひとつ私がんばる事探す

疲れました三本立ての夢を見て

純でした文通してた今の夫

大阪市 宇 都 満知子

友卒寿記憶減退くやしがる  
遠まわりしたけど晴れて華燭の典

アンバランスな二人おやつはプリン  
言訳は短く提言は長く

かさついた指先眺めよう生きた

大阪市 宇 都 満知子

連休に笑顔残して子が帰る  
椅子持つて少年野球の応援

木のベンチ漏れ日揺れて誘います

ふくらはぎ覚えています金剛山

ふた月を年金だけでの窮屈

マスクしていないと落ちつかぬ私

「専土防衛」治山治水も万全に

ありがたいことだ水の豊かな国  
句会の日は診察予約すらします

二人とも忘れていました金婚

大阪市 江島谷 勝弘

武器でなく話し合いして痛み分け

あ夕陽人間小さいなど思う

じつと手をそんな詩歌が訴える

盤を磨くとこころだんだん澄んでくる

大空のこころ縹く薰風忌

大阪市 大沢 のり子

耳鳴りが凄い 明日は低気圧

あんたが大将子に意地張るのやめました

仮面つけ宝石盗むとは錯誤

自己責任とれずマスクも取らぬ人

入院したつもりで今日は出歩かぬ

大阪市 近 藤

外遊で金をばら撒き民飢える

異次元は軍拡予算だけだった

島壊しトマホーク基地草伸びる

Jアラートテレビジヤックで煽り立て

憲法を總理無視していいのかい

大阪市 坂

先生にせめて散歩は五十歩と

真つ直ぐに歩いたはずが何で此処

新しい事始めたら止められん

傘寿会飲むは歌うはみな元気

子供らが遊ぶことから教えられ

大阪市 川端 一歩

淋しくはないかと月が添うてくる  
酔い醒めの水が昨日を責めてくる  
ピンク色のハンガーに干す地味な服

滲み出る涙を吸つている枕  
温もりをあげると猫が寄つてくる

母は言う一喜一憂しなさんな  
一番水供えて母を恋う夫  
ひも切れた靴は古里恋しがる  
枯れ井戸に水わたくしは生きている  
再会はピアニッシモの雨の朝

大阪市 奥 村 五 月

財布には諭吉たっぷり気が強い  
ブーチンが先に地獄へ送る金

あの世では妻より恐い閻魔さま

若い時もてた私も白い髪

連休も何處も行かずに犬の守り

大阪市 裕 之

淋しくはないかと月が添うてくる

酔い醒めの水が昨日を責めてくる

ピンク色のハンガーに干す地味な服

滲み出る涙を吸つている枕

温もりをあげると猫が寄つてくる

大阪市 高 杉 千 步

大阪市 原 田 すみ子

独り言しつかりせいとしか言わぬ

お元気ね笑つときます車椅子

断捨離に遠く施設の片隅で

せつかちはいないホームの夕餉どき

少しずつ極楽見えて笑い皺

大阪市 田 中 廣 子

大阪市 平 賀 国 和

雨の中園遊会も大変だ

葉桜も雨に打たれて美しい

ネモフイラの優しい色を見ましたか

イギリスの戴冠式はおごそかに

能登地震続く余震は気の毒だ

大阪市 津 村 志華子

大阪市 降 幡 弘 美

地獄極楽みんな此の世の絵空ごと

蛇口から进るのは命の賦

青い風と日向ぼっこをする至福

近景にぶどう園ありケアハウス

何はともあれ九十七の誕生日

大阪市 中 井 蓼

大阪市 宮 崎 シマ子

無になれず凡人のままのうのうと

呑みましょかたまには妻に誘われる

御神木守る庭師が草を抜く

とりあえず夫がそばに居る安堵

読経より雑談長いお住職

小さな棘ひとつに笑顔消されてる  
連休の人出はニュースで味わう

日常マンネリ里は田搔きの頃

仲直りコンビニケーキ役に立つ

夫を見る友の話をじっと聞く

薬師寺に瓦を寄進幸祈る

薬師寺の落慶祝い二千人

コロナ明け五月の空氣清清し

ベランダに子雀も来て春祝う

三年振り同窓会の知らせ来る

血压は正直ですね不摂生

リバウンドすぐする部屋と体重と

探してる時間が長いお買い物

どんな日も楽しかったと書く日記

捨てる対モツタイナイのせめぎ合い

日向ぼっこする事ないので耳そうじ

同居する事に嫁が一番先賛成

一日でいい娘の家へ泊りたい

因果とも思わずホーム四人の大声よ

少し助けてほしい子よ孫よ

大坂市 山本 加おり

記念句集配り旧交を深める

一気咲き躊躇に牡丹花水木

ミニ畠に大玉葱が鎮座する

皆同じ連休前の ATM

妹のおつむ撫でなでする二歳

大坂市 横山里子

悩んでる時間無い無い締め切り日

好き勝手言える友達居てくれる

ひとり居の友の笑顔が背中押す

ウクライナ平和な暮らし見えて来ず

連休ではしゃぐ日本まだ平和

堺市今井万紗子

9条の歯止め外した防衛論

政権とへだたる僕の防衛論

台湾有事あれば沖縄即戦場

兄二人甲種合格して戦死

ギブミーとジープ囁んだ子らが居た

堺市柿花和夫

咲いて散るまた来年と百寿まで

もう走るまいゆつくり古いを樂しまん

白内障の癒えてあらたか風光る

タンポポがミサイル發射する五月

なんか変と魚介が騒ぐ日本海

堺市齋藤さくら

9条の歯止め外した防衛論

政権とへだたる僕の防衛論

台湾有事あれば沖縄即戦場

兄二人甲種合格して戦死

ギブミーとジープ囁んだ子らが居た

堺市坂上淳司

咲いて散るまた来年と百寿まで

もう走るまいゆつくり古いを樂しまん

白内障の癒えてあらたか風光る

タンポポがミサイル發射する五月

堺市澤井敏治

父の背も母の心も広かつた

昭和史の罪を令和に生かさねば

日記帳私だけの小宇宙

父の背も母の心も広かつた

顔と名が分かった頃に閉鎖され

鏡見て笑う練習しています

8000歩あるいて自信つきました

また違う景色見たくて遠まわり

9条の歯止め外した防衛論

政権とへだたる僕の防衛論

台湾有事あれば沖縄即戦場

兄二人甲種合格して戦死

ギブミーとジープ囁んだ子らが居た

堺市今井万紗子

咲いて散るまた来年と百寿まで

もう走るまいゆつくり古いを樂しまん

白内障の癒えてあらたか風光る

タンポポがミサイル發射する五月

父の背も母の心も広かつた

9条の歯止め外した防衛論

政権とへだたる僕の防衛論

台湾有事あれば沖縄即戦場

兄二人甲種合格して戦死

ギブミーとジープ囁んだ子らが居た

堺市柿花和夫

咲いて散るまた来年と百寿まで

もう走るまいゆつくり古いを樂しまん

白内障の癒えてあらたか風光る

タンポポがミサイル發射する五月

父の背も母の心も広かつた

9条の歯止め外した防衛論

政権とへだたる僕の防衛論

台湾有事あれば沖縄即戦場

兄二人甲種合格して戦死

ギブミーとジープ囁んだ子らが居た

堺市源田八千代

堺市内藤憲彦

河内長野市木見谷孝代

うれしそうにコロナ禍あけて咲く野バラ  
今日もまた同じところに居る感謝

カズレーザーに負けないよう辭書を練る  
都合よく呑み屋見つけた俄雨

無になあれ木魚たたいて般若経

池田市太田省三

河内長野市坂野澄子

エコカーのラベルを貼った三輪車  
交代の野手が防いだサヨナラ打  
坂道が濁流となるニュータウン  
十五ポンド軽々投げる喜寿の腕  
旅先の地震あわて宿探し

貝塚市石田ひろ子

河内長野市中島一彌

息子とのドライブ何時も病院へ  
価値観の違い昭和の遠くなる  
仲良しの姉妹も老いが遠ざける  
誕生日の祝い忙し孫曾孫  
生きる欲の応援貰う五月晴れ

河内長野市大島ともこ

河内長野市藤塚克三

お早うとスマホと共に動き出す  
想像がつかぬスマホの無い暮らし  
トリセツはカタカナばかり高い壁  
タツチ一つで世界が僕を覗いてる  
スマホ依存高齢者までひたひたと

古家の整理孫子三代で  
亡夫よゴメン維持管理が無理になる  
町に寄付シェアハウスで役に立つ  
後鳥羽上皇の歌碑に別れを告げ  
いつかまた旅人で来るふる里よ

手のひらに命の糸ももう朝  
手後れか医者が真顔で見るカルテ  
もみじの手しかと握った夢の種  
子を守り生きぬく父の分厚い手  
あの世でも一緒に妻の手を握る

くたびれたラジオお伴に野良仕事  
野辺の幸摘んだ土筆の卵とじ  
O B会誘いが来るとシャンとなる  
フレドロス出す国あれば飢餓の国  
50年闇白の座は遠ざかり

手の内を明かした裏も読み取られ  
痩せ我慢意地つ張りなら妻に勝つ  
軍事化の予算あやふや鯖を読む  
悪友には愚痴も自慢も聞いてやる  
スキヤンダル逆手に取つて芸広げ

河内長野市 村上直樹

高槻市 島田千鶴子

前進も後退もして今がある

常識で計りきれない二刀流

オカリナの音に誘われて河川敷

八十の壁に向かって助走中

もやもやが消えて軽くなる歩幅

河内長野市 森田旅人

高槻市 初代正彦

追う夢のある幸せよ道続く

海に来て尾びれのあたり痒くなる

散骨の後は魚にかえります

星のない海も癒やしの香を放つ

バランスをとつて晩節水満ちる

吹田市 太田昭

高槻市 富田保子

越すことも越されることも無い孤独

ライバルを越す助走路が短過ぎ

冷奴ほどの軽さで愚痴を聞く

底辺に生きて片意地張り通す

駅弁を開き車窓の春を食べ

悲しいか哀しいなのか辞書をまた  
お元気ですか直訳すれば生きてるか  
季節感なくなり匂の香を嫌い

三才児自分の意志でマスク着け

老いたかなテレビが怖い臆病に

高槻市 鳥居宏

月日の経つのが速いと友とボヤキ合う

頭を垂れて折る形で見るスマホ

動けるうちは動けと迫る予定表

カーテンを遮光に替えて寝坊癖

マスク必須がなくなりワイワイが戻る

子供等も思い出すだろ桜道  
鶯はまだ下手だねと茶を入れる  
親鸞の声響くよな花吹雪  
杖を曳く一步一歩のありがたさ

友ありてブーチン和解のチャンスなり

高槻市 片山かずお

高槻市 富田保子

父さんも丸くなつたと子の不安

夢で逢う妻は二十歳の初心なまま

ガマンなんて止めた卒寿はすぐそこに  
コップ酒をお猪口に替える物価高  
マスク派で通す手抜きの隠れ蓑  
父さんも丸くなつたと子の不安

夢で逢う妻は二十歳の初心なまま

高槻市 松岡 篤

豊中市 松尾 美智代

泣き虫の娘も遂に子の親に  
ショウヘイを朝晩に聞いている

推すというより押し付けた自治会長

ピンチには神に頼むしサプリ飲む  
鍵火元夫婦でチェックし合う老い

豊中市 池田純子

豊中市 松田蟻日路

母の日は自作自演のちらし寿司

裏話聞いて偉人が近くなる

いつだって嬉しいハンコ宅急便  
置いてくぞ兄ちゃんなりの激励法

補助輪がまだ付いている四十路

豊中市 上出修

豊中市 水野黒兎

A1もびっくり聰太打つ一手  
コレも買いアレも買いたい初賞与  
山もあり谷もあつたが悔いはない  
六年振り新刊を手にハルキスト  
大統領見事演じるゼレンスキー

豊中市 藤井則彦

豊田市 中村恵

うぬぼれも多少は持つてこそ元気  
古本屋で名著が欠伸する輪廻  
咳くしゃみもマスクを付けてからにしよう  
お祝いはひつそりでよい米寿です  
人並のお洒落をすると呆けも去り

マスク外し春の息吹に身が躍る  
いたどりの酸っぱさこれも里の味  
新茶飲む最後の滴までを飲む  
悪筆は直らずせめてもの楷書  
卒寿へと師の句を囁んで消化する

朝夕に独り占めるペアカツブ  
滾る汗浴びてわたしも熱くなる  
時効になるまで許し乞うている  
年輪か律儀に贅肉を重ね  
新しい風が明日はきっと吹く

年賀状に会いたいとあり友と逢う  
楽しくて三十年が飛びました  
春の陽が今日は心をあたためる  
庭の草引きかわいい花は残しとく  
一気に庭を華やかにするアマリリス

豊中市 松尾 美智代

富田林市 山野寿之

満開の桜にスマホなど笑止

追い風がそっと背を押すきっと吉

当つたら人間狂う買わぬ籠

氣兼ねなくたつた一人のコップ酒

お雛さん終い甲冑鯉のぼり

寝屋川市 川本信子

あと十年被れる帽子買いに行く

タンポポの綿毛気になるGPS

孤独死が頭を過るそんな夜も

生んだのはヒトです核もロボットも

老いたから子に従えという遺影

寝屋川市 伊達郁夫

合掌の形で蓮は泥に咲く

空き缶をグシャリと今日の負け戦

うつかりと歳を忘れて蝶を追う

もう気楽昨日も今日も負けました

酒飲んで身体の調子確かめる

寝屋川市 富山ルイ子

昼寝朝寝夕方寝てばかりいる

冬物と夏物の入れかえはまだ

三時迄ねむられぬのは今もまだ

神様が助けてくれているのです

昔昔すべて忘れて恥ずかしい

月面に届く手前でああ無念

じいちゃんの鎧兜と久し振り

五月人形年中出しておこうかな

通院もきつちり守るヘルメット

川柳は長寿の元と誘い込み

寝屋川市 廣田和織

行動の全てカメラににらまれる

一輪の花も咲かさず終活期

そのうちにきっと着られるMサイズ

約束は忘れてしまうからしない

樹木葬お勧めですと枯れ木立

羽曳野市 磯本洋一

行く水と親の教えは逆らえず

優しさと笑顔を和えた母料理

我が家には派閥がなくて皆笑顔

駄菓子屋さん子供等集う宝島

月回る戦いのない地球なれ

羽曳野市 宇都宮 ちづる

到着ロビー三年振りの孫を待つ

テンションが上の鏡だ美容室

弁当作り今日で終りに子から札

卒業式ばあも来るかと言つてくれ

土日でも宅配便は来てくれる

寝屋川市 平松かすみ

羽曳野市 徳山 みつこ

東大阪市 佐々木 満作

やつぱり嬉しい母の日の花束  
キリキリ舞いだ郵送事情きびしくて

朝ドラの土佐弁リビングに染まる

多くのご縁いただき孫の金屏風

ヒト科の愚行はいつまで続くのか

羽曳野市 藤原大子

枚方市 谷英也

値上げラッショ年金減つていく憂き目

神様にすがつてみたり恨んだり

あイタタタ起居に輪唱老い二人

時々は青春たぐる写真帳

羽曳野市 三好専平

枚方市 谷英也

正解のある道人間にはあらず

頼つて生き頼られて生き合掌し

アートから反逆児生あれ世を変える

白寿まで生きたし声の涸れるまで

コインランドリーの屋根の上の猫ねむる

羽曳野市 吉村久仁雄

枚方市 藤田武人

四面楚歌筋通すのに丁度いい

最後の我通し散骨準備する

小百合の推しキリンビールを選つて飲む

バランス崩しても平和へ前のめり

声枯らし叫びつづける非戦論

もう少し令和を泳ぎたい八十路  
子の未来過度の期待はしないこと

社の裏も表も熟知する古参

人生の節目に置いてきた微罪

健康であれば贅沢は言うまい

東大阪市 西村哲夫

尖鋭の思想家きっと読書好き

人生の余白に欲は似合わない

核シェルターどんちゃん騒ぎ出来ますか

夏の夜に河内音頭が聞こえない

断りの下手さが苦惱連れてくる

枚方市 谷英也

ランドセル親の心が踊ってる

いいきかすこの坂越すとパラダイス

気はせくがゆつくり歩め八十路過ぎ

姉といもうとボケとつつ込み花見酒

台風も粹なことする空気澄む

枚方市 藤田武人

リビングでゴロゴロ掃除したいのに

下町に生まれ新居も下町に

ストップを付けてくれよと虹に言う

A.I.の審判きっとおもろない

二次会の誘い一度は嫌と言ひ

藤井寺市 太田 扶美代

あちらこちら義理欠きながら生きてます

退院祝い空気清淨器を所望

私の勝手でゆつくりと歩く

素敵な女老いを隠そともしない

歯止めしたのは自分の中の大人

藤井寺市 鈴木 いさお

外出週5お爺ちゃんよく遊ぶ

五類とや酒場がこんなにも流行る

菜の花忌また読む「坂の上の雲」

世話人の汗が支える趣味の会

盛り付けが美しすぎて箸が出ぬ

藤井寺市 吉田 喜代子

家売つて喜んで入居した友が

ホームでも安心出来ぬ終の家

眠れぬ夜柳友の句に刺激され

好きなコーヒー三度に一度は止めておく

コロナ無くなつたわけでないマスク

松原市 森 松 まつお

渋滞のニュース静かな街で観る

開け放つ窓へ花粉と黄砂くる

散歩道不機嫌そうな犬に会う

ややこしい事案諭吉に頼もうか

近頃は昼を過ぎると草臥れて

箕面市 大浦 初音

長く生き油も切れて鎬もぐく

かたい石もやさしく包みバーの勝ち

バラのつぼみ数える至福春の朝

深紅のバラ部屋がたちまちはなやかに

駆ビアノさりげなく弾く格好よさ

箕面市 酒井紀華

待つと言う孤独をしつた老いの恋

猫が逃げ男がにげた台所

しあわせな人はゆつくり返事する

ペダルこぐ風を味方に逢いました

恋おおきおんなのさがにふたをする

箕面市 出口セツ子

贈呈の優しき本に夢中です

優しさに感謝宝になつた本

川柳の輪の温かい中に居る

口下手で上手に礼が言えません

人が好き心触れあう瞬間が好き

箕面市 中山春代

おおぶりに切つた筍祖母を恋う

カラーペンの絵手紙「イチゴありがとう」

逆上がりできてたころが華だつた

思いでを食べる故郷の板若布

断捨離を笑う五月のウインドウ

箕面市 広島巴子

神戸市 上田和宏

新緑を浴びて心身リフレッシュ

初物の枇杷おいしいと孫の笑み  
孫の武者ちまき菖蒲湯柏餅

物価高目が点になり手が出せず

コロナ5類何だか不安マスクする

八尾市 寺川 はじむ

神戸市 奥澤洋次郎

治る気にさせる名医の声を聞く  
補聴器を外し聞いてる妻の愚痴  
的少し外して風を見定める

数えたら真ん中辺に居る安堵

珍しい人が立ち寄る選挙前

八尾市 村上 ミツ子

神戸市 城戸誓子

コロナ五類に移つてもかわらない  
久し振り風邪をひく咳とまらない

知らんけど言うて教えてくれるひと

お札のハガキやつとこさ書けました

申告敬遠にして一先ず通過

大阪府 米澤淑子

神戸市 輿水弘

生きていくリズムに合うてくる歩幅  
平凡な暮らしに初夏の陽が匂う

ひと呼吸おけば景色も變るのに

形悪いが味で勝負の露地苺

財産無いが曾孫六人宝もの

辻の向こう今日も一つの新発見

緑の山まちの騒音吸い上げる

主知るや置き去りつゝ満開に

失敗談包まず出来る日が來たる

闇バイト素顔はみんな普通人

神戸市 上田和宏

ぼやいてる間に過ぎた五十年

ああ上野駅日本の明日が消えてゆく

一撮みの塩の加減にある文化

路地酒場行つてみたいな宝くじ

なんだかだ言うも確かな血の絆

夕焼けの向こうに透ける過去未来

褒められたレトルト料理恥ずかしげ

母さん化している気象予報士も

プライスレス子の描くママの肖像画

ひと言が沁み入り恋の幕は開く

神戸市 輿水弘

老いの勘まぐれ当たりで止めておく  
太い指こぶしはデカイよりも  
ネクラなのにいつも明るくムリをする

デジタル社会アナログ情緒休み処

地球にはプーチン諭す人おらぬ

神戸市 近 藤 勝 正

神戸市 能 勢 利 子

休眠がないか確かめ念の為  
五類でもマスク着用ひげ隠し  
自己判断民主的だが難しい

自己判断決めてくれると楽だけど  
出国のラッシュユーテレビでああゴールデン

神戸市 斎 藤 隆 浩

無理するなそれがそもそも無理なこと  
何故余るちゃんと飲んでる風邪薬

へそくりの諭吉そのままブックオフ  
おばちゃんと呼ばれうつかり返事する  
あと10年ラケット握り走りたい

神戸市 敏 森 廣 光

額祭を書けるし飲める大丈夫

神戸の五月楽車の音風に乗る

五月のバラためらう僕の背を押す

私も妻も七十年ものヴィンテージ

幾つになつても邪魔をしてくる正義感

神戸市 富 永 恭 子

抜けていく髪に未練の白髪染め

身を守る術を覚えて句を迷う

核心を突けばロマンが遠ざかる

生真面目へ魔が差すという落とし穴

握る手を信じカイトは舞い上がる

新大久保死しそうな人の波  
東京では渡りきれずに赤になる

並ぶ列きちんと美しい

富士山見え旧友ふたりにも会えた  
四年振りの旧友の背も丸かつた

神戸市 松 倉 正 美

過疎の町此見よがしに武者幟  
二刀流晚酌済んで柏餅

なめたらあかんカメラは全てお見通し

ミサイルを父子で楽しむ変な国  
ヌーマママも良いがショーヘイママも見て見たい

神戸市 山 崎 武 彦

筋通す男と飲むと肩が凝る

黙祷の一分ぶれず立てますか

飴と鞭使い分けてる子の躰

一日を二食にしてもラ・フランス

ほんものの愛は確かめ合わずとも

明石市 糜 谷 和 郎

トンネルが長い誤解はまだ解けぬ

絵も余白残した方がいいらしい

うるさいがみんな生きてる音なんだ

人が好き仕種さが好きで憎めない  
日溜りにほろほろ溶かす冬のウツ

芦屋市 荒牧孝子

尼崎市 羽奈和子

調子者ほめられ育つ私です

好きな人きつと会えるよあの世でも

図書館でハッと横顔亡父かと

おいぬようプライドずっと捨てません

真面目に生き怖いものない我が老後

芦屋市

新 阜 義 明

シユウカツの就終あなたどちら派で

比較する他人よりまず過去自分

成るようになるしかないよ座る腹

丈夫安作業衣料の年金者

登れずもキリマンジャロはコーヒーで

尼崎市

近 兼 敦 子

ピカソ展わからぬけどおもしろい

二十年前のそば屋に手をたたく

ビル風に慣れてないので地下潜る

スマホでピッ便利さ知ったお支払い

子のお古ハイスペックなパソコンで

尼崎市

永 田 紀 惠

女より女の色香出す女形

イケメンを見ると乳房が上を向く

母を捨て女に還りたい時も

独り居は女の方がサマになる

モト彼をスマホに五人飼っている

口紅の広告も出たこれからだ  
鏡見る時はほほえむことにする  
歎異抄ひらかないまま逝きそうだ

おばちゃんでも合うヘルメットありますか  
酒タバコ知らないままに死ぬ私

勝った日の六甲風息が合う  
人の靴ばかり見てる靴屋さん

雑菌がうじやうじやいてる抱き枕  
砂時計のくびれしつかり時刻む

ロボットは人を疑うこと知らず  
尼崎市 藤 井 宏 造

血圧は測定場所で大差ある

桜散る別れの音をしのばせて

検査値を気にし節句に柏餅

連休も体力維持とジム通い

懐かしい歌しつかり昔連れてくる

尼崎市 藤 田 雪 菜

一人ぐらし無理になつたと友ボツリ

コンクリートの割れ目に育つのも運か

明るい日差し家具の汚れを指摘する

心配するな子離れしてと十九歳

信号待ち個性の見える車間距離

尼崎市 森

菊 江

美容院頭も口もすつきりと

三年ぶり会った友達老けていた

お爺さんツーブロックで仕事行く

へこんでもすぐに復元できる嫁

妻が居るおかげで僕も生きられる

尼崎市 山田厚江

希望とはこんな色かな柿若葉

メールから君が翼をくれました

許されて許して愛は深くなる

合鍵を返し涙も捨てました

運だつて一途な努力きっと好き

加西市 山端なつみ

欲しいものあんなにあつた若かつた

声が出るだんだんやる気起きて来た

母の日は母になれた日アリガトウ

幸せは私の決めることだもの

こんな夜は眠らなくともいいのです

三田市 上田ひとみ

バス路線無く自家用車だけが足  
市の中心地空氣を運ぶバスもある

認知機能検査はちょっと自信あり

目的地へ自動運転車が欲しい

空を飛ぶ車で見たい晴の富士

川西市 山口不動

朝飯は不味くないけど美味くない

今日一日どう過ごすかとバラ聞く

マスクするしない判断風まかせ

棲みついたイライラ虫を飼い馴らす

ライバルに今日のところは花持たず

三田市 大西重男

遅く来て厚化粧なる八重桜  
老夫婦見かけなくなり「売家」に  
山藤は天女忘れたイヤリング  
田の水は八十八夜数え張る  
ありがとうそして皆様さよなら

三田市 足立つな子

しあわせをこの手でつかむ川柳会  
花を愛でみどり豊かなこの住み処

風青し足もかるやか新学期  
仲よしの手をつないでる新学期  
手をつなぐ母も園児もおしとやか

三田市 九村義徳

暇ができ財布を見ると空でした

W杯夢を見させてくれました

アラートより先にミサイル飛んできました

制裁という名の網は穴だらけ

相槌を打つが本音は見せません

三田市 稲角優子

三田市 住 吉 美和子

三田市 村 田 博

子供の日柏もちよりバーベキュー

背くらべしてた兄姉もう故人

大笑い楽しんだ日は夜ぐっすり

都会つ子うぐいすの歌に大感激

連休は緑の中でリフレッシュ

三田市 多 田 雅 尚

丹波篠山市 北 澤 稲 民

少子化に鯉のぼりさえ見当たらず

三歳の孫も覚えたブーチンを

戦いを止めればきっと五月晴れ

家庭ではナンバー2が僕の席

国境も知らぬと黄砂風任せ

三田市 野 口 真桜子

宝塚市 丸 山 孔 一

義理チヨコと言えどそこそこ嬉しがる

よろず屋をコンビニと言うおらが町

このハープティール沐浴剤と同じ香だ

簡単な道が楽とは限らない

縁側でとろりばあちゃん眠り姫

三田市 堀 正 和

丹波篠山市 北 澤 稲 民

律儀だな今年も黄砂やつてきた

日本晴れどこで戦争などして

予定などないが毎朝髭は剃る

朝晩残さず食べるのがノルマ

鉄棒で背筋を伸ばす散歩道

現金は無いがポイント貯めてある  
ビールの泡消えても続くコマーシャル  
変わつても変わらなくとも出る不満  
二重三重殻を破つて出る本音

幸せだブータンカレー食べたから

三田市 高砂市 松 尾 柳右子

丹波篠山市 北 澤 稲 民

目に青葉喜怒哀楽を包み込む

発散をするカラオケの共白髪

何もかも娘ませの日が過ぎる

雨の日も感謝感謝の送迎車

広過ぎる独り住居の善後策

宝塚市 丸 山 孔 一

何時までか自分で切れる足の爪

買う気無いのに一センチのカタログ

どうしても月の背中を見ると言う

妻は留守ボリューム上げて聴く演歌

黄泉の国愛犬が待つ散歩待つ

逝くまでにすることがあるまだ死ねぬ

連休の団欒終り老い二人

青田風吹いて蛙の子が孵る

いつまでもマスクが売れる世が怖い

春だから少しことばの無駄遣い

丹波篠山市 酒井健二

餉くれたおばちゃん今に品がある

男の手見比べ合つて同期会

ヨツコラショ体力保持のジム通い

年とれば保守的になり嫌になる

飼いたくは無いのに鬼が住んでいる

丹波篠山市 藤井美智子

今朝軽く動けるうれし般若経

連休が終わつて財布に出た疲れ

いい色を探して歩む八十路坂

ひ孫たちわが家のアイドル持つ癒し

わが道を信じ迷わず明日へ生ぐ

西宮市 緒方美津子

真っ当に生きて顔中笑い皺

二歳児の安全地帯祖父の膝

方言で話すと電話長くなり

廃屋を守るが如く燕の巣

田の水は瑞穂の国の命なり

西宮市 亀岡哲子

剪定のミニバラわつと咲いて初夏

婚約の彼を迎えるハーブティー

満月も祝つてくれてている集い

江戸っ子は関西弁に笑い出す

ビンテージとボロの区別が分からぬ

西宮市 福島弘子

末弟と御室の桜言葉出ぬ

ここ一番平常心の見せ所

マスク取る仲間の笑顔少し老け

改めて9条見直すこの平和

背が縮みパンツの裾をまた直す

西宮市 福田正彦

花達は今年も咲く日忘れない

進まないペンにモーター付けたいな

ジョークでも音符外せば鐘一つ

職務解けこんなに自由有ろうとは

躓いた事は貴重と調査する

南あわじ市 萩原狸月

悪口を読唇術に読みとられ

留年の息子へ予算組み直し

アナログが落着くのです老いの日日

衣裳変え仮面付け替え今日の僕

お互いの神を担いで殺し合い

岡山市 大石洋子

夢も命も預け観光バス旅行

観光バスおきているのは運転手

はしゃぐにも力がいつ餅を食う

魂を空にささげるような朴の花

元気といえば元気という宿が好き

岡山市 工 藤 千代子

岡山県 藤澤照代

一夜干し噛めば美味しくなる投句

矢車の音をお供に柏餅

身に余るお言葉空も晴れてきた

必着の文字に感じるプレッシャー

朝風呂でストレス洗う今日も雨

わたくしの我が儘入れた冷蔵庫

ストレスが溜ると廻る寿司へ行く

野の花を挿すと空き瓶歌い出す

生きてればもう古稀ですね弟よ

記憶力スマホに頼り錆びてくる

岡山市 丹 下 凱 夫

広島市 岸 本 清

散歩している訳などを聞かれても

人間のエゴで地球は傷だらけ

失語症かも知れないと長閑なり

明日は明日今日一日を楽しもう

山桜いつ咲いたのか散ったのか

いやなことほどよく忘れ楽に生き

バス停を駆やかにするハナミズキ

安全と言える所がない地球

老いるとは思つてなかつた二十歳頃

お茶漬けが好きな夫婦は薬漬け

岡山市 永 見 心 咲

竹原市 岩 本 笑 子

慈雨甘雨あなたが笑うそれだけで

この道を歩こう二人でもいいか

蒲公英のゆれる角度でわらいましょ

雨ばかり今日の涙は誰の為

雲百態いろいろあるわ私も

鯉のぼりいくつ数えたスニーカー

カーテンを開けましょロング・ブレスして

桜は散つた鯉のぼりの出番です

蒜山の清水の音が聞こえます

海広し鯉のぼりを泳がさん

岡山市 前 田 恵 美 子

三原市 笹 重 耕 三

これからもまだまだ翔んで跳ねてみる

目覚ましはOFFに余生の高鼾

甥と孫どことなく似て血を思う

よそ行きのモードに嵌まる厚化粧

父母のこと話す相手は従姉妹たち

帳消しにしましょ原発の神話

夏野菜待つてくれる人がいる

活断層の上で胡坐を崩さない

親友の優しさ触れる電話口

もうパパとは呼ばぬ参観日の子ども

岩国市 上 村 夢 香

鳥取市 岸 本 宏 章

名宝の声聴きたくて美術館

古都巡り忍耐力を試される

紅葉えて見知らぬ街を闊歩する

さりげなく肩叩かれてはつとする

血眼でほしいサイズをゲットする

防府市 坂 本 加 代

鳥取市 岸 本 孝 子

止まらないこれが大事な活性化

猫車農家に一つある理由

ひとり旅本音で話す心地よさ

流行るのは二年遅れの片田舎

果てしない日常そして歳を取る

鳥取市 池 澤 大 鯰

鳥取市 田 賀 八 千 代

虫動き山菜求め山に入る

悪意などドボンと池に沈めちゃい

生きのいい鳥賊透明になつて見せ

政界に透明度問う無駄なこと

パン食い競争私はいつもビリだつた

鳥取市 奥 田 由 美

鳥取市 棚 田 大

二升酒飲んで酔えない夫の留守

ボチがする待てのボーズはソクラテス

春爛漫季節忘れた花ばかり

読経より財テクうまい若和尚

擦り寄った婿にも分ける万馬券

講演に時計気になり聞き忘れ  
時計にも生かされているありがたや  
うん無事よその言葉聞き元気湧く  
春もまた俺を育てる大感謝  
宿題のてごしてくれと孫あまえ

毎年に遅れが目立つ腹時計  
ありがたい水と空気に色がない  
少しづつ実つてほしい茄子胡瓜  
鳥取の目玉にしたい砂像展  
スープの存続知事も立ち上がる

願わくば介護されずに終りたい  
もう歳でガンと聞いても怖くない  
今になり娘が一人欲しかった  
冷蔵庫までも小型で事足りる  
大望の普通サイズの服を着る

若草色まとつて春と同化する  
わだかまり時計の針が溶きほぐす  
脳ミソが震えた今日のジャズの味  
固定電話スマホの影で欠伸する  
着古したラブソングです胸沁みる

鳥取市 棚 田 大

鳥取市 谷 口 回春子

鳥取市 前 田 楓 花

心配の種と埃は無尽蔵  
キリがない心配性の爺と婆

キャッシュレスなかなか慣れぬ昭和の生まれ  
お買いものママチャリ酷使筋トレだ

留守番はクロスワードと仲良しだ

鳥取市 永 原 昌 鼓

決断は私一人と糸切り歯  
いい世だな早寝遅起き平和な日  
口喧嘩あなたが居ればこそできる  
暗記して買物せめて三種類  
山の道ナビも迷つて黙り込む

鳥取市 山 下 凱 柳

大好きな人が待ってる浄土とや  
ヘルメット着けて自転車もう少し  
胃ガン検診今年も無事に通過する  
恋しくてまたアルバムを出して見る  
週末はわくわく過ごす無職でも

鳥取市 中 村 金 祥

川柳でのんびり日々の暮らしう詠む  
失敗に懲りずリセット繰り返す  
大丈夫です認知テストにホツとする  
がんばれと旅立つ孫の背を押す  
感心だ翔平君の所作一つ

鳥取市 吉 田 弘 子

花開くりズムに合わせ生きている  
子育てを終えてリズムが軽やかだ

都市砂漠彷徨い田舎恋しがり

悪人も喉に仏を持っている

私を忘れないでと花が咲く

鳥取市 福 西 茶 子

煙に出る不思議な力湧いてくる  
太陽にビタミン貰い畠仕事  
マスク越し君の笑顔はすぐ解る  
平和とや競い合つてる軍事力  
まあいいか今日も崩れるマイルール

鳥取市 倉 吉 市 大 羽 雄 大

銀行は消えたがコンビニが出来た  
無防備と知つて空から来る矢弾  
寝て待つとフレイルという客がくる  
イヤな世だ回転ずしも予約制

疲れたら転べと新緑のじゅうたん

ヨツシヤと起きてそれから考える  
溜め息を出して身の内軽くする  
ここにちは晩なりましたい町だ  
お疲れさん労り今日の日が終る  
背の曲り顔はせめても前見せる

倉吉市 牧野芳光

フワフワと四月の野辺に身を委す  
おちおちと疲れぬ草の伸びる音

右見ても左を見ても暇だらけ  
生ビール下戸の私にわからない

良い人だったと言われるために生きてない

境港市 藤原久直

小粒だがまめに動いて日々暮らす  
高齢者ほつと一息年金日

予定なし今日は朝から五七五  
八人家族賑やかだった昭和

晴れた日は心も弾む万歩計

米子市 池田美穂

ライバルはA・Iという近未来  
連休に結婚式と葬式と

開店後あつという間に卵消え

オムライス包むのは無理のつけよう

薬師寺へ修学旅行以来です

米子市 伊塚美枝子

ボケたかな夫可愛く聞いてくる  
食べて飲む七十路夫婦平和です

雨の日のゴルフも笑顔老いパワー

若き日の失敗談に尾ヒレ付く

若作りしても背中に歳が出る

米子市 後藤宏之

乗り換えの効かない舟で旅をする  
建て前と本音なかなか気づかない

倉庫からかかしの準備田植どき

思い切り削った鉋肩を撒く

やばい時つくり笑いで切り抜ける

米子市 後藤美恵子

目こぼしの青虫が舞い楽します  
遊園地に歓喜の声が戻りだす

振り籠に宝が眠るお静かに

医者の前血圧上がる初心な老い  
肩で風切ってた猛者も好好爺

米子市 妹能令位子

あなたを守るって嘘だったのね  
9条が守護神の座を譲り出す

見栄なんて捨ててなんぼのつかみどり

限りなく軽い同意のイイネ押す

腸が言うヨーダルトより納豆菌

米子市 竹村紀の治

散るときもよく弁えて咲く桜  
おしゃれ着の下にしつかり貼るカイロ

雲行きに合わせて変える旗の色

盛り塩が屋台の頃を忘れない

忠告を肴に意地の手酌酒

米子市 中原章子

鳥取県 竹信照彦

大木を支える根っこ必死なり  
日が長くなつてうれしい爪を切る  
スーパーのチラシ見比べ独り言

前倒し母の日の花やつて来た  
ちょうどよいサイズになつた古い服

米子市 成田雨奇

公園のベンチに歩いては休む  
杖二本突くと体が軽くなる  
一日が元気に消える八十路坂  
あやめ池モネの睡蓮だつて咲く  
公園で一人ポツンと空を見る

鳥取県 細田裕花

先輩が酒量が減つたと言つていた  
ズボン脱ぐ片足立ちができなくて  
転ぶ時金魚の鉢を掴んだか

金魚死ぬ死因急性心不全  
四合の酒に酔うとは不甲斐ない

米子市 野川宣子

エネルギーの塊朝陽浴びている  
極楽の住人でした9連休  
新卒の靴は東京へと向かう  
昔話多くなつたと思う友  
「スーパーはくと」久し振りですピヨンと乗る

鳥取県 本庄ひろし

田舎道若葉マークが突っ走る  
コロナ禍を守つたマスクポイ捨てに  
合格だぞこのお守り効いたやら  
空っぽの財布だけれどヴィトンです  
若くとも許されぬことあるんだよ

鳥取県 門村幸子

鳥取県 山下節子

そう言えばとふと思い出すカーボン紙  
心にも薬わくわく本夢中  
用心す脚立だんだん恐くなる  
今日生きることに集中老いの意気  
さつぱりと思い直してまた明日

内緒には出来ぬ深夜の救急車  
写メールが結ぶ孫との会話ふえ  
有線が修学旅行無事告げる  
独居とはこうゆうものか妻入院  
新築に正座をしない部屋ばかり

松江市 石橋芳山

イソギンチャク何かを隠してゐる気配

また来ます冷たい嘘と知りつつも

乾杯に出掛けた打楽器管楽器

肺よりも先に錫びだす脳と膝

バリケード跨いで爆弾の出前

松江市 松本知恵子

澄む空氣元気な村の鯉のぼり

芍薬の控えめ牡丹よりも好き

何か主義あるのだろうか残り鴨

カーネーションあげる幸せ母がいる

新緑が溢れ生命力貰う

出雲市 伊藤玲峰

コロナ去り童等の声弾んでる

先生もみんなに会えて元氣出る

通学路小川のメダカ列組んで

八十の友は痴呆が出たらしい

苦勞があり早く痴呆になつたかな

(前月分) 大阪市

大川桃花

出馬するたび所属政党かわる人

日本を飲み込みそよに来る黄砂

もうシャガの頃かと野山懐かしむ

ローカル線の待合室にお座布団

ワンテンポ遅れた詫びへすきま風

夕陽沈むおにぎり三つ持たせよか

嬉しいな何の御用かベルが鳴る

それはそれは可愛いヘルパーさんもいる

白い特急が窓際走るのりたいな

靴も片減り消しごも片減り

### 「川雜」語録 (20)

#### 技巧の問題

出 口 雨 町

母親の氣楽になつてどつと老け

狂 雨

右の句をかりに「母親は……」とすれば普遍的になり、「母親が……」とすれば限定的になる。そこで作者は「の」を用ひたのである。この「の」は「川柳のトリック」とでも云ふべき特殊な文字であつていはば「上五」「中七」を作る為、或ひは句語の聯絡の為に使用されるにすぎないのである、言葉をかえて言へば「女親氣楽になつてどつと老け」とやつても意味に変りがないと言ふのである。だからこの「の」は普遍的でもなく限定的でもない漠然とした處を言ひ表はすのによく用ひられる。

(「川柳雜誌」昭和5年1月)

(前月分) 大阪市 宮崎シマ子

# 波瀬草の花

(7)

野沢省悟

「川柳触光舎」主宰

## 七十七伊達や醉狂で生きている

藤井宏造

川柳人のあり方としてこうあるべき、そんな覺悟の感じられる句。伊達とは、おとこぎを示そうとする。醉狂とは、物好き。と辞書にあった。どちらも、どう転んでも金持ちにも偉い人間にもなれない。しかし矜持をもつて背筋を伸ばし胸を張つて生きてゆくのだ。たとえ、ショットちゅう妻に叱られても、小銭を落としてくよくよしても、だ。七十七歳、まだまだ若い。

## 狂い咲きとは違いますひとり咲き

北山まみどり

この句も覺悟の滲む句。狂い咲き、ときどき秋に桜が咲くことがあり、きれいではあるがどこかはかない。でも作者のいう「ひとり咲き」は、こんな狂い咲きとは違うだろ。青春から遠く離れてしまつた、しか

しその時よりも輝くのだという覺悟。咲くためのエネルギーなら、たんとある。川柳というエネルギーが。  
嫌われても杉懸命に花咲かせ

山口美穂

春が来てほつと/or 飛散してくる杉花粉。好きな人は誰もいない。でも杉だって木であり花を咲かす。桜と全く同じはず、ただ懸命に生きているだけである。

春が来てほつと/or 飛散してくる杉花粉。好きな人は誰もいない。でも杉だって木であり花を咲かす。桜と全く同じはず、ただ懸命に生きているだけである。

## 葬儀場一年前はラブホテル

太田省三

春が来てほつと/or 飛散してくる杉花粉。好きな人は誰もいない。でも杉だって木であり花を咲かす。桜と全く同じはず、ただ懸命に生きているだけである。

穿ったような句ですが、たぶん事實を素直に一句にしたと思ひます。僕の住む青森市でも、歓樂街の一画が、コロナで騒いでいる間にセレモニー・ホールになつていました。街の様子は日々変わってゆきます。おそらく川柳をしていなければ、ただ見すがすだけでしょう。この句は川柳眼で捉えた鋭い一句です。

## お宝はあるかと聞いてくる電話

野川宣子

穿ったような句ですが、たぶん事實を素直に一句にしたと思ひます。僕の住む青森市でも、歓樂街の一画が、コロナで騒いでいる間にセレモニー・ホールになつていました。街の様子は日々変わってゆきます。おそらく川柳眼で捉えた鋭い一句です。

この句も川柳眼で掬いあげた句。何度か我が家にもかかつてきました。あるははずないんですヨネエ。いやいや、よく考えてみれば、僕自身がそして妻が一番の宝。今度がかつてきたら、そう言つてやりましょ、

いだけでなく楽しいのは、結末がわかつているから。しかしこの句の、街にあふれている方は本当にコワイ。殺人・詐欺・強盗などなど、結末がわからず、何よりいつ自身にふりかかつてくるかわからない。貞子さんやお岩さんは、まだまだ可愛い。たまたま川柳大会にまぎれ込んでいるかも不。

「怖くない」で切れる句。怪談がただ怖

## 英語 de Senryu (139)

麻生葭乃 『福壽草』 (1955)

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

へちま へちま ここは行水するところ

*scrubbing loofah, loofah,  
this is the place  
I wash myself in the tub*

木綿着の心安さよ子と眠る

*in cotton wear  
I sleep peacefully  
with my lovely children*

---

scrub こする loofah ヘチマ place 場所 wash oneself in the tub 行水をする  
cotton wear 木綿の衣類 peacefully 安楽に lovely 可愛い children 子供 (child) 複数形

---

### ～リバーウィローのため息～⑧ 郡山直(東洋大学名誉教授)先生の創作活動④

沖縄、喜界島出身で現在、96歳の郡山直先生は年を重ねるごとに創作（日英詩、日英短歌）への闘志が漲ります。「今日は君が地上で生きることのできる唯一の日だ」の一部を紹介します。

今日は君が地上で生きることのできる唯一の日だ / 君は昨日をもう一度生きることはできない / 君は明日を前もって生きることもできない

だから 君は今日の この瞬間 / 今朝の新鮮な空気を / 君の肺の最深部まで / 吸い込め / 君は今日の この日を / 嬉しい心と穏やかな精神で生きろ / 昨日の間違いを気にせず / 一昨日の栄光も考えずに

*Today is the only day that you can live on Earth./ You can't live yesterday again,/ Nor can you live tomorrow/ In advance.*

*So you inhale all the fresh air of this morning/ To the innermost part/ Of your lungs/ At this very moment.*

*You had better live this very day/ With a happy heart and a mild mind,/ Never thinking of yesterday's mistake,/ Nor of the glory of the day before yesterday.*

# 誹風柳多留 ——二篇研究 35

せえ」と駆けつける。  
もし旦那／＼と四ツ手かつちかち

二四13

細井龍夫・伊吹和男

高野範雄・山田昭夫

小栗清吾  
清 博美

280 朝おきをして壇人ものでれて居る

細井 一人者だからとて何時も朝寝坊とは限らない。早起きをすることもある。しかし早ければ早いで、近所のかみさん連中に「おや、今朝は早いお目覚めで。伴さんは元気かい」などと寄つてたかってからかわられるので大いに照れる。独り身はつらい。

一人者目のさめる迄うなされ

五四44

壇人ものかみさんたちになぶられる

二二21

小栗 賛。  
への子から朝おきをする壇人もの  
安八仁5

近所のかみさん連中を登場させないで、へ

の子の朝起きを一人で何となく照れている  
という光景の方が好きだが、そうは読めないかな。

清 一人で何となく照れているのである。  
この句に第三者を介入させては、その面白さがふっとんでしまう。からかわれたからではない。小栗説は鑑賞の範囲で……。

281 あたりを払ふ出たちへかごいかご

細井 四手駕籠の多くは火の見櫓の下などに陣取つて、遊里行きの客待ちをしていた。

今様のタクシーの溜まり場だ。そこへ辺りを払うような立派な身なりのきんきん野郎が通りかれば、目ざとく見付けて、「旦那、旦那。かごいい、かご。駕籠に乗つてくだ

282 十ツ手のゆびさすハこゝろまちといふ  
細井 『大学』の「十目所視、十手所指、其巣平」の文句取で、誰が見ても間違ひなく素晴らしい遊女が馴染客を心待ちにしている、というのか。それとも、絶世の美女であるあの遊女を一体誰が揚げるだろうかと期待一杯に眺めている素見連中か。いずれも張見世の情景。

うれのこりげに十目クの見るところ

二二28

十の目をばづればた餅店ざらし 箇二19  
伊吹 両説考えられますが、どちらかと言えば前説に賛。

高野 張見世に絶世の美女なんていますか。引用句③と同じように解釈しましたが。

山田 ②に賛。心待ちは「心の中で期待しながら待つてのこと」(『日国』)。

なお、「張見世に絶世の美女なんていますか」とのことですが、張見世の正面中央には毛氈を敷いた席にお職が坐っていますから、「絶世の美女」かどうか分かりませんが、

高級女郎である事は確かです。

**小栗** 「心待ち」の意は山田兄のいわれる通

りで、吉原句の場合、前説のようにしか読

めないとと思う。でも、何が面白いか今一つ

わからない。並の連中はお呼びでないとい

うことか。事実はともかく、花の吉原の三

分は絶世の美女です。

清賛。

283 三ツぶとん坊主禿のかたをこし

**細井** 三蒲団は三枚重ねの最高級のもの。

大尽客は遊女に無心されることが間々あり、

その敷初めの折の情景だろう。坊主禿は六、

七歳の幼児だから、三尺以上もある三蒲団

と丈くらべをしても負ける。

敷初メの夜具と禿ハ丈くらへ

五四 10

三ツふとんよつ程天へちかくなり

二二 28

高サ三尺よあるふとんなり

安九礼 3

清賛。

284 三みせんのみね打チわるい御酒のうへ

**細井** おそらくお留守居役の面々の宴席で

のことであろう。酒の上とはいえ三味線を

弾いている芸者のお尻をちょいと抓つたの

で、三味線の撥の手に持つ部分で叩く真似

をした。その実、これで転びの稼ぎが出来る、  
と喜んでいるのかも。

三みせんハあいつけたりとばちてぶち  
一八 14

三ミせんハよそうかねへとふざけ出し

天七 豊 1

285 こわくないおやから貰ふみゝたらい

**高野** 賛。三味線の峰打ちがわからぬ。

基礎のよくなことなんでしょうね。

**山田** 賛。撥の峰、つまりグリップエンンド

で打つ真似をする、ということです。

清賛。

286 男ハの式文もないと出合茶屋

**細井** 女性が婚期に及んで初めて鉄漿を付

けてお歎黒にする時、親族や知人の中から

福徳な婦人が鉄漿親に選ばれてその世話を

した。実の親ではないので恐くはない。そ

の恐くない親から鉄漿付け専用にと両端に

柄のついた耳盥を頂戴した。初鉄漿のお祝

いにくれたのだろう。

秋おまへ出シなど払ふ出合茶や

明七 宮 2

**高野** 賛ですが、「恐くない親」がわかりま

せん。

**山田** 賛。「恐くない親」を含む句は、本句

しか管見に入りませんので、確かなことは

いえませんが、基礎の解でよいと思います。

即ち、鉄漿親。

**清** 賛。鉄漿親は、実の親ではなく叱られることもないのです、恐くない親と表現したことのこと。

細井 激戦を終え、精力を使い果たして蛻の殻のようになつて帰つて行くペアの男を見て、出合茶屋は評して曰く「あれは酷い。すつかり搾り取られて一文の値打ちも無くなつてしまつたわ」と。男は一文も持つていないとも。

ありつきり男をしほる出合茶や

安七仁 4

出合茶や男ハ半死はんしょなり

安四信 7

女の跡トからよわりはてたおとこ

安六宮 3

山田 「あの男は、二文の錢も無い奴だよ」

と出合茶屋が言つてていると思つていますが

……。

小栗 山田説の如く解すべきか。

清 同。女に連れて行かれた男。さんざん

に奉仕させられる。男はその機能上辛いの

である。そのかわり支払いは女。

# 自選集

小島蘭幸

浮雲のさだめを生きてきた米寿  
スマホ無言のままなり外は雨  
魂の抜けた私をもて余す  
念ずれば届く願いだ怪我快癒  
師の叱咤聞く乱丁の頁から

山本希久子

居谷真理子

嵐の中に池田勇人の像がある  
パレーとバレエ個を大切にして姉妹  
ふたりなら無敵と思う旅つづく  
昭和からふわりと舞つて来た螢  
昭和邂逅今てのひらにいる螢

森山盛桜

繩ばしごゆらゆら夢にまだ遠く  
ふところに青の時代のその欠片  
四月尽黒いブラウス捨てました  
こんなにも海に水ある恐ろしさ  
恋つてさ保湿効果があるんだよ

川上大輪

媚売らぬ自信は食パンの四角  
道管の途中で呆気なく迷う  
生きるなら回転印の律義さか  
数式のゼロを侮つてはならぬ  
迫り来る軍靴と大量死の魚

薰風さんのこと

八木千代

年寄りの言う事だから信じよう  
寺社巡りみんな欲張りなんだから  
深呼吸不ジをも一度締め直す  
その指に止まると二度と戻れない  
野次馬になつてしまつた好奇心

北野哲男

「どこへでも出向くからな」と電話口  
ずっとやりとりした ありふれたハガキで  
「弟子になつてくれ」と乞われた藤の寺  
枯野から電話 枯野の声絶え絶え  
花吹雪桜となつて散り給う

拌殿へ寄らずじまいの花の宴  
十連休孫は電池切れないらしい  
長幼の順序を死語にしたスマホ  
ダイヤ婚回転寿司で祝われる  
この次はメダカにしようを聞いた猫

木本朱夏

色々あつてつまるところは現在地

浪費した若さを惜しむ茜雲  
懐かしい景色 父居て母が居て

あのときの父母の哀しみ今にして

茫茫とわが来し方は風の中

新家完司

入院や自分史まさに走馬灯  
入院や嘘の吐き方また一つ  
入院ややはり読めないカタイ本  
入院や時計はちゃんと合っている  
入院や窓の外には四季がある

仁部四郎

西出楓楽

ハンドルを握り「こつくり！」命取り  
10分もウトウトすればシャンとなる  
年金でせめてウクライナへ募金  
アマリリス我が家で咲いてしあわせか  
雨が降る夜は寂しい早く寝る

高瀬霜石

抜擢と思つていらない東大出

串揚げ屋キヤベツで腹いっぱいになる  
テレビから得るものすこし料理など  
ロールキャベツって大人の味だねえ  
ラーメンもカレーも食えるから元気

津守柳伸

挙式から六十五年光陰で  
中味より宅配料が高うつき  
遠くても私と分る歩き方  
会長が顧問の僕に気を使う

平田実男

五月晴れ 掃除洗濯トレーニング

福士慕情

嬉々として葦原さわぐ春の川  
葉桜がやつと祭りの疲れとる  
季の移り雷様が幕をあけ  
立夏という猛暑の後の寒気団

足音へ金魚8匹寄つてくる  
郵便は来ぬ連休に運ぶ足

岩木山の雪は黄砂に負けてない

藤村亞成

村上玄也

とことん付き合うよ嬉しい日哀しい日  
起こさぬよう毛布そっと掛けてやる  
気付かぬよう小遣い少し足しておく  
やさしさが僕にはいちばん良い薬  
犠牲者をどこまで出せば済む戦争

松本文子

ありがとうこわれた心癒やす花  
咲かぬまま又この道を帰るのか  
耳鳴り続くくらげの叫び聞いた夜  
加齢と共に多くなる負の遺産

手を振ったがさよならは言わぬ

三浦強一

嬉々としてディケアへ行く妻の春  
撮り鉄の涙廢線ラストラン  
応募にはＩＴ作句禁とあり  
死語となる車粉に代わり黄砂降る  
草野球親の目に皆オオタニさん

三宅保州

下火でもコロナから目は離せない  
2類から5類脅威は変らない  
知らぬことすべてスマホに頼つて  
高機能ほど狭まって行く使い道  
ランドセルが歩いているよう一年生

### 「川雜」語録 (2)

#### 初心者に与へる

大谷おおや  
五花村ごかそん

凡そ川柳を素人に強いて見ると必ず、川柳らしくと  
願つて却つて川柳にならず狂句に墮する事、殆んど万  
人が万人である。所謂概念句の大部分となるのであ  
る。かくて自分自身の眞の叫び、眞の詩情を言ひ表は  
ず事なく虚偽の文章のハシ切れを構造せんとする、憐  
む可く、噴飯の沙汰である此等素人の觀念を絶無にす  
る事が吾人川柳家の責任であり務めでなくてはいけな  
い、而も概念でもいゝ、素人でもいゝ、暫らく作句を  
統ければ、其處に眞の人生詩を見出だす事は訳はない  
のである。初心者よ大胆に、勇敢に作句し給へ、先生  
も先生もないのである。

マドンナの最たるものはかぐや姫  
冗談も飛び交っている回復期  
将来性有望という荒削り  
曾祖母の名が刻まれた鯨尺  
他人から見たら氣楽な倦怠期

(「川柳雑誌」昭和11年3月)

## 『鉄道草』

山田季贊



# 句集の森

バスの窓田植も済んだ水の色  
夜桜をぬけてパチンコして戻り  
貯金とは蓄らぬもので一家無事  
お隣の子は本当を言うてくれ  
機関車へ貨車ぞくぞくとついて行き  
コマギレの予算半端な橋が出来  
二本立終れば静か外は雨  
早朝を夜逃げのように宿を出る  
エンコしたバスの車窓へ蟬が鳴く  
前任者呑み助だつた話聞く  
生前がほうふつ眼鏡置いてあり  
そよ風がここまで来てた牛が鳴き  
女房の手編みやっぱりあたたかし  
出勤を隣の犬に見送られ  
影法師今日の自然へ逆らわず

(昭和52年6月19日発行、竹原川柳会)

## 温故知新

田中正坊川柳句文集『ベンシル』から

文豪という語があり漱石忌  
米寿には米寿の演技 笠智衆  
男なら投げられた餌は拾わない

三冊の辞書を調べてきた自信  
見る人によつてメダルの裏表  
何もせん日があつたかてええやんか

清貧と愚直に生きた父の墓  
冷や酒は男の涙知つてゐる

新世紀生きるつもりの土ふまず  
高倉健に似た人に逢う北の町  
目立たない人がトップに選ばれる  
さあという時にはいい責任者  
しなつくる観音もあり春の寺  
中年がみんな抱いてる不発弾  
貫禄がついて影武者おろされる  
清流に棲んで大魚をうらやまず  
言い負けてわら人形は灰になる

木本朱夏選

水煙効

大阪市 岡田 恵子

ネモファイラとしばし初恋談義など  
スキップができない今までおばあさん

金平糖いろとりどりの恋ばなし

ハツシエタケに群かる淋しかりの蝶

三セを詠めた革の鏡がない

しがらみを断ち切りひとり行く荒野

尾道市 小川道子

浅瀬で雜談ひそひそ雜魚の群れ

一歩ずつ今来た道が遠ざかる

青天に熱き言葉の矢を放

ゆつくりと翼やすめて明日を待つ

貝塚市 吉道 あかね

自然治癒傷舐めながらなめながら

後期高齢ぐずつく天気多くなる

朱を足してみても淋しい色である  
ネモフイラの海天国のひたちなか

一面の青に私を解き放つ

大阪市 森田遊子

誰そ彼と問えば貴方が振り返る  
哀しみは言葉にできぬ情ハ靄

木の葉持ち狐狸に弟子入りしたい夜

渴いてる私にわか雨が降る

厭いつつ悠か黄砂の旅想

太陽の方ノチニシとしニ隠れ蓑

山口市中前幸子

街のカラスは人間が好きらしい

チヨコレート誰の噂もしてくれぬ

わたしが私でない田メイクを忘れている

## 莊厳なフイナーレ夕焼けの鼓笛隊

大阪市 森 廣子

人生のレース半ばの小休止

食欲で哀しみ癒やし良く眠る

運だけは良いと信じて生きている

倉吉市 若 松 由紀子

優しさが薬の様に浸みて来る  
楠の木と無垢な心は折れ易い

恋や愛心を寄せる花言葉

思い出は朧の月に閉じ込める  
螢火が寄りそつて来る三回忌

冷静にマグマを貯めている女

佐賀県 真 島 久美子

意思疎通して紫陽花になつてゐる  
無限などないから泣いていいんだよ

じやんけんのとつても平等なハサミ  
シャンパンの栓が宇宙へ行きたがる

黒魔術なんて知らないカラス達

生意気な犬のおやつを買いにいく

加古川市 石 賀 邦 子

もう一度逢いませんかと留守電に  
心地好いおだてに乗つてこいのぼり

何もかも変わる予感の午前二時

狙い目は半歩はずして隅の席

懺悔録そつとあの世へ持つて行く

世界には平和知らない子等もいる  
怒るには氣力体力まだ足りぬ  
理屈っぽいあなたの話スルーする  
譲り合い押し付けあつて元の位置

神戸市 村 松 久 江

もう一度逢いませんかと留守電に  
心地好いおだてに乗つてこいのぼり

何もかも変わる予感の午前二時

狙い目は半歩はずして隅の席

懺悔録そつとあの世へ持つて行く

世界には平和知らない子等もいる

怒るには氣力体力まだ足りぬ

理屈っぽいあなたの話スルーする

譲り合い押し付けあつて元の位置

高砂市 裕 木 る い

貴方にはあなたの神がいて濃霧  
余命宣告蜘蛛の巣からは逃げられぬ

恋をして太り失恋して太り

振り向いて欲しくて落とす羽根ひとつ

意地張つてみても流れる砂時計

流れされぬよう浮輪を持ち歩く

ときめいて風の一押し待つハート

合鍵を渡すと逃げた恋ひとつ

八起き目でやつと何かを掴んだ気

半額を料なお皿に盛り付けて

Mサイズ吊るして励むダイエット

くちびるに紅の花咲く脱マスク

尾道市 村 上 和 子

掃除機よりパツパツパアと手唄で  
遊びすぎ足腰いたいとも言えず

歳重ね亡母と同じ顔となり

不足なし雨風しのぐ家がある  
荒れ放題先祖に詫びる家田畠  
遊びすぎ足腰いたいとも言えず

掃除機よりパツパツパアと手唄で  
遊びすぎ足腰いたいとも言えず

歳重ね亡母と同じ顔となり

尼崎市 八木幸彦

あの時に許せなかつた悔い残る  
夫人から訃報無言の電話口

反論を書く筆先が尖りだす

代走を頼みたくなる腰の張り

師のハグは免許皆伝かもしけぬ

不協和音ばかりモンクのソロピアノ

東大阪市 青木 ゆきみ

忘れ物届けてくれる父でした

病室に笑顔が戻る笹飾り

子や孫の生まれ日避けて父が逝く

蟬石で路地に描いた絵希望だけ

初恋はメンコ交換した相手

マンションが建つて秘密の路地なくす

泉佐野市 榎葉良子

正義勝つ時代劇見て憂さ晴らす

その答弁誰も納得しませんよ

女子会に違和感のない爺がいる

こんなにも脆いと知った普通の日

思い出に色付けしゃべる老いふたり

風向きに合わせ自分がイヤな時

柏原市 神崎江

亡父の歳超えて迎える誕生日  
手探りで生きておりますお亡母さん  
隠れんばしているような君の愛

吹田市 岩口のぞみ

食事会親戚集い背比べ

夏までに肉の浮き輪を脱ぎ捨てる

口紅を選ぶ楽しそまた来たる

どこ痛い不調自慢で盛り上がる

自肃した日々取り戻せ西東

旅立ちを前に心に羽が生え

大阪府 奥野健一郎

飾つてただけで和みをくれる書架

流行を追わずサイズはゆつたり目

戦争よりずっと増し込んだ平和ボケ

泥かぶることはへっちゃら蓮の花

くどいほど説明聞けどメカ音痴

決心が揺るがぬように言い触らす

三田市 馬場貴美江

ブランドの春のコートはへそくりで

瓶の中へそくりコイン五万円

あなた誰認知の母をいとおしむ

年金の枠はみだした物価高

電飾のきれいな花は風を呼ぶ

夜をてらす桜と君と風の音  
ジーンズの色落ち青春の軌跡  
休もかな朧月夜の砂時計

三田市 松下英秋

あかんやろ遮断機こえて撮る写真  
計算は早いがお金貯まらない  
頓服を持つて戦う平和な日

海南市 山中 閑

投げたボールくわえてもどる犬の無駄  
この春に遅れてデビュー花粉症  
ロビンギヤの子キラリと光る誇り見せ  
うるさいが草刈りもする高齢者  
笑いつつ老いの苦労を語り合う  
待つことも味わつており旅名人

和歌山市 北原昭枝

いくつもの出会いと別れ流れ雲  
描き直すデッサン夢を追つて行く

屋根裏にまだ残つてた子供の絵  
新聞のコラム読んでは知る世界

老々介護ここまで来たら最後まで  
来た道を辿る足跡会者定離

和歌山県 三枝 真智子

れんげ草無邪気なころの腕飾り  
ネモフィラの空色こころ癒やすいろ  
スペシャリストの飽和潛水いのちがけ  
鉢合わせ猫もわたしも身構える  
御先祖さまおもいめぐらす百回忌  
さすが産地車窓みかんの花盛り

ふる里は雨に煙つて病んでいる  
老木の執念風を受け止める  
日本の窓を開ければ富士が見え  
空き家にも花の命は逞しく  
冗談の一つも言つてみたい石

翔び過ぎるあなたにリズム狂わされ  
子供の日風の子だつた誕生日  
嬉しいかさて悲しいか六十五  
六十五まだ見ぬ空の戸は開く  
熟女四人はしゃいだ後の疲労感  
マイブームゴミだけ残しどこへ去る

鳥取市 狹武紫陽

二重丸付けてアピール誕生日  
ケーキなど食べて家族の誕生日  
頼り無いわたしに頼る人は夫  
何げない日常が好き豆ごはん  
巣ごもりもマスクはずしてスニーカー<sup>一</sup>  
あれこれと箇条書きする遺言書

和歌山市 まつもと もとこ

国境に色とりどりの薔薇と棘

下心蹴り上げ地球ひと回り

七月の風に誘われ一人旅

子供の日風の子だつた誕生日  
嬉しいかさて悲しいか六十五  
六十五まだ見ぬ空の戸は開く  
熟女四人はしゃいだ後の疲労感  
マイブームゴミだけ残しどこへ去る  
蹴躊躇一人笑つて一人泣く

米子市 川本 美津子

勝らんだ希望も今は夢の中

猫2匹夫と私の潤滑油

我が家知るツバメ今年もやつて來た

思い出は断捨離出来ぬ胸の中  
膨らし粉増えて噂が止まらない

テレビ見て得よ旅行気分を少しだけ

福山市 新庄 芳春

庭いじり私の居場所ここにあり  
雑草が生きる生きると散歩道

桜散る我慢するのはもう止めた  
戦争にコロナそれでも花が咲く

不発弾抱えた今まで花愛てる

一番の花はやっぱり妻だろう

大洲市 花岡 順子

人間の欲がポイント溜めている  
カラフルなマスク外せば高齢者

手も口も前頭葉もそれなりに  
神さまへ通りすがりの手を合わせ

待ち時間クロスワードを持つて行く

お茶摘みが三連休の仕事です

松山市 郷田みや

草引きは気分転換いい時間

庭の草スマホに名前聞いてみる  
柔らかい新芽と会話したくなる

札状は直ぐのつもりがもう五月  
元気ですと今年もそら豆が届く  
連休は集まる食べる笑いあう

宮崎県 惠利菊江

読み辛いひらがなばかり欠伸する  
しっかりと布石を打つてゆくあした

見開きのページに意欲立ち上がる  
静寂が遠い汽笛を呼び寄せる

腹立ち眉間に皺は物語る  
不義理して誰も咎めぬ筆不精

横浜市 巖田かず枝

広島に世界の人を招きたい  
食前の薬なぜだか忘れがち

夫コーヒー妻は紅茶のおやつ時  
朝ドラに植物採集思い出す

牛肉は長寿の秘訣らしいです  
データーを医者に褒められ飲んでいる

船橋市 中嶋常葉

残り火を燃やしてそよ風が誘う  
ときめいた色に染まらぬ白い画布

好きだからグラデーションのラッピング  
狂おしい恋も今ではモノトーン

デッサンで終る束の間の出会い

ひたひたと音程狂う息遣い

鳥取市 上山一平

ファンファーレ八連休も先ず近場

連休の砂丘を埋めた県外車

大砂丘らくだが人を蟻にする

風かおる早くも熱砂四十度

きらきらと無心にはずむしやほん玉

鳥取市 大前安子

終活を部屋の真中で思案する

あつそだ生ききる為の屈伸を

手足まだ動くが頭振つてみる

スニーカー買つたばかり遠回り

人様の台本だから歩が合わぬ

鳥取市 山野すみれ

君との間透明な橋架ける

褒められて柱の傷が消えました

あの頃をしゃべる柱の背くらべ

電柱の上でカラスのひとり言

ハクションに合いの手入れるホーホケキヨ

倉吉市 宮田風露

春うらら出会い頭に嫌な蛇

葉桜の間に可愛いサクランボ

窓開けて鉢合わせしたごきぶりと

夜遊びが過ぎるごきぶり追い詰める

やつて来た洗濯日和青い空

松江市 中筋弘充

八月十五日母が負けたと笑つてゐる

八月十五日もうB29は怖くない

父帰る母がとつても嬉しそう

大の字になつて昼寝ができた夏

マドンナと遂に踊れたクラス会

松江市 山根邦代

久々の電話を受けて安堵する

背中おす友のおかげで作句出来

夢の中サッサと歩く自分いる

寒い朝離してくれぬ布団なり

カクレンボ上手でこまるさがし物

安来市 原徳利

気持よく脱いで飛びたつ黒揚羽

ジョンガラの口三味線のリハビリー

普段着の着こなしうまい桜草

腰かがめ九尺藤の花のれん

バリバリと煎餅打線は沈黙

美作市 岡本余光

ご好意を素直に受けて老いの札

あとがない心の準備黄泉の旅

行く道を外れぬよう黙々と

慎ましく生きて逝くときさわやかに

神仏に真心だけを申し上げ

広島市 田 桑 恵 子

五月晴れ小さな庭でバーベキュー

逆転打一気に上がるボルテージ

外出着迷つてるのはまだ若い

待ち合わせマスクの顔に紅を引く

車から手を振つている知らぬ人

広島市 松 尾 信 彦

詐欺だなと思う電話も丁重に

茶柱が立つて会う気になってきた

ああこれが唐三彩か眼を寄せる

ちやらんばらんのようで隙はない

ありがたい昨日と同じ朝がきた

府中市 岸 田 武

百歳を目指しはかない杖ぐらし

土曜日は赤いポストも充電中

義理チヨコも孫からひとつ進む老い

川柳で耕しほぐす老い傘寿

たけのこを催促したよなハガキの絵

広島市 森 田 博 之

合の手の「あゝそれそれ」の物忘れ

夢叶い嬉しさよりも安堵感

後期入りメトロノームもアンダンテ

金額に合うた店主のお見送り

ランドセルカネは爺やが背負つてる

豊見城市 あ ら さくら

スマホ手に世界のニュース早わかり

失敗を重ねた結果日が当たる

里帰り移住者増えてここはどこ

巻き返し孫と競つて脳トレだ

右させば左へ曲がるあまのじやく

竹原市 土 井 輝 恵

こんな世になると解つていたか亡兄

ヘルメット製造元が間に合わぬ

子を持つて大人になつて行く孫よ

思い出の酒蔵を観る朝ドラマ

なれるとは思わなかつたヒイバアちゃん

八十路坂短い未来遠い過去

八十路坂危険信号数多し

懷かしい鉄腕アトムカムバツク

お互いを繕い合つて今を生き

先に逝き早くおいでと額の猫

お名前が浮かばないまま興に入る  
人生のイフを問うてる転車台

朴念仁をその気にさせる片えくぼ

尾道市 小 畑 宣 之

耐えて生きる神も仏もきつとい

旨い話危険な匂いに近付かず

八十路坂危険信号数多し

八十路坂短い未来遠い過去

懷かしい鉄腕アトムカムバツク

富士見市 中 島 通 則

東京都 高 岡 弥 生

こどもの日今年は兜売り切れか  
A.I.に答弁させて居眠りも

父さんの遺影はいつも恵比須顔  
知らんけどTikTokの甘い罠

甘党がダイエットする休日

横浜市 加 藤 佳 子

地震慣れ揺れても起きる気配無し  
神仏に祈るしかない体たらく  
八十路でもこの世は楽し文句無し  
紫陽花がもう咲いている五月晴れ  
花の名をスマホで探す趣味追加

神奈川県 小 田 幸 子

この人の若い日を知り今も知り  
踏み出して歩くのは君祈るぼく  
生まれつき使命きわめる孤独連れ  
祈り願い囮つて守る小さな芽  
手を合わせる主人の横に座る犬

東京都 尾 畑 なを江

春の宵一杯飲んで良く眠り  
過ぎた事どうでも良いよ聞き流し  
桜散るあとは青葉にお任せと  
日本には宝の四季がデンとある  
控え目に暮らしあ計簿うす笑い

四年振りマスク使わぬ夏が来る

次世では何をやろうか妄想中

外国人増えて経済活性化

こだわりの食材求めさまよう日  
沢山のパンやお菓子をやめてみる

東京都 宮 田 栄 子

泪橋あしたのジョーに出会う街  
猪牙に乗りタイムトリップ柳橋  
向島荷風憇んで桜もち  
合掌す遊女が眠る淨閑寺  
雨音が心に響く恋を知り

豊橋市 小 松 くみ子

ミツバチに言い寄られる朝の庭  
新しいエサ金魚も味がわかるらし  
「らんまん」が草花見る日変えさせる  
根なくとも挿し木の薔薇咲かず  
チユーリップみんな笑つて揺れている

白河市 鈴 木 たけし

生存権認めたような第五類  
小児科の泣き声やがて国を負う  
春彼岸ついに治らなかつた腰  
四季の国落丁乱丁増すばかり  
王様の椅子に触ると火花飛ぶ

京田辺市 加山 勝久

大阪市 阪本秀子

総選挙二世三世大手ぶり  
難民の実態カメラが炙り出し

ドローン飛びロボット指揮する近代戦  
ゴミ捨て場総替えしたいうちの家具

次郎無く一郎だけの核家族

大阪市 今村和男

大阪市 白谷よしみ

本当は若葉が自慢とか桜  
まだ若い定年間際に五月病  
雨の日はコート着て来る新聞紙  
寝る暇が無かつたはずが持て余す  
鳥たちの歌に口出す老いカラス

大阪市 尾崎文子

大阪市 滝井えみこ

エアまくら故郷の空がつめてある  
町歩きばらけたりズム アンダンテ  
君といる傘一本で雨うれし  
手の平で転がしてから捨てたもの  
病める子にハーベンダツツ買い走り

風呂焼きや昔の話次々と  
アナログの昭和生れと話あう  
レジ並びがんばつている高齢者  
昼ごはんキャベツと鮭缶あればいい  
ひまわりはロシアにも咲く花なのに

大阪市 近藤直美

大阪市 田原康雄

うたた寝の少女のうなじ風薫る  
充電が必要なのは私です  
厨房に入る男の楽しげな

人生は迷路出口を探して  
原石はあれども磨く人おらず

過ぎた日が古新聞に染み込んで  
少しだけ糠味噌くさい母の手は  
「あれ」「これ」と夫の指す物当てる日々  
カツ丼も恋も上手にとじられず

長谷寺の長い坂道叶うなら  
長谷詣で妻機嫌よし牡丹よし  
花見には鉛筆ノート連れ歩き  
膝痛の妻タイムセールで駆けだした  
袋詰め放題妻が若返り

大阪市 中 村 峰 子

堺市 古 川 光 雄

楽しいな創作日記綴る夜

泥よけて歩いてきたが泥だらけ

一張羅着こんでいるが似合わない

あいまいな暮らし楽しい極楽だ

猫が逝き何かさびしい物足りぬ

大阪市 原 幸 子

俎板の凹み夫は料理好き

家庭菜園に毎朝やつてくる小鳥

後期でもまだ出来る凛と恋

ひとりぼち退屈凌ぐ雨の音

独りじやない病の時は人が寄り

大阪市 宮 本 千恵子

野良猫の目は生きるさびしさ知つてゐる

備忘録もう二冊目になりました

ワクチンの予約日だけは忘れない

古稀以上でも笑顔でカバー フラダンス

藤浪君へまず一勝を願つてる

大阪市 吉 積 栄 次

結婚を反対してた義父看取る

倍速で会話しているリズム感

右出すか左足出すか今日の運

白い歯で清潔感を出してみた

傘さして何処にも行かぬ定年後

年いけど酒量は減らず元氣あり

元気がだが諭吉財布で睡眠中

年行けど益々元氣妻の口

気をつけていたけど成りそう粗大ゴミ

コタツない我が家みかんの山もない

池田市 倉 本 一 弥

ポテトサラダのポテトゴロゴロ我が家流

金婚式皺婆さんになつた妻

高校生部活はまさに青春だアオハル

気が利きすぎ箸添えてある洋食屋

古民家を太い柱が支えてる

泉大津市 葛 城 隆 雄

我が胸の思いの丈をペンの先

今に見ろ小兵の意地が力貯め

雑記帳開けて五七五にらめっこ

ホームラン兜が似合う翔平は

難題に手を焼く事もまた楽し

泉大津市 助 川 和 美

閉店の予告をすれば満席に

覚えたて九九詣んじて孫自慢

体育館響くドリブル部活動

今度こそ三日坊主のひとり言

説教の気分そがれた子の欠伸

交野市 山野双葉

高槻市 三谷白黒

故郷の湖に隠してきた小舟  
ドラレコに別れ話を聞かれてる  
お見舞いは花も団子も断られ  
雨の日はボチとドライブデートする  
樹木葬夫と選んだハナミズキ

河内長野市 穂口正子

昔からカンナが似合う夏生まれ  
良い方にかなり勝手な思い込み  
窓の灯り家に待つ人居る安堵  
群衆に魔法かける悪い奴  
万象輝くそろそろお呼びかな

吹田市 西沢司郎

あと少し届け米寿に背を伸ばす  
翔平が目覚まし時計になる暮し  
ワクチンに射ち抜かれては鈍る腕  
人生は人それぞれにワイルドショリー  
ご無沙汰はコロナのせいと当て擦る

摂津市 野々村レイ子

人により老後の歳は違います  
届かないメール送ったはずなのに  
人生も最終コーナー悔い無しに  
雨の日はよく聴こえる気がします  
選挙済み先生方は偉くなり

豊中市 貝塚正子

念じても通じぬことを知る日暮れ  
また明日十二時間後に逝った友  
もういいかい空の姉からまあだだよ  
昔写真今はスマホで孫に会う  
手に汗をかいて待ってるホームラン

豊中市 齋藤奈津子

お礼状気持ち伝える花切手  
カタカナ語ばかりで話す解説者  
母さんは古いものから食べていく  
必死で二度寝夢の続きを見たく  
春の目ざめ別れと出会い入り交じる

寝屋川市 長尾千賀

新学期心弾んでシャッターオン  
薔には未来を灯す光あり  
花が好き母と一緒に居るようで  
ふわふわと心をほどく春の風  
本音はき力チカチ心つやつやだ

ミートパイ温めて済ます昼ごはん  
春よ来い呼び出し音はビバルディ  
シップ貼る丸い背中に羽根の跡  
「知らんけど」浪花女のアバウトさ  
ノックして下さい古いもデリケート

羽曳野市 黒木 ひとみ

大阪府 高木 道子

草木の新芽の旨さ知る昆虫  
水をやり新芽出たかと鉢覗く

春菜の筍若布出合い物  
八十越えた三婆揃い旅をする

極楽と言つて過ごした祖母の顔

東大阪市 青木 隆一

釣竿の先に蜻蛉を見る平和  
先々を言う妻の声胃で聞いて

御先祖があつてこそやと墓参り  
先の先読んで全てがつまらなく

二度寝して見たいどうなる夢の先

八尾市 田邊 浩三

解らないテレビCM多すぎる  
最近は真っ先に見る計報記事

黄砂には文句は言えぬ中国に  
子が減つて女性議員が増えていく

今これも残り人生の一部だな

大阪府 浦上 恵子

太陽も月も拌める日々平和  
踏み込まず程良い距離で笑い合う

老年の三年振りは残酷だ  
デジタルに今更乗らぬ天の邪鬼

諦めの悪さ生き抜くエネルギー

お百度の石は文久山寺に  
何れ程の祈り聞いたろ百度石

一願の直向きも観た百度石  
リハビリの人揺れながら鬼の面

色褪せたページに紙魚と遭遇する

神戸市 青木 公輔

それなりの覚悟はちゃんと出来ていい  
サイの目が語る人生分岐点

申告敬遠これもいじめの始まりか  
句読点打つて未来へまっしぐら

川柳中毒こんな言葉もあつてよい  
真赤だね火のように咲くゼラニウム

人生を笑うしかない私なの

わからないチャットGPTなるものは

ふえてます記憶の彼方の事柄が

このところ頭の中は空回り

神戸市 石川 克美

ふるさとの方言につい振り返る  
紅白のつつじが誘う途中下車

大声の注意段差がありますよ  
鉛筆を借りた私の句が抜ける

ここが折り返し点です女坂

神戸市 酒井 宏

尼崎市 宗 和夫

趣味の開碁だんだん弱くなる傘寿  
傘寿です約束などはできません  
脳トレも三日坊主で効果なく  
久し振り乾杯音頭とる花見  
会長などとんでもないと嬉しそう

神戸市 田本古鈴

老い一人いつもと同じ五連休  
夫婦漫才ボケとツッコミ日替わりで  
妻はまだ白馬の王子待っている  
喧嘩より漫才が好き妻が好き  
連休が明ける梅酒を仕込まねば

尼崎市 山本百合

春祭りだんじりがゆく神がゆく  
朽ちてゆく家も植木も私も  
青空が今日の取柄となりにけり  
あの人私は私の駄にとまらない  
神に問う私は役に立ちますか

神戸市 山根弘華

ゆつたりと吹かれるままに雪柳  
真四角が憧れている橢円形  
期待され肩が重たいニューフェイス  
この空に続く戦禍の子の未来  
型崩れしたが持ち味残してゐる

小野市 田中辰夫

淋しさを救つてくれた子の手紙  
自己主張すぎて私が浮いている  
ポケットが好奇心ではち切れた  
引き出しの奥にしまつた黒い過去  
何気ない友の言葉に癒やされた

尼崎市 清水久美子

すり傷はつぱで治せた昭和の子  
父の日を三日も過ぎて思い出し  
肥後ナイフ鉛筆けずる子の動悸  
腎臓に石食べた覚えはありません  
金婚式苦勞かけたと金メダル

小野市 藤原泰宏

三キロの徒步をノルマにするタベ  
おばさんはおばさん服を着たがらぬ  
ペアルームをワンポイントに白髪染め  
意に介せず捨てている複製品

無意識に無駄遣いする年金日

さわやかな朝のうちにとした剪定  
草引きも花を見つけて手がとまる  
やんわりと諭せば耳は聴いている  
逢いたくて溜つた気持筆走る  
役下りてゆつくり寝れる幸せさ

三田市 生田えい子

三田市 幸田厚子

竜宮に居たかのよう見る桜  
終活と断捨離混ぜて墓仕舞い

皿の中明海で満杯だ

母介護いつか私も紙おしめ

深夜でも光漏れてる子供部屋

三田市 辻 開子

久しぶり上げ膳据え膳癒やし旅  
月一回湯好き外泊のめり込む

一泊で介護のお礼娘を誘う

落ち椿赤いじゅうたん足を止め

子に愚痴るあーせこーせで嫌われる

三田市 野口 龍

過去から未来心の居場所探して

浅い眠り見る夢悪夢正夢か

百面相顔で本心悟られぬ

良い人になりきれぬ不良でした

メルヘンの恋物語花言葉

三田市 森 玲子

寒暖差ありすぎ今年春バテよ

診察券増えた体の赤信号

タツチパネル指先迷う高齢者

思わずうつふふ猫のいびきに二人笑み

ウグイスの声聞きながら家事も終え

何くそと腹をくくつた女道

祝日に国旗も見ない町並に

地震ミサイル急なテロップマンネリ化

解除の里澄み切る空に花は咲く

アクリル板取れてメニューが踊り出す

丹波篠山市 河南すみえ

よい目覚め今日もスタート靴が鳴る

ふる里の風はおいしい初夏の味

きれいだよ花に優しく声かける

いつまでも溢れる涙父母のこと

歳月は人を待たずとは我的こと

丹波篠山市 澤 良子

飛び起きたホットな夢見日本晴れ

風に乗り綿毛たんぽぼどこへ行く

どっちにしよう迷い迷つて運まかせ

素朴でも言葉の奥の深さ知る

育苗の背伸び腰曲げ度がすぎる

西宮市 高瀬照枝

介護タクシー仲良くしたい杖だもの

保護猫の命あずかる日々がある

猫の手も借りて庭番草を抜く

リハビリに耐えてチャンスを待つて

乗り物はわたし無理やと感じた日

西宮市 高橋 千賀子

奈良県 室田 行久

かしわ餅で労うヤングケアラー  
こいのぼり猫にとつてはネコジヤラシ

捨てようと思ったバラが蕾もつ  
値段さえおき中味を減らす物価高

5類になつてもマスクとおともだち

西宮市 藤原 みよし

八十路なの仕事頼まれ拳グー

吹いてきた幸せ風に乗りましょ

よき人がいつも後にいる気配  
マスク取る決心したが伏し目がち

ボランティア久し振りです背をのばす

生駒市 饗庭 風鈴

涙腺が故障します天気雨

天気晴朗七つの海へ舟を出す

低気圧愚痴を言つても始まらぬ

気道確保の姿勢して深呼吸

銀河鉄道途中下車はできません

生駒市 永田 美美子

新緑の社御朱印帳が闊歩する  
柿若葉母の待つ里Uターン

懐かしい物ハデに着て案山子立つ

連休も平凡な朝前を向く

夜独りラジオを友に添い寝する

スマホなど必要ないと手帳出す  
町起こしパワースポット岩や木を

微笑むと望み叶うと孫の知恵  
歴史好き懺悔も兼ねて寺社巡り

親族に任せられない遺言書

和歌山市 佐藤 まさき

スカパーの野球契約娘の配慮

樂をしてテレビ棧敷で応援に

解禁の応援太鼓打ち鳴らす

行楽地中継茶の間で絶景

頼もしい次世代をみるフェスティバル

和歌山市 鍋嶋澄子

空よりも青い不モフイラ立ちつくす

思い出すときめくハートかくれんぼ

雨降るをながめ逢いたい妹よ

鳥さわぎひとつ残さずサクランボ

オニギリ持ち浜で貝掘り あれは夢

和歌山市 西川千鶴

惚れちゃいそう若き主治医の優しき眼

何だからア分割払いのペットたち

気紛れな風が吹聴する噂

看護師は正に天使と知った夜  
午前二時熟女の鼾三重奏

大阪市 前川善之

尼崎市 板谷賢二

老人は連休なれど行き場ない  
物価高金の多くは前借で  
高額の家賃払うて嫁がない

初夏の風腹一ぱいで泳いでる

大阪市 松田聰

三田市 木村マユミ

GTPヒト科の脳を駄目にする  
寒暖に負け風邪気味になる卯月  
5類でもマスクはずせぬ花粉症

ショパンから魔法かけられ目をつむる

河内長野市 三輪くにお

和歌山市 平松栄次

買うだけで夢が広がる宝クジ  
国境の隔てが海である平和  
チヨウは春トンボ梅雨明けセミの夏  
カレンダー印が並ぶコロナ明け

攝津市 萩布律子

鳥取県 田中重忠

違和感は消えてしまった砂粒か  
こつそりと夫の品だけ断捨離し  
本音でも失言みたい謝るわ  
冷奴油断できない崩れあり

藤井寺市 松井正義

待ち望む平和の光見える春  
良い季節お庭で食べるバーベキュー  
混雑のニュース横目に家レジヤー  
値上げにもコロナのお陰異議が出ず

初恋の橋は先生へと続く  
叫ばずにスマホに元気吸いとられ  
好きだからスタイルさえも良く見える  
咲いているうちは「キレイ」と言われます

花ならば菊でしょ私意地つぱり  
認知症痴呆さし足しのび足  
二十一番モーツアルトが媚びている  
また足を踏んで家内の三拍子

三田市 木村マユミ

居るはずの無い君の香に振り向いて

言葉から言葉を紡ぎ出すサギ師

介護から命の愛おしさを知る

プライドも今は禍いサヨウナラ

京の街住人歩けずこまつて  
九条を世界の法にしなければ  
改憲論不要な物の一つです  
句会報読んで勉強一時間

ケアハウス僕の川柳はつてある  
妻や娘の遺影を飾るケアハウス  
後戻りもう出来ませんケアハウス  
安樂死ねがつて いますケアハウス

松江市 相見柳歩

津山市 高橋 由紀女

草刈のリズム狂わすうつぼ草  
もう少し待つてみようか芽の気配  
熱いはなしスマホも熱くなつてくる  
ドラえもん好きだと言えば笑う孫

三次市 伊藤 寿子

スタミナを配分しつつ店へ立つ  
3歳の孫からなんといたわられ  
悪夢を続編まで見る もうダメか  
夢のはなし夫は耳にふたをする

那覇市 禱モモト

遊ぼうよメール文句に誘われて  
あせらずに時間が薬病気には  
恵まれず漫画読めない成人に  
庭の花春夏秋冬リレー咲き

宮 すみれ

目標へ眉毛逆立て巣立つ孫  
漂白し二度と着るまい白い服  
ユニークの友笑い取るテクニック  
月に映えしなる先生ムーンヨガ

弘前市 小山内 真由美

花も緑もやっぱり生にかなわない  
お向いの花今日も家主を待つて  
元気印大きくなつた金魚たち  
葉にもなるBGMのビートルズ

草刈のリズム狂わすうつぼ草  
もう少し待つてみようか芽の気配  
熱いはなしスマホも熱くなつてくる  
ドラえもん好きだと言えば笑う孫

## 第17回「ふるさと」川柳募集案内

### 課題『味』

(1口2句提出・12人共選・複数応募可)

選者 米山明日歌・吉崎 柳歩・赤松ますみ・  
石橋 芳山・梅崎 流青・浅利猪一郎  
他

締切 7月31日(消印有効)

投句料 1000円(小為替・切手不可)

投句用紙 (コピー可) 他便箋など

賞 最優秀賞1点(樺細工色紙掛仙北  
市産品)など

発表 柳誌「湖」10月号予定

投句先・問合せ先 ☎014-0602

秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85  
浅利猪一郎 方

第17回「ふるさと」川柳事務局 宛

電話 0187-48-2236

主催 川柳「湖」(うみ)

## 川柳信濃川『納涼川柳』談上大会

### 新作2句詠(一人一組、定形のリズム)

兼題と選者 「かける」

相田 柳峰 表 よう子 居谷真理子

柏原 夕胡 伊藤 寿子 吉道あかね

ほか7名の選者

締切 7月31日(消印有効)

投句料 1000円(現金または郵便小為替)

90歳以上の方は無料(証明書不要)

投句用紙は自由

発表誌は9月10日

賞 コシヒカリなど

投句先 ☎940-2042

長岡市宮本町3-2433

相田柳峰宛

電話 0258-46-5999

川柳句集『肉 眼』

橘 高 薫 風

悼 住田乱耽氏

晩年という日のなかりける男

水仙にはあたたかすぎる風邪の部屋  
便り来て咳こぼれたり うれしい咳

長尾鶏 李白は如何に叙すならん

通り抜け 花の濃淡夜に入りぬ

陰陽席 つつじの燃える頃となる

中尾藻介兄へ

男へもやさしい手紙書く男

父の愛娘にあつし 富士桜

切手にも金魚が泳ぎ風薫る

梅雨明けの雷どんと 路郎の忌

路郎の忌 白の鉄線一花でよし

路郎の忌 形見の肉池藍あせらず

路郎の忌 立膝癖も師父ゆずり

路郎の忌 句を奉り香華とす

路郎忌に 松の洩れ日になつかしさ

路郎忌に塔の影なす酒の壠

路郎の忌 天牛に来て落着きぬ

路郎の忌 睡蓮水の旅づけ

戦傷の盲人堀江正朗氏はかつて路郎忌句会に  
上阪を欠かせしことなれば

その人を待つ 路郎忌も七回忌

胃を切除つて夏冬ながし 誕生日

生け花の師匠にもある邪推かな

馬籠・妻籠にて 三句

お六櫛 われを籠らすひともなし

櫛の歯に秋の近づきいたりけり

雨上がり 猫はや歩く石畳

雲 波に 波 雲に似し はたちの日

ベトナムの難民に似た瘦昼夜寝

生き死には碁石のことではないのなり

一日は鎖環 倦怠期

# 愛染帖

## 新家 完司選

(投句253名)

奈良県 長谷川崇明

揚げ雲雀視力聴力まだいける

(評) 散歩中に聞こえてきた「ピーチクビー

チク」。はて何処から?と振り仰げば、遙か

上空に黒い点。耳も目もまだまだ大丈夫だ。

和歌山市 まつともとこ

病院もJ-S-Jも長い列  
(評) 行楽時期の休日ともなればユニバーサル・スタジオ・ジャパンは満員。一方、季節に関係なく病院の待合室は高齢者で満員。

大阪市 江島谷勝弘

久し振り百円玉が落ちていた

(評) 長い長い人生航路たまには良いことがあるものだ。お巡りさんへ届けるべきだが、百円では「変人か?」と思われるかも…。

松本市 柳田かおる

トンチンカントンチンカンと元気です

(評) 何事もテキパキ処理するのだが、トンチンカンが混じるのが玉に傷。しかし、それは「元気なおかげのトンチンカン」である。

西宮市 高橋千賀子

ヤングケアラー子供の日でも休めない

(評) 一学級に一人か二人はいる家族の世

別嬪を三秒ながめ睨まれる

(評) 別嬪さんに目が行くのは男性の本能

であり極めて自然なこと。だが、三秒は長すぎる。一秒以内の「チラツ」で我慢だ。

箕面市 中山 春代

賞味期限の順に並べる棚の菓子

(評) 頂戴した饅頭や自分で買った菓子類など。賞味期限の順に並べておいて、その順番に食べる。極めて合理的な生活の知恵!

半分は理解出来ないコマーシャル

(評) 何を言つているのか理解らないほど早口

のコマーシャルが増えている。ひょっとして、

そのように困惑しているのは高齢者だけ?

鳥取市 狹武 紫陽 値上げですかひと痩せしてるメロンパン

(評) 物価上昇が家計を直撃している昨今。

稀に「あつ、上がつていない」と思つたら

数が減つたりスリムになつてしまつたり…。

倉吉市 大羽 雄大 教習車の後ろに付いて教えられ

パン咥え空中戦のカラス達

神戸市 野口 龍 動と静勝ち気な妻がふります

お互いに再会したくない齡

岡山市 丹下 凱夫 綿棒に癒やされている風呂あがり

西宮市 高橋千賀子 尼崎市 永田 紀恵

話をしている健気な子ども。軍備増強よりもこの子たちを支援するのが急務である。  
徒然草マンガで読むとよく分かる

船橋市 中嶋 常葉 だらしない男の世話をしたくなる

大阪市 田原 康雄 大阪市 田原 康雄

岡山市 丹下 凱夫 岡山市 丹下 凱夫

尼崎市 永田 紀恵 尼崎市 永田 紀恵

神戸市 野口 龍 神戸市 野口 龍

城戸 誓子 岩手市 齋尾くにこ

那覇市 宮 すみれ 岩手市 齋尾くにこ

岡山県 藤澤 照代 岩手市 齋尾くにこ

大阪市 平賀 国和 岩手市 齋尾くにこ

塩竈市 木田比呂朗 岩手市 齋尾くにこ

佐賀県 真島久美子

堺市 内藤 憲彦

町が多々多い西日本

豊中市 藤井 則彦

豊中市 上田ひとみ

むくんだらガラスの靴が入らない  
豊中市 水野 黒兎

我が家では筋金入りのイエスマント  
大阪市 内田志津子

町が多く町の少ない西日本

三田市 上田ひとみ

注射され幼児返りか目をつむる  
生駒市 飛永ふりこ

近頃は応募するのか強盛も  
鳥取市 山下 凱柳

アラフォーガズラリ私の子供たち

熟睡で昨日のランチまで忘れ  
大阪市 石田 孝純

西郷紀美代

松江市 石橋 芳山

化粧する気力おんなのよみがえり  
香芝市 大内 朝子

私より顔が売ってる家の犬

藤井寺市 太田扶美代

健やかに老いて気持ち今は旬  
三原市 北野 哲男

自尊心失いかけた事がある

大阪市 高杉 力

卒寿過ぎまだ頼られるありがたさ  
石戸市 富永 恭子

故郷をジオラマにして持ち歩く

桜井市 安土 理恵

犬だつて相手見てから吠えている  
連休は市民無料の森歩く

青い鳥まだ探して古稀の森

北山まみどり

病院に行くためだけの停留所  
三原市 笹重 耕三

マッチングアプリで遊ぶ老いの恋

黒石市 奥園 敏昭

おじさんのブランコ疲れ切つて  
櫻原市 居谷真理子

楯突くと担当家事が増えていく

池田市 山下じゅん子

裏表私の知恵の見せどころ  
尼崎市 山田 耕治

いつまでも家事見習いで据え置かれ

竹村紀の治

人間で不思議やなあと陽は西に  
よく喋る患者と書いてあるカルテ

春雷へ二度も起こされまだ眠い

高杉 力

落ち込んで「さて」と元気を出すココア  
昭和の日 わたしやっぱり昭和の子

ナースに湯灌して貰うのは恥ずかしい

中村 隆彦

輪尿管付けてくれたはどのナース  
鳥取県 門村 幸子

怠惰な時間はコーヒーまでぬるい

米子市 池田 美穂

皿の絵も食べようとしている視力

橋本市 石田 隆彦

寝た月も空き家の上に出る

ニワトリも産めよ増やせと大変だ

中村 恵

分担の家事もいすれは句のこやし	広島市	松尾 信彦	戦争こそ命と金の無駄遣い	神戸市 敏森 廣光
川柳脳になるまでポツリポツリ	倉吉市 牧野 芳光	初夏なのにまだ冬の中ウクライナ	京都市 清水 英旺	同病の友と交換するエール
締め切りが集中力をアップする	大阪市 防府市 坂本 加代	仏様お目覚めしてと鐘鳴らす	大阪市 大阪市 三田市 大西 重男	東大阪市 青木ゆきみ
こつそりと覗いてみたい俺の脳	河内長野市 岩崎 公誠	日常がリアルに戻るGW明け	横浜市 川島 良子	肉うどん千円出さな食べられぬ
句の不作やつと分かつた脳委縮	香南市 桑名 孝雄	包丁使う妻はトントン僕ブツリ	池田市 倉本 一弥	芦屋市 新阜 義明
足すくむ句会場にはある怪気	大阪市 津守 柳伸	少し腕鈍ったキヤベツの千切り	鳥取市 田賀八千代	賞味期限決定権は妻にあり
青い空今日はポストへ遠まわり	西宮市 福島 弘子	フライパンで世界旅行をするメニュー	鳥取市 鳥取市 岸本 宏章	神戸市 米田利恵子
マスクには邪魔にならない低い鼻	神戸市 松岡 篤	厨房に今更入る気などなし	奈良県 安福 和夫	スーパーも過疎化の波に耐えられず
低い鼻マスク重宝してたのに	高槻市 島田千鶴子	そのうちになると返して揉めている	高槻市 片山かづお	豊見城市 見当たらぬ
マスク取る勇気日ごとに小出しする	宝塚市 岸田 万彩	チヨイ悪のお婆さんなど目標に	大阪市 森田 遊子	鳥取市 岸本 宏章
三年ぶりシニアコーラスいざゆかん	高槻市 今井万紗子	手離すと思うと惜しい里の家	高槻市 前田 洋子	新見谷孝代
ブーチンが理性失い天下布武	貝塚市 吉道あかね	隠してんのに老人斑が歳暴き	朝霞市 森田 遊子	生駒市 饗庭 風鈴
ブーチンの錯乱地球泣いている	岡山市 永見 心咲	車座になればみんなが主人公	河内長野市 坂上 淳司	あらさくら
ブーチンの名が出ただけで不整脈	岡山市 永見 心咲	久し振りあつた途端に笛太鼓	堺市 木見谷孝代	読み終えた長編作に満たされる
ミニコラム荒む心に灯を点す	奈良市 米田 恭昌	手をつなぎあなたとやじろべえになる	交野市 山野 双葉	奈良市 新見谷孝代
	奈良市 米田 恭昌	伊藤のぶよし	男鹿市 坂上 淳司	青木ゆきみ
	奈良市 米田 恭昌	勝止	近藤 勝止	青木ゆきみ
				奈良市 加藤江里子
				奈良市 加藤江里子



## 共選欄

檸  
檬

### 「サ イ ズ」

江島谷

勝 弘 選

大盛がうれしかつたなあの頃は  
ミニサイズ戦術核も怖い核  
サイズなど個人情報非公開  
災害のサイズふくらむ温暖化  
ちっぽけな日本の奥深い歴史  
放棄地のゆとりが過ぎた自給率  
物価高一万円が瘦せ細る

規格外才能開花二刀流

川柳は十七音のサイズです

晩酌のコップを猪口に替える老い  
盆がコップとなつて盛り上がり

靴サイズ外反母趾でE4つ  
ピッタリだ間違えたかも人の靴

足だけが特大サイズ親譲り

履いて見て左右で違う僕の足

三田市 上田ひとみ  
神戸市 上田 和宏  
大阪市 岩崎 公誠  
川西市 大坪 一徳  
松江市 石橋 芳山  
三原市 笛重 耕三  
岡山県 藤澤 照代  
大坂市 近藤 正  
岡山市 大石 洋子  
河内長野市 村上 直樹  
札幌市 三浦 強一  
三田市 生田えい子  
鳥取県 本庄ひろし  
黒石市 石澤はる子  
三田市 多田 雅尚

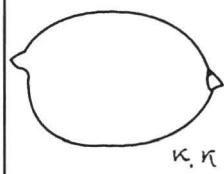
### 「サ イ ズ」

永 見 心 咲 選

笑つているうちにどんどんふくらんだ  
じいちゃんは尺貫法で生きている  
通販の品無駄に大きな箱でくる  
中八を小さい文字で書いたけど  
お月様のサイズ自然のプログラム  
ダウンサイズして一人居の暮らしよさ  
ポケットに入りきらない志  
負けず嫌いがMを持ち込む試着室  
リフォームの服軽やかに街に出る  
孫三人鴨居にお辞儀するサイズ  
スリーサイズほぼ直線になつて来た  
生き方はお気楽にフリーサイズで  
バカでかい家が老後の悩みです  
行列が続くジャンボのタコ焼屋

東京都 川本真理子  
郡山市 藤澤 照代  
岡山県 齋藤奈津子  
豊中市 井丸 昌紀  
大阪市 中村 恵  
鳥取県 斎尾くにこ  
犬山市 金子美千代  
富田林市 松江市 中筋 弘充  
越谷市 久保田千代  
大阪市 宮崎シマ子  
貝塚市 吉道あかね  
松江市 藤井 寿代  
和歌山市 柏原 夕胡  
高砂市 松尾柳右子

(投句312名)



K.K.

六十年靴のサイズは変わらない

労働の証し夫の太い指

桐箱に大梅干しが鎮座する

仕事やめ食つちや寝をしてしのし

新年度茶碗小ぶりに替えました

乾電池一から五までややこしい

空席のサイズ微妙で諦める

大仏様僕の心はミリサイズ

読む文字のサイズ大きい方がよい

しよりも旨いみかんはSサイズ

どうせならビッグサイズの法螺を吹く

トム・クルーズに鼻の高さで負けている

仲間には規格外も居て愉快

買い換える度にでっかくなるテレビ

聖子女史まねて鉛筆使いきる

お相撲さん服のサイズはいくつかな

じゃが芋のでかいサイズは中怪し

大小のお尻つめ合う五人掛け

細身だが胃袋だけはしサイズ

無限大実に秀麗富士の嶺

リーダーは度量でのかい人求む

大小誰が決めたか飯の量

尼崎市	藤井 宏造	尼崎市	藤井 宏造
宮崎県	黒木 栄子	鳥取県	黒木 栄子
奈良県	門村 幸子	奈良県	門村 幸子
堺市	中堀 優	堺市	中堀 優
箕面市	藤井 歌子	尼崎市	藤井 歌子
石川県	堀本のりひろ	池田市	太田 省三
米子市	堀本のりひろ	米子市	中原 章子
海南市	堀本のりひろ	海南市	山中 閑
三田市	堀本のりひろ	三田市	九村 義徳
明石市	堀本のりひろ	明石市	糸谷 和郎
堺市	堀本のりひろ	堺市	坂上 淳司
尼崎市	堀本のりひろ	尼崎市	坂上 淳司
羽曳野市	堀本のりひろ	尼崎市	堀本のりひろ
豊橋市	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
神戸市	藤原 大子	河内長野市	藤原 大子
三田市	坂上 淳司	尼崎市	坂上 淳司
尼崎市	木見谷孝代	尼崎市	木見谷孝代
西郷紀美代	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
堀	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
葛城 隆雄	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
谷川 慶	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
青木 隆一	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代

レシート捨てる 財布のエクササイズ  
はじかれて脹れつ面の規格外

うさぎ小屋住めば都のサイズです  
家計簿もMからSになりました

菓子箱にちょうど収まる茶封筒

仲間には規格外も居て愉快

人間のサイズ試される土壇場

ナノ以下が私の得意分野です

傷ついて地球のサイズ小さくなり

取り敢えず心のサイズ広げ聞く

成し遂げた父のサイズは変わらない

百式歳望郷しきりの豆句集

聰太とは脳のサイズは変わぬが

尻の穴で人の大小はかられる

サイズ合うたら全部買うたる売場ごと

試着室フリーサイズという油断

健診を終えて飲み干すロング缶

買い換える度にでっかくなるテレビ

迷惑かけず棺桶は標準サイズ

背もたれにパンダサイズの妻が居る

同年代美人女優もきっとゴム

両国を訪ねししサイズ買う

和歌山市 藤井 智史

和歌山市	藤井 智史	笠岡市	藤井 智史
尼崎市	山本 百合	尼崎市	山本 百合
大阪市	川端 一歩	大阪市	川端 一歩
奈良市	東 定生	奈良市	東 定生
堺市	坂上 淳司	堺市	坂上 淳司
鳥取市	前田 楓花	鳥取市	前田 楓花
松山市	栗田 忠士	松山市	栗田 忠士
鳥取市	山野すみれ	鳥取市	山野すみれ
小野市	藤原 泰宏	小野市	藤原 泰宏
津山市	高橋由紀女	津山市	高橋由紀女
西宮市	福島 弘子	西宮市	福島 弘子
奈良県	室田 行久	奈良県	室田 行久
鳥取市	池澤 大鯰	鳥取市	池澤 大鯰
桜井市	安土 理恵	桜井市	安土 理恵
黒石市	北山まみどり	黒石市	北山まみどり
大阪市	小野 雅美	大阪市	小野 雅美
河内長野市	木見谷孝代	河内長野市	木見谷孝代
岡山市	大石 洋子	岡山市	大石 洋子
鳥取市	奥田 由美	鳥取市	奥田 由美
大阪市	岩崎 玲子	大阪市	岩崎 玲子
豊中市	水野 黒兎	豊中市	水野 黒兎

饅頭のサイズ寂しくなつてくる  
イチゴ狩さつと手が出るしサイズ  
サイズ忘れて可愛さだけで買い  
食べやすくちいさめに切る介護食  
ベビー肌着未来分だけ袖を折る  
初めてのお出かけ靴10センチ  
入学に子の制服がチャップリン  
成長の記録柱のセロテープ  
スリーサイズ何のことだと孫は聞く  
孫三人鴨居にお辞儀するサイズ  
小六のひ孫がボクと同じ靴  
女房は身体Sでも口はL  
肝つ玉太い妻には勝てません  
夫婦して小心者で気が合つて  
値引き品欲しいサイズが見当たらず  
いつからかサイズ気にせずなつてもた  
えるえるのバジャマ大好き若がえる  
だんだんとパンツの裾が長くなる  
少しづつサイズ合わない服の山  
リフォームの服軽やかに街に出る  
ボディーライン隠す大きめの上着

米田利恵子 神戸市  
酒井 宏 香芝市  
高杉 千歩 大阪市  
尼崎市 清水久美子  
内 朝子 大阪市  
滝井えみこ 寝屋川市  
長尾 千賀 横浜市  
菊地 政勝 大阪市  
東 敏郎 尼崎市  
宗 和夫 大阪市  
宮崎シマ子 鳥取市  
川端 一歩 大阪市  
山下 凱柳 河内長野市  
藤塚 克三 大阪市  
横山 里子 小野市  
藤原 泰宏 大阪市  
岩崎 玲子 西宮市  
高瀬 照枝 大阪市  
大浦 初音 大阪市  
中村 峰子 越谷市  
久保田千代 安来市  
原 德利

さあ食うぞベルトゆるめてバイキング  
この頃の菓子パン小さくなりました  
見栄張つてボタンが飛んだMサイズ  
帽子とヘルメットのサイズはちがう  
乾電池一から五までややこしい  
店員のピッタリですを真に受けて  
ちよい太が元気と医者に宥められ  
口までも負けております蚕夫婦  
サイズ切れホツともてる高い服  
天まで届け田地サイズの鯉幟  
大小のお尻つめ合う五人掛け  
ちょうど良いスマホサイズの祝い状  
大宇宙人の尺度は知れたもの  
王冠に頭合わせている儀式  
カーデみな同じサイズでありがたい  
ひと冬を越したサイズにあるカオス  
大木が咲かす小さな白い花  
春の鬱フリー サイズという魔物  
大盛がうれしかつたなあの頃は  
婚約指輪大きい方がわたしです  
標準を諦めさせる試着室  
可愛くてダイハツムードみたいな子

米子市 竹村紀の治  
西予市 黒田 茂代  
横浜市 川島 良子  
西宮市 緒方美津子  
池田市 太田 省三  
高槻市 松岡 篤  
河内長野市 村上 直樹  
鳥取市 山下 凱柳  
大阪市 原田すみ子  
今治市 安野かか志  
神戸市 富永 恭子  
奈良県 中原比呂志  
唐津市 坂本 峰朗  
鳥取市 岸本 宏章  
神戸市 橋田 次郎  
奈良県 中原比呂志  
三田市 上田ひとみ  
寝屋川市 長尾 千賀  
岐阜県 喜多村正儀  
大阪市 島田 明美  
富田林市 山野 寿之  
尼崎市 板谷 賢二

レディースのMで間に合う父となる  
見栄張つてボタンが飛んだMサイズ  
一口が我慢できたらMサイズ  
肝はS体はMも夢はL  
縋はS横はLへと服選び  
まずサイズ値段も柄も後まわし  
通販の品無駄に大きな箱でくる  
どなたにもフリーサイズのおつき合い  
背丈は負けても目方で勝つている  
わからぬドーム何個と言われても  
黒線をはみ出す文字で励まされ  
悩んだら小さい方を取るんだよ  
二回り小さくなつた母を抱く  
洋服も靴も妥協をするサイズ  
Mサイズ箪笥の隅で欠伸する  
Mサイズ何があるうとMサイズ  
スリーサイズ関係なしの原始人  
スリーサイズほぼ直線になつて来た

秀句

向日葵はなにも競つてなどいない  
お月様のサイズ自然のプログラム  
人間のサイズ試される土壇場

三田市	幸田 厚子
横浜市	川島 良子
河内長野市	中島 一彌
羽曳野市	宇都宮ちづる
尼崎市	藤田 雪菜
豊中市	齊藤奈津子
鳥取市	吉田 弘子
藤井寺市	鈴木 いさお
河内長野市	森田 旅人
樺原市	居谷真理子
枚方市	柘尾 奏子
大阪市	石田 孝純
和歌山市	平井美智子
大阪市	西川 千鶴
桜井市	内田志津子
貝塚市	安土 理恵
鳥取市	吉道あかね

わたくしのサイズ私にわからない 黒線をはみ出す文字で励まされ 大人のそれはらいさなお葬式 画素数を上げると粗ばかり目立つ 旨そくに丼飯の作業服	
わからないドーム何個と言われても ウララウララと原寸で生きている 放棄地のゆとりが過ぎた自給率 コップ一杯入れたら水は溢れだす ちっぽけな日本の奥深い歴史	
肝つ玉があさん4Lのハート どうせならビッグサイズの法螺を吹く トム・クルーズに鼻の高さで負けている 父の靴呑み込みそうなスニーカー ごめんやでフリーサイズにや罪はない イワシかと思うサンマを有難く 出るとこと引つ込むとこが遊なだけ 2しの衣かぶつたえびフライ	
岡山市	丹下 凱夫
尾道市	村上 和子
三原市	笠重 耕三
大阪市	森 廣子
松江市	石橋 芳山
岡山市	明石市
大阪市	津村志華子
松山市	大内せつ子
宝塚市	岸田 万彩
大阪市	神戸市
高杉 力	斎藤 隆浩

秀句

父の日のメロンはきつとLサイズ  
向日葵はなにも競つてなどいない  
一ミリの違ひ靴には戻れない

倉吉市	牧野 芳光
樺原市	居谷真理子
弘前市	高瀬 霜石
今治市	永井 松柏
犬山市	関本かつ子
河内長野市	森田 旅人
尾道市	村上 和子
三原市	笠重 耕三
大阪市	森 廣子
松江市	石橋 芳山
岡山市	丹下 凱夫
大阪市	明石市
松山市	津村志華子
宝塚市	大内せつ子
大阪市	岸田 万彩
神戸市	斎藤 隆浩
堺市	内藤 憲彦
佐賀県	真島久美子
鳥取市	斎尾くにこ
前田	楓花

## 「救う」

(投句 219名)

杉野羅天選



ストレスをためた犬猫なでてやる  
人數分にわとり飼育雌七羽  
お隣りの看視カメラにVサイン  
助けられあなた任せが癖になる  
物価高母の野菜に救われる  
勇気ある下山へのち救われる  
最優秀救援投手は妻だ  
雲行きを見越し咄嗟の変化球  
ささやかでも被災地救う義援金  
凹んでも救いは二つ「食べる」「寝る」  
満たされぬ心を救うビターチョコ  
人間が地球を救うエゴイズム  
早期発見救われましたこの命  
私が自分を救い取れるなら  
人不信牧師の笑みに救われる  
支援品ブルカの奥に見る涙  
家計費を救うもしが良く売れる  
救いの手心を鬼にして出さず  
コロナ患者救つた医者に最敬礼  
ひと声で運命変えた「大丈夫」

男鹿市	伊藤のぶよし	西予市	黒田 茂代	堺市	澤井 敏治	鳥取市	門村 幸子	大阪市	岡田 恵子	和歌山市	まつもとともこ	笠岡市	藤井 智史	笠岡市	藤井 寶	西予市	黒田 孝純	神戸市	能勢 利子	唐津市	坂本 蜂朗	米子市	池田 美穂	横浜市	菊地 政勝	横浜市	伊藤のぶよし	西予市	黒田 孝純	神戸市	能勢 利子	唐津市	坂本 蜂朗	米子市	池田 美穂	横浜市	菊地 政勝	横浜市	伊藤のぶよし
大阪市	石田 孝純	西予市	黒田 孝純	堺市	坂本 蜂朗	鳥取市	門村 幸子	大阪市	岡田 恵子	和歌山市	まつもとともこ	笠岡市	藤井 智史	笠岡市	藤井 寶	西予市	黒田 孝純	神戸市	能勢 利子	唐津市	坂本 蜂朗	米子市	池田 美穂	横浜市	菊地 政勝	横浜市	伊藤のぶよし												

見つめられただけで救われたと思う  
神でなくお金がボクを救うのだ  
子覗は逃す鋤簾の目の粗さ  
過労死はイカン手抜きを覚えよう  
大嫌いな人が救いに来てくれた  
原発用救命胴衣ありますか  
南無阿弥陀悪人だつて救われる  
佳句

少額でごめんなさいと募金箱  
救世主登場足を組み直す  
モンゴルに支えられてる国技とや  
傍にいてあげる話を聞いたげる  
救いよう無いほど音痴座が和む

生き抜けと河童の皿に月の露  
頼りになるぞ昔の不良少年は  
人が人殺す地球を救わねば

三田市	藤井寺市	上田ひとみ	三田市	藤井寺市	太田扶美代	三田市	藤井寺市	永見 心咲	三田市	藤井寺市	小野 雅美	三田市	藤井寺市	香芝市	大内 朝子	岡山市	永見 心咲	三田市	藤井寺市	太田 扶美代	三田市	藤井寺市	小野 雅美	三田市	藤井寺市	太田 扶美代	三田市	藤井寺市	小野 雅美			
豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力	豊中市	大阪市	高杉 力			
大阪市	高杉 力	香芝市	大内 朝子	岡山市	永見 心咲	三田市	藤井寺市	鈴木いさお	岡山市	永見 心咲	太田 扶美代	三田市	藤井寺市	小野 雅美	三田市	藤井寺市	香芝市	大内 朝子	岡山市	永見 心咲	三田市	藤井寺市	太田 扶美代	三田市	藤井寺市	小野 雅美	三田市	藤井寺市	太田 扶美代	三田市	藤井寺市	小野 雅美
北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代	北山まみどり	藤井寺市	太田 扶美代			

やれ敵だ味方だ救うのが基本

軸 天

人殺す地球を救わねば

豊中市 水野 黒兎

やれ敵だ味方だ救うのが基本

人殺す地球を救わねば

豊中市 水野 黒兎

## 「目 移り」

(投句 215名)

齋 藤 さくら 選



同じ値段大きい品に手が伸びる  
女子会のランチメニューが決まらない  
ギヤル見ると目移りをする悪い癖  
今もつてよその旦那が良く見える  
百均で目移りがして大人買い  
イケメン揃いあれこれ迷うのが樂し  
目移りに鏡が笑う試着室  
あれもいいこれもいなと旬野菜  
まずビールそれから迷うお品書き  
美しいバラに目移りする私  
迷うだけ迷い買うのはまた今度  
目移りが過ぎて乱視になりました  
お連れさんちらりと見ては比べてる  
可愛くてどの子が欲しい猫選び  
友だちの彼に目移り悪いクセ  
最後には君に決めたと言われても  
どれにしよう取りそなつた迷い箸  
どの花へ耳打ちするか悩む蝶  
着てみたらすべて買いたい試着室  
目移りはほんの目先の浮気です

(河内長野市) 藤塚 克三  
(藤井寺市) 鈴木いさお  
(河内長野市) 穂口 正子  
(堺市) 村上 玄也  
(羽曳野市) 徳山みっこ  
(高槻市) 松岡 篤  
(大阪市) 宇都満知子  
(樞原市) 居谷真理子  
(大阪市) 坂 裕之  
(大阪市) 小野 雅美  
(鳥取市) 山下 凱柳  
(倉吉市) 大羽 雄大  
(大阪市) 森 廣子  
(香芝市) 山下じゅん子  
(大阪市) 島田 明美  
(堺市) 吹田 太田 昭  
(岡山県) 岡山市 永見 心咲  
(豊中市) 高杉 坂上 淳司  
(和歌山市) 柏原 夕胡  
佳 句

目移りはしても品質重視する  
さくらんばが笑う西瓜が招いてる  
惚れっぽい男と飽きっぽい女  
サンブルで迷いメニューでまた迷い  
次々と猫の額に春の花  
柳腰目移りをして京の橋  
天 地

目移りはしても結局もとの位置  
高砂やもう目移りはせぬ覚悟  
軸

お隣のステーキ財布首を振る

デパ地下でケーキ二つが決められぬ  
メニュー見て最後に決めただんご汁  
美人から美人目移りする食  
スイーツは目移りなしと決めて行く  
結局は好きな物だけバイキング  
ついついつい大きい方に手を伸ばす  
うどん待つ隣の蕎麦が美味そうで  
二択なら迷わぬ五択だと迷う  
目移りをびしゃりと止める値段票  
妻と行く買い物時間長くなる  
どの花もみんな違ってみんないい

(尼崎市) 和夫  
(和歌山県) 三枝真智子  
(犬山市) 金子美千代  
(富田林市) 岩崎 公誠  
(大阪市) 山野 寿之  
(大阪市) 内田志津子  
(西宮市) 緒方美津子  
(中村) 斎藤奈津子  
(今治市) 永井 松柏  
(豊中市) 中村 恵  
(和歌山市) 柏原 夕胡  
(東大阪市) 佐々木満作  
(岡山市) 永見 心咲  
(大阪市) 高杉 坂上 淳司  
(堺市) 三田市 北野 哲男  
(唐津市) 平井美智子  
(大阪市) 仁部 四郎

# ネトネ教室

## 題一 本

### 水野黒兎

皆様の句を読んで共感したり、触発され  
てその本を読んでみたいと思わせることが  
できれば素晴らしい事だと思います。その  
ためには具体的にその本がどんな本な  
か、どんな作家の本なのかがわかれれば読む  
人は理解しやすいと思います。

そんな例の句をまず二句。

☆は皆様の句、★は参考句です。

☆こんな時赤毛のアンになつてみる 風鈴  
赤毛のアンと具体的ですが、「こんな時」

が漠然としていますので、例えば

★ふる里で赤毛のアンになつてみる  
カナダ旅行赤毛のアンになつてみる

☆本棚ふかく眠り続ける小公女 えみこ  
小公女はアメリカの作家バー・ネット夫人  
の作品。この今までいいと思いますが

★本棚の奥で冬眠小公女

以下、今回は多くの句について具体化の  
参考例を示してみます。

★ 映画みて原作本も読むつもり 名都子

★ 映画見て原作を読む周五郎

★ この歳で胸キュンとなるコミック本  
名都子

★ この歳ではだしのゲンに胸がキュン  
名都子

★ 開く本挟んであつた恋と夢 栄次

★ 寂聴本に挟んであつた恋と夢

★ ひとときのロマンに浸る本の中邦子

★ ひとときを「嵐が丘」に浸る午後

★ 幼児より先に眠つた読み聞かせ えい子

★ ごんぎつね子に読みながら先に寝る

★ 単行本一気読みする徹夜して 開子

★ 大地の子一気読みして二十五時

★ わくわくと本を開いた一枚目 照枝

★ 最初からわくわく星の王子さま

★ 立読みの中身意外と覚えてる 博之

★ 元の句から離れてしまいますが

★ 立読みで自分史探る蜘蛛の糸

★ ゆっくりと本読む時間至福 泰宏

★ ゆっくりと鍼医梅安読む至福

★ 背表紙の整列のまま忘れられ

★ 文庫本折れたページに君がいた 龍

★ 借りた本の折れたページに君がいた

或いは村上春樹で具体化して

★ ドラマより時間気にせぬ本が好き 行久

★ 結末を先に読んだらすぐ寝れるくにお

いミステリーでしようか。この今まで意

味は分かりますが味気ないです。

★ 結末まで眠気我慢のミステリー

★ 老いて読む絵本の深さ奥深さ 玲奈

★ 小川未明の「野ばら」老いても奥深い

小川未明については後述します。或いは

★ 老いて読む周平が脳活性化

以上挙げた具体例はあくまで参考例です

のでご自分の好きな本、感動を受けた本

や作家で書き直してみてください。

★ 孫の部屋贈った本が見当たらぬ 利恵子

見当たらないという事実だけではなく何

か物語性を含めるといいですね。

★ 贈った本を孫は卒業した気配

★ 川柳誌やつと読み終えストレッチ 一平

★ 川柳誌読み終え脳のストレッチ

★ 文庫本折れたページに君がいた

一編の短編小説めいた句で素敵です。

★ ノルウェーの森を開けば君がいた

☆ 夜更かしも活字を見ては眠りつく 弥 生

★ 夜更かしのつもりの本が眠剤に

☆ 趣味読書と言えた頃が懐かしい ひとみ

★ 趣味は読書と言えた二十歳が懐かしい

☆ 本で読む「寝床」味なし笑いなし

不二夫

★ 文楽や志ん生が演じた落語の「寝床」のこと

★ 本で読むと落語「寝床」は味気ない

☆ もう彼岸教則本に師を偲ぶ 関

★ もう彼岸いま師を偲ぶ 入門書

★ 料理本貞をめくり作った気

★ 写真から匂いまでする料理本

☆ 絵本読みきかせる至福 乙なもの 貴美江

★ 至福と乙なものはダブル感じがします

★ 子に絵本読んで寝かせて日々至福

★ 本に字結びの句として、日本、本気、本棚、一本、本当、などで詠んだ句がありましたので少し紹介します。

★ 日本を背負って二万流は行く 賢二

★ 日本を背負い笑顔の二万流

☆ 本棚に想い出詰めてみる余生 良子

★ 本棚に想い出の喜怒見る余生 良子

☆ 隠れ家は暮らしの手帖論吉さん 双葉

★ 隠れ家とは素晴らしい表現ですね。題で

★ ある本が脇役みたいな句になっています

★ から上5の部分が長くなりますが

★ 暮らしの手帳をわが贋繕りの隠れ家に

★ 次はどの本、どの作家ということではなく一般的な本という物についての川柳です

★ 友として本との会話楽しむ日 さくら

★ いい心境の句でこの今までOKですが

★ 友として本と会話の弾む日々

★ 積んどく本増えて来ました老の部屋

★ 積ん読の山を崩した家籠り

★ スマホよりページをめくる本が好き のぞみ

★ 積ん読の山を崩した家籠り

★ 原稿を書いている今は四月下旬、コロナウイルスの第9波が始まつたとのこと。皆様ご留意ください。川柳塔誌が届く七月には鎮静化していることを祈ります。

以下、今月の佳句です。

○ 十歳に小川未明のちょい怖さ 誓子

○ 小川未明（1882～1961）は高名な児童文学学者で多くの小説・児童書があり、中にはちょいどころかとても怖い物語があるようです。「野ばら」は素晴らしいとの評判です。

○ 川柳塔リュックに詰めて旅の空栄子

○ 川柳に対する熱心さを買います。

○ 「美味しんば」子らに料理を教えられ

○ 最後に字結びの佳作。

○ 本当の寂しさ老いが連れて来る 静恵

○ 前回の課題「雨」の句を一ヶ月遅れで投

句されたのが一件到着。せっかくの投句ですから紹介します。

☆ 紺の雨葉も花洗ふ神の雨 ミヨノ

★ 葉に花に神の恵みの雨となる

# 川柳塔鑑賞

同人吟 藤井宏造

—6月号から

わたしにはちょっと無理です。  
心配も不安も母さん聞いたげる

上田 ひとみ

またまたやさしいひとみさん。しかし、  
あんまり甘やかすと、すぐ人に頼つてしま  
いますよ。ほどほどに。

## 青空のむこう戦がまだやまぬ

本田 さくら

酒井 紀華

青空のむこう、爆弾が炸裂し人々は死  
に、街は瓦礫と化し地獄を見る思いだ。一  
刻もはやく終戦を迎えてほしい。

## 戦争はごめん贊沢言いません

高杉 千歩

木田 比呂朗

贊沢は言いません。お酒は半分に減らし  
ます。だから戦争しないで下さい。この願  
いは一市民の思いです。

## あと一步進めば何か動くはず

平井 美智子

片山 かずお

そうです。あとほんのちょっと、皆が動く  
と変わるので。始めの一歩大事ですね。

## 変らないそれでも投票だけは行く

吉田 喜代子

葉桜が園児迎えた入園日

片山 かずお

関西では、四月始めに桜が散つて入学式  
の頃は、葉桜になつていました。これも温  
暖化の影響ですかね。

## 孫のなぜに答える為に図書通い

松岡 篤

明日一つあさつて二つ笑うだろ

中村 恵

喜代子さんは偉い立派です。私の一票ぐ  
らいでと、思いがちです。だけど投票に行  
く。その心掛けが大事ですよね。

## 春ウララこんな日救急車

酒井 紀華

空一面青空が広がって、ポカポカ陽気。  
そんな時、ピーpeeーpeeー何があつたの  
か、これが世の中言うもんですね。

## やあやあと故人もかすむ通夜の席

木田 比呂朗

友達のお通夜久し振りに、友達とも会い  
ワイワイガヤガヤ健康談義に、孫談義ミニ  
同窓会ですね。お静かに願います。

## ちっぽけなことだと悟るしまい風呂

久保田 千代

今日腹立てたこと、湯に浸かり思い返

すと、些細なこと、思えばホッと大欠伸。  
あーあいい湯だな。

## メモ帳になつてチラシが蘇る

柿花和夫

裏が白紙のチラシの再利用いいですね。  
わたしも作句に使つています。きっと、チ  
ラシも喜んでいるでしょう。

やさしい篠さん、孫のためならどこまで  
も調べ、ていねいに説明するのでしよう。  
も四つも笑うことでしよう。元気をもらえ

る句、ありがとうございます。

### 吐いて吸う間に歳をとつていく

牧野芳光

本当にその通りですね。息をするたび歳をとつてきます。一分一秒たりともおろそかにできません。

### 冷蔵庫がらんどうです旅帰り

斎尾くにこ

旅の前に冷蔵庫を整理するとは、さすが主婦の鑑。今夜は有り合わせで済まし、明日一杯買って満杯にしましよう。

### 介護には見えない金がかかります

九村義徳

そうですね、お金がかかると思います。知人もそう言つていました。回りの人は、わかつてくれません。大変ですね。

### 畠には筈の音が懐かしい

辻内次根

洋室も和室も掃除機の時代、筈のサッサツサツ懐かしい音ですね。逆さ筈も今はもう死語になりました。

### 人恋し詐欺と知らず話し込む

中堀優

大丈夫でしたか？詐欺にあいませんでしたか。寂しい心にスッと入り込むのが詐欺ですね。

歎師です。ご用心あれ!!

### 寂しくてキー・ホルダーに鍵を足す

中山春代

まだ足すのですか、鈴の音は愛しい人の声のようで、いつも愛しい人に守られています。なんごちそざま。

### 元カノが知らん顔して去つて行く

上出修

いえいえ元カノの心は、ドキドキバクバクですよ。ここは演技上手。それで、修さん

の表情はどう見えたのか？

### 恋をして可笑しいですか喜寿ですが

小畠定弘

おかしいことありません。何歳でも恋をして下さい。気になる女性がいるような

### 大陸になつてほしいとプロポーズ

藤井寿代

これはビックリ、男から女にですよね、母のようにですか？それでオッケーされたんですね。今は幸せですか。

### 蕗を炊くもらつた人を思い出す

前田楓花

いい句です。あげた人ももらつた人もいい人です。蕗を炊きながらニコニコしてい

るのでしょう。おいしそうない匂いがしてきます。ああー、僕も蕗が食べたくなつてきました。

### しわしわの手で渡される妻のお茶

北澤稠民

す。二人して艱難辛苦を、乗り越えられたと思います。お二人は夫婦であり、同志でもあるのです。これからは、おたがいをいたわりながら、長生きをなさつて下さい。お幸せに!!

### 入学式輝く顔のマスク無し

荒牧孝子

### 口角の筋トレせよと脱マスク

藤原大子

### マスク下三年分を陽に当てる

福西茶子

マスク関連の句も以前と比べ、様変わりになりました。コロナが五類になり、マスクするしないは、自由になりました。とは言え、マスクはコロナウイルスの、侵入を防いだと思います。マスクには大変お世話をなりました。マスクを道端に捨てるなど、言語道断です。ありがとうございますマスク、これからもよろしくね。

# 水煙抄鑑賞

—6月号から

工 藤 千代子

生き様を勝手に推理計報欄

新 庄 芳 香

大往生であれ離別は哀しい。まして自分より年下だと鬱病、事故かと。平均寿命、健康寿命、健康寿命を全うしてほしい。

テープルの文具が魔惡な夕餉時

岡 本 余 光

「晩ご飯だから、これらを片付けて」毎回言われ食事時に繰り返す我家の日常、だけどこのテーブルで名句、迷句が生まれ育つてくれる。食卓が私の書斎。

純行に乗つてゆつくり見る桜

永 田 芙美子

笑いながら咲き風と遊びながら散る桜を車窓から眺めている。喧噪から放れ、しばし母である事すら忘れて。駅舎の傍の桜は今日もドラマを見続けていた。

焙煎の薰りおしゃれな雨が降る

原 德 利

丁寧に焙煎された珈琲の薰りを楽しみながらの至福のひととき、今日は少し苦味が美味しいマンデリン。

春寒にまだ冬を仕舞えない

宮 田 風 露

歳を重ねるたび寒がりになつた。昼は暖かいのに朝晩は冷える。ジジ、ババシャツが身近にあると安心してしまう。

雜草と呼ばれているが花は咲く

山 野 すみれ

昭和天皇や牧野博士の「雜草」という草はない」という名言はよく知られている。人それぞれに固有の姓名がちゃんとある。オバちゃん、おばあちゃんではなく正しくフルネームで呼んでほしい。

記念写真みんな平和な顔をして

田 中 重 忠

る。哀しみや寂しさを閉じ込めた顔が微笑んでいる。

春色にしました今朝のマグカップ

郷 田 み や

ランチョンマットや箸を変えると、春の桜は今日もドラマを見続けている。

が新鮮になる。今日は歩数を伸ばして、薔薇やボビー、ラベンダーにも会いに行こう。

四年ぶり解き放たれて花の下

加 藤 佳 子

コロナにも感染症の5類感染症になつた。移行後は自主的に判断とマスクや三密が個人の選択になつた。各地で大会が実施される。柳友に四年ぶりに逢える。

家守るいうてもヤモリ気味悪い

阪 本 秀 子

我が家に夜毎遊びに来るヤモリは、シャンブレー、リンス、コンディショナーと名付け、シャンブレーとリンスは新婚旅行へ、今年はその子達に会えるかな。

留守しますチキンカレーありますよ

樺 葉 良 子

カツブラー、メン、うどんもあります。卵焼きぐらいはご自分でどうぞ、独りになつた時困らないように。

まばたきの数で測つている真意

真 島 久 美 子

瞬きを忘れたよう見つき込まれると、首を縋に振つてしまつ。まばたきの回数が多いと疑つてしまう。友の癖だが、今日は騙されてあげるね、春だから。



# 新家完司のせんりゅう飛行船



## 夏を詠う

夏の訪れを告げるのが美しくも妖しげな蛍の乱舞です。早いところでは、五月の中旬から下旬にかけて、遅いところでは六月の中旬から七月の上旬にかけて「蛍狩り」の催しがあります。もちろん、「蛍狩り」と言つても蛍を捕るのではなく夕涼みを兼ねてそぞろ歩きで眺めるだけです。

優しさの中へ帰つて来た蛍

つかず離れずいもうとだらう螢とぶ

螢かご兄がちよつかいかけてくる

螢のお尻見に行くツアーパー参加する

母ひとり螢の里を離れない

子の無事を想う螢が乱舞する

八月の「火垂るの墓」はレクイエム

螢のお尻が光るのはオスとメスが出会うためですが、その神秘的な点滅を見て私たちは様々な想いを広げます。また、

幼い頃に父や母に連れられて眺めた不思議な光の舞いなど終

生忘れられません。野坂昭如の短編「火垂るの墓」は、戦火

なお本欄106の「蝶と蜂と螢」にも螢の句があります。

さつくりと西瓜を切れば夏匂う  
カップ入り細切れスイカ食べる夏

夏來たる元気に転ぶ草野球  
まめにお茶まめにトイレが夏仕事

小島 蘭幸  
鴨谷留美子  
太田扶美代  
堀 正和  
鈴木千代見  
斎尾尾にこ  
坂本 加代  
心頭を滅却すれば熱中症  
この猛暑私も間引きされそうだ  
猛暑には冷やし甘酒飲んで克つ  
猛暑日の昼寝の介護扇風機  
この暑さ外で働く人析る

氣象用語では一日の最高気温が25℃以上の日を「夏日」30℃以上の日を「真夏日」35℃以上の日を「猛暑日」としています。真夏日ぐらいまでは何とか耐えますが、猛暑日が続くと動くのも面倒でだらだらするのは誰しも同じです。そのような猛暑日には「冷やし甘酒」でも頂いて、扇風機の爽やかな風を受けて昼寝でも…、と思いますが、屋外で働く人たちのことを忘れてはバチが当たるでしょう。

暑いから裸でお経上げてます  
ステテコでお散歩すればクールビズ

炎天にママチャリ飛ばし墓参り

原 德利  
江島谷勝弘  
村田 博  
楓花

に買えるアイスクリームやシャーベット等に押されて需要が減っています。しかし、軽く塩を振ると水分と塩分を同時に補給できて熱中症予防になります。またビタミンCで美肌効果、カリウムで血圧改善にもなるスグレモノです。

男連中は裸でお経とかステテコで散歩とかチントラです  
が、元気なおばちゃんは炎天にママチャリを飛ばしています。

猛暑日はだらだらころり気が弛む

微動だにせず酷暑の昼夜がり

何しても上手くいかない暑い日は

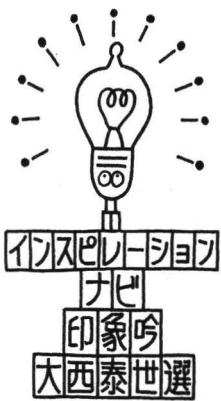
心頭を滅却すれば熱中症

この猛暑私も間引きされそうだ

猛暑には冷やし甘酒飲んで克つ

猛暑日の昼寝の介護扇風機

今井万紗子  
山端なつみ  
石田 孝純  
住吉美和子



(投句 180名)

今年の夏も、またまた酷暑になりそうとか。それに台風の発生時期も早過ぎて何だか先が思い遣られます。

日々の温度差も有り過ぎたりして、頑丈なつもりでいた私も体調を崩してしまいました。

鬼の霍乱、なんて言われても、しんどい時は怒る気もしないということが身に沁みました。

皆様方もどうぞご自愛なさって下さいますように。

では、ナビを。

唐津市

仁部 四郎

(評) 仕事にしろ趣味にしろ、一生情熱を注げるものがあるのは幸せなこと。軸がブレると人生損をした気になります。

津山市

高橋由紀女

結局は力バンの底にあつた鍵

(評) あわてて捜す時ほど出て来ないん

ですよね。後から落ち着いて見れば、こんな所にあつた、あつた。

枚本市 栃尾 奏子

夫婦つてきと空中ブランコだ

三田市 堀 正和

(評) 空中ブランコって本当に見事ですね。宙にある手をシッカリ掴むのですから、信頼あるのみです。

西宮市 亀岡 哲子

時々はええことも言つお婆さん

札幌市 三浦 強一

マイナンバーかさし悠々あの世まで

芦屋市 新阜 義明

(評) そうですが、その通りです。妻の自尊心を傷つけて家庭の平和はありません。エツ、どんなって聞かれてもねえ。

尼崎市 山田 厚江

百均は値上げせずともやつてはる

弘前市 福士 蓼情

(評) ロシアの侵略から、便乗とは言いいませんが、値上げ値上げの波。でも百均はあんまり変わつていません。

氣球に乗つて隣の国の偵察に

豊中市 松田蟻日路

何度もお手させてもタマは覚えない

奈良県 長谷川崇明

木簡がバイブルとなる考古学

池田市 太田 省三

今時の幽靈足が付いている

三原市 笹重 耕三

花びら餅女系家族に一女増え

松本市 宮尾みのり

(評) 今はホントに何が起こつてもおかしくない時代です。足の無い幽靈も見たこと無いけど、足の有る幽靈もまだ。

生駒市 飛永ふりこ

積み上げる本の葉が物憂げに

松本市 宮尾みのり

名刺代りに持たされました迷子札

貝塚市 石田ひろ子

(評) お隣りの国ニュースを見ましたけど、あんなに歎章一杯付けていたら外

した時の喪失感や如何に！

歎章を外すとただの「老人」

米子市 妹能令位子

(評) 仕事にしろ趣味にしろ、一生情熱を注げるものがあるのは幸せなこと。軸

朝が来たやることリスト読み上げる

堺市 澤井 敏治

(評) キッチリとした眞面目なお方、こ

探査機を凜と拒んだかぐや姫

結局は力バンの底にあつた鍵

(評) キッチリとした眞面目なお方、こ

のよう一日を始められたら無駄な時間なんて無くなりそう。でも、私ムリ。

大阪市 江島谷勝弘

電球もぼつぼつ死語になりそうだ

枚方市 藤田 武人

竹皮のおにぎり持つてツーリング

河内長野市 森田 旅人

帰還船亡夫を連れて来るらしい

松山市 柳田かおる

宇宙食シェフもとまどう星一つ

箕面市 箕面市 出口セツ子

振りあげた拳 終わらない戦

奈良市 山本 昌代

脱ぎ捨てて心のままにアプローチ

大阪市 平井美智子

本番の涙は別に取つてある

櫻原市 居谷真理子

拳骨を無理にほどいてする握手

東大阪市 青木 隆一

ゆっくりと流れにまかすそれも良し

三田市 野口真桜子

シルクロード駱駝の背には水と酒

弘前市 高瀬 霜石

いつだつて倒れる時は向こう傷

松本市 郷田 みや

最初はグー次の一手が決まらない

大阪市 森田 遊子

ナメクジとで虫ほどの違いだけ

熊本市 杉野 羅天

全電源喪失キーワードはこれ

香芝市 大内 朝子

もう少しこの世に居たい呼ばないで

大阪市 佐賀県 江島久美子

本当はフレンドリーなオバケ達

大阪市 岩崎 玲子

夫源病ペットを飼つて消えました

男鹿市 伊藤のぶよし

風になつても遊べそつオノマトペ

東大阪市 青木ゆきみ

知識だけつめこみすぎて歩けない

神戸市 松倉 正美

骨粗鬆症三回言つて舌をかむ

尼崎市 藤田 雪菜

逆向きに寝てもおんなじ夢を見る

大阪市 井丸 昌紀

特売の靴下買つたばかりに

笠岡市 藤井 智史

からしでもいかがツーンとこない恋

尼崎市 近兼 敦子

個性ある声で覚えていてくれる

弘前市 稲見 則彦

パズルまだ解けずに秒針が早い

西宮市 福島 弘子

遺伝子に欲しい頭脳の明晰さ

黒石市 北山まみどり

回転がはやいだなんて褒めないで

米子市 後藤 宏之

レス特朗人気メニューがありません

(平本 霧石人 画)

数倍は疲れる駆け出しのキャディ

寝屋川市 川本 信子

金出してバンジージャンプなんまいだ

北山まみどり

瓶ビールなくて栓抜き出番無し

宝塚市 丸山 孔一

佐賀県 真島久美子

オバキューブの髪は三本あつたはず

鳥取市 福西 茶子

あらいやだ風にウイッグ盗られそう

犬山市 金子美千代

忠誠を骨一本で誓わされ

鳥取市 山下 凱柳

私って頭でつかちなのかしら

高砂市 裕木 るい

身の丈を知つてバカ知らぬ馬鹿

大阪市 平賀 国和

怠けると父の拳固を思い出す

朝霞市 前田 洋子

輪の中で密かに舌を出す輩

寝屋川市 平松かすみ

パズルまだ解けずに秒針が早い

鳥取県 門村 幸子

レスラン人気メニューがありません

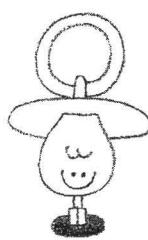
宝塚市 丸山 孔一

年を経て望郷の念いや増しぬ

河内長野市 藤塚 克三

柳箋に2句

## 9月号発表 (7月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# 『良い川柳から学ぶ

## 秀句の条件

新 家 完 司 著

棄 原 道 夫

本書は、「川柳マガジン」に平成23年8月号から連載している「名句を味わう理論と鑑賞」（現在も連載中）から532句の鑑賞文をまとめたものである（2023年4月22日初版・新葉館出版・A5判・288頁・1700円+税）。

このバスでいいのだろうか雪になる  
なんばでもあるそと滝の水はおち  
前田 伍 健

多样な読み方に耐えられるのも作品の力である。

著者は、「あとがき」で、「作者の実感が込められた優れた作品は、ユーモアのある軽い内容であつても決して薄っばらではなく、読む者に様々な想いを抱かせてくれます。私の鑑賞はその奥深い味わいの一部を述べているにすぎません。読者が工夫した「自家製」が効果を發揮する。

532句の鑑賞文をI～IIIに分けて収録し、それぞれの扉には著者が考える「良い川柳」の条件が示されている。要点のみ抜粋する。Iでは、「良い川柳は読者の心に訴えかける強い力を持っています。

（略）良い川柳は作者の想いを具体的に述べて具象の力を引き出しています。」IIで

は、「良い川柳は一読明快でありながら味わい深く独創性があります。（略）内容

は独創的でありながら表現は簡潔明解であり伝達性を保っているのが良い川柳です。」IIIでは、「良い川柳は読みやすくリズミカルに仕上がっています。」鑑賞文の中には、良い川柳や作句方法・態度などについても触れているものがある。何例か挙げておく。

人嫌いへちまのつるを首にまく

淡 路 放 生

観察で掴んだ具象か心象風景かは意見の分かれるところだが、いずれとも受け止めることができる句は味わい深い。

止めることができる句は味わい深い。

著者は、「あとがき」で、「作者の実感が

込められた優れた作品は、ユーモアのあ

る軽い内容であつても決して薄っばらで

なく、読む者に様々な想いを抱かせて

くれます。私の鑑賞はその奥深い味わい

の一部を述べているにすぎません。読者

諸兄それぞれの感性で自由に楽しんでい

ただければ作品もより一層精彩を放つに

違ひありません」と述べている。本書は、

著者がその句を取り上げた理由を理解・

想像しながら読むことにより鑑賞力を深

め、また自分ならこのように鑑賞するな

あと楽しみながら読むことができる一冊である。

身の置き場無くて鴨居にぶら下がる

丸 山 進

現代川柳では「おかしみ」が敬遠され気味だが、中でもナンセンスは作るのが難しい割には支持され難い。「評価など気にしない」と割り切った者だけが到達できる自由自在なフィールドである。

ブルブルと秋をかき分けミニバイク

古久保 和 子

擬音語や擬声語は既製品ではなく作者

が工夫した「自家製」が効果を發揮する。

著者は、「あとがき」で、「作者の実感が

込められた優れた作品は、ユーモアのあ

る軽い内容であつても決して薄っばらで

なく、読む者に様々な想いを抱かせて

くれます。私の鑑賞はその奥深い味わい

の一部を述べているにすぎません。読者

諸兄それぞれの感性で自由に楽しんでい

ただければ作品もより一層精彩を放つに

違ひありません」と述べている。本書は、

著者がその句を取り上げた理由を理解・

想像しながら読むことにより鑑賞力を深

め、また自分ならこのように鑑賞するな

あと楽しみながら読むことができる一冊である。

台風が近い暖簾が揺れている

伊 藤 益 男

わずか十七音で述べなければならない川柳の要諦の一つは、事象の細部を述べて全体を想像させること。

# 本社六月句会

◇六月七日（水）午後一時  
ア ウ イ ー ナ 大 阪

席題「肩」 江島谷勝弘選

月間賞は居谷真理子さん（樺原市）  
(司会・武人・真理子) (脇取・奏子・すみ子)  
(受付・孝純・雅美) (懸垂幕墨書・耕治)  
(清記・憲彦・勝弘・国和)

燕の姿を頻繁に見るようになつた7日、本句会は、116名（うち投句者18名）の参加で開催された。初出席は福島りかさん（大阪市）。今月のお話は川柳マガジンの松岡恭子さん。題は「川柳と怪談」。お化けや妖怪、靈など語でオカルト的な作品を探すと、老人をなめたらあかん化けて出る 塩満敏

天国に酒がなければ化けて出る 新家 完司 化けて出るくらいの意地は持つてある 藤井 智史

幽霊になつてもこなすスケジュール 平井美智子

など。「言靈」になると、言葉の持つ力を信じて魂がこもると考えて大切に言葉を駆使している句が沢山あり、目に見えるものを超越づかされる。「川柳と靈（たましい）」をテーマにするべきだったか、と結ばれた。（眞澄）

肩組んで六甲おろしの心地よさ 又少し右肩上がりだなコロナ 朝刊を読めば肩こる事ばかり 肩組んでブーチンをやつつけようか 名人戦テレビ観てても肩が凝る 肩入れして正解だった照ノ富士 肩触れただけで痴漢と騒ぎ立て 肩組んで赤旗振った日も遙か 肩を組みロシア民謡青春譜 不本意ながら肩もたたいた宮仕え 肩ちゃんの男はもういない 枇杷をとる遠い記憶の肩車 肩と肩擦れ合う距離にあるホの字 肩に手を回され意識してしまう 初代 正彦 初代 正彦

小野 雅美 和郎 酔いどれて肩と肩組む杖と杖 肩たたき券極にそつと入れた孫 1200兆孫氏の肩は持つやろか 肉のうまみぎゅっとつまつた肩ロース 一人つ子肩にしりと父と母

木嶋 盛隆 小野 雅美 山野 寿之 藤井 宏造 松岡 篤 緒方美津子

御洒落してショルダーバッグルイヴィトン 片意地をはつて五歳のふくれづら 古今堂蕉子 人 肩組んで効果で終うクラス会 女から母へと外す肩パッド 肩組んでふたり一緒にこけました 島田 明美

大浦 初音 肩の凝る話はやめて酒や酒 地 藤井 宏造

ばあちゃんは兄ちゃんの肩ばかり持つ 横綱の肩にさわってみたくなる 肩書きが取れて振ってるフライパン 何回も同じこと鳴呼肩が凝る 肩の荷を下ろせば次の荷が届く とりあえず肩甲骨をほぐしましょ 初代 正彦

森松まつお 坂上 淳司 平松かすみ 加藤江里子 内藤 憲彦 高杉 隆一 青木 隆一 島田 明美

内藤 憲彦 菊江 藤田 武人 藤田 武人 山崎 武彦 山崎 武彦

西上 遊二 岩田 憲彦 村田 博 西上 遊二

宇都満知子 田原 康雄

横谷 和郎 内藤 憲彦 高杉 力

おお怖い路肩分からぬ雪の道 虎造と肩までつかる仕舞風呂 歯の治療やつと終つて肩で息 わたくしの肩でよければハイどうぞ 肩の荷を下ろしたとこを狙われる 中岡千代美

内藤 憲彦 菊江 藤田 武人 高杉 力

西上 遊二 岩田 憲彦 村田 博 西上 遊二

おお怖い路肩分からぬ雪の道 虎造と肩までつかる仕舞風呂 歯の治療やつと終つて肩で息 わたくしの肩でよければハイどうぞ 肩の荷を下ろしたとこを狙われる 中岡千代美

宇都満知子 田原 康雄

横谷 和郎 内藤 憲彦 高杉 力

肩組んで六甲おろしの心地よさ 又少し右肩上がりだなコロナ 朝刊を読めば肩こる事ばかり 肩組んでブーチンをやつつけようか 名人戦テレビ観てても肩が凝る 肩入れして正解だった照ノ富士 肩触れただけで痴漢と騒ぎ立て 肩組んで赤旗振った日も遙か 肩を組みロシア民謡青春譜 不本意ながら肩もたたいた宮仕え 肩ちゃんの男はもういない 枇杷をとる遠い記憶の肩車 肩と肩擦れ合う距離にあるホの字 肩に手を回され意識してしまう 初代 正彦 初代 正彦

小野 雅美 和郎 酔いどれて肩と肩組む杖と杖 肩たたき券極にそつと入れた孫 1200兆孫氏の肩は持つやろか 肉のうまみぎゅっとつまつた肩ロース 一人つ子肩にしりと父と母

木嶋 盛隆 小野 雅美 山野 寿之 藤井 宏造 松岡 篤 緒方美津子

御洒落してショルダーバッグルイヴィトン 片意地をはつて五歳のふくれづら 古今堂蕉子 人 肩組んで効果で終うクラス会 女から母へと外す肩パッド 肩組んでふたりと一緒にこけました 島田 明美

大浦 初音 肩の凝る話はやめて酒や酒 地 藤井 宏造



ドラマティックな出逢いもなくて最終章

木本 朱夏

天

此のひととドラマ夢見た青かつた  
妻と僕喜劇悲劇で五十年

敏森 廣光  
良岩

梅雨あい間老いのドラマを干しておく  
伊達 郁夫

一言でぐらり崩れる砂の城  
奢りだと聞き休肝日止めにする  
斎藤 隆浩

木本 朱夏

筋書きの無いスポーツにはまり込む  
千の風いのち続いていくドラマ

西村 哲夫

特攻機片道だからもろかつた  
軸

人知れず情にものろい頑固者  
くすぐれば意外にもろい強面

森 幸彦

ドラマより過酷戦禍のウクライナ  
ドラマだなあ生まれる時も逝く時も

稻葉 正彦

一行詩ドラマが呼吸しています

涙もういから忠臣蔵が好き  
背の高いイケメンですが骨が無い  
雨澤行兵衛

戦争をドラマのように観る怖さ  
シナリオは私次第の空もよう

上田ひとみ

川本 信子

千賀 千賀  
大浦 初音

森 松まつお

人間のドラマ行き交う交差点  
十字架を背負う終わりのないドラマ

山野 寿之

長尾 千賀  
朝子 蘭幸

横槍は強いが情にはもうい  
涙もうい言うても猪口は離さない  
粘り腰きかずあつさり寄り切られ

澤井 敏治

よく動くゼレンスキーにドラマ見る  
フランス語のドラマボンジュールだけ聞き取れる

藤井 宏造

小島 孝純

柳伸 柳伸  
夫には強いが息子にはもうい  
懐の寒さをついた闇バイト

澤田 雪菜

江島谷勝弘  
ホスピスに命のドラマ咲く如く

坂本 秀子

森 廣子

青木ゆきみ  
糞谷 和郎

小野 雅美

今日どんな色を塗ろうか日々ドラマ  
出口セツ子

坂本 朝子

大内 朝子

津守 津守  
藤田 雪菜

西出 楓楽

よく動くゼレンスキーにドラマ見る  
フランス語のドラマボンジュールだけ聞き取れる

坂本 秀子

森 廣子

澤井 敏治  
糞谷 和郎

小野 雅美

嫁ぐ娘に涙腺緩む太い眉

中井 萌

伊達 郁夫

津守 津守  
藤田 雪菜

島田 明美

嫁ぐ娘に涙腺緩む太い眉  
今日どんな色を塗ろうか日々ドラマ

内藤 憲彦

伊達 郁夫

内藤 憲彦  
別嬪に脆い焼酎にも脆い

新家 完司

人生に九回裏がある愉快

片岡 加代

阪本 秀子

阪本 秀子  
力加減とともに大事なシャープベン

新家 完司

カーテンコール誰もくれないわがドラマ

西出 楓楽

石田 孝純

折田 あきこ  
宇都満知子

平松かすみ  
糞缶の骨のもろさと恋ごころ

さあ朝だ今日のドラマが待っている

藤村 亜成

A.I.はもう刃の剣かも知れぬ

日本列島今日もどこかで揺れている

糞缶の骨のもろさと恋ごころ

人生に九回裏がある愉快

澤井 敏治

澤井 敏治  
日本列島今日もどこかで揺れている

糞缶の骨のもろさと恋ごころ

糞缶の骨のもろさと恋ごころ

人生ドラマ百態積んでゆくこの世

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

人生ドラマ百態積んでゆくこの世

今井万紗子

高杉 力

高杉 力  
夜に泣く気丈な母のもろさ知る

高杉 力  
情けには脆い男でよく転ぶ

地

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

人

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

監督は妻ボクは夫を演じてる

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

人生ドラマ百態積んでゆくこの世

今井万紗子

高杉 力

高杉 力  
夜に泣く気丈な母のもろさ知る

高杉 力  
情けには脆い男でよく転ぶ

地

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

人

居谷真理子

居谷真理子  
やさしさに触れると涙もろくなる

居谷真理子  
足を入れるとガラスの靴は碎け散る

居谷真理子  
耳掃除されると心太になる

天

やんわりとガラスの母を抱き起す  
軸 鋼には鋼の脆さ 家族の輪

老春をまだまだ謳歌日焼け止め

兼題「焼く」 川端 一步選

大内 朝子

夕焼けにどんな絵の具も及ばない  
夕焼けはお祭りだった昭和の日

廣田 三宅 保州

すき焼きはお祭りだったたどんど焼き

藤井 則彦

心まで綺麗になつたどんど焼き

居谷真理子

そら豆をさやごと焼いて初夏の酒

大阪は誰の家にもタコ焼き器

愛情で焼くから芋が甘くなる

大久保真澄

何枚も焼き増しをしたあの写真

青木ゆきみ

焼き鳥はやっぱり屋台つまいなあ

木嶋 盛隆

戦争は民が犠牲の焼け野原

江島島勝弘

ミサイルに世界手をやく北のボス

長谷川崇明

人の世話焼いて傘寿のボランティア

山野 寿之

秋吉台大パノラマとなる野焼き

小島 蘭幸

妬き餅を焼く齡でなし知らんぶり

みぎわはな佳

手を焼いた子らに囮まれ桃源郷

斎藤 隆浩

初登山朝焼けの富士素晴しい

新家 完司

火葬場のけむり宇宙に溶けていく

山下じゅん子

山下じゅん子

父の日だ秋刀魚きれいに姿焼き

柴本ばつは

何もかも燃やす焚火が性に合う

兩澤行兵衛

焼け跡に耳を澄ませばゲンの声

澤井 敏治

火葬場は数多の無念焼き尽くす

小野 雅美

廃船を焼いて漁師は島を去る

柿花 和夫

夕焼けは歌になるほど美しい

山中 廣子

冷凍のサンマを焼いて誕生日

田中 廣子

レアに限るギフトでもらう神戸牛

山下じゅん子

肴毎に付す許されたんだよとおくる

川端 六点

夕焼けは歌になるほど美しい

和田 肇

冷凍のサンマを焼いて誕生日

内藤 壽彦

夕焼けは歌になるほど美しい

川端 六点

冷凍のサンマを焼いて誕生日

内藤 壽彦

夕焼けは歌になるほど美しい

和田 肇

冷凍のサンマを焼いて誕生日

内藤 壽彦

夕焼けは歌になるほど美しい

## 島根県川柳大会

日 時 9月 17日(日) 開場 午前 10時  
 出句締切 午後 1時 30分  
 場 所 太田市・あすてらす  
 (島根県男女共同参画センター)  
 参 加 料 1500円  
 欠席投句 1000円 (現金または小為替)  
 投句締切 8月 25日(金) 必着  
 投句用紙の規定なし

兼題と選者 (各題 2句吐)

「ガラガラ」	竹治ちかし	選
「ノルマ」	寺田 勝美	選
「年 金」	渡辺 康乃	選
「白 」	熱田熊四郎	選
「ロマン」	長谷川康子	選
「葉 」	新家 完司	選

投句先 〒693-0013 出雲市荻原町 363  
 柳楽 たえこ 宛  
 電話 0853-22-6023

雨宿りでできる書店が消える街  
 性別を問うてはならぬ黒揚羽  
 半分こ仏と食べる初西瓜  
 迂回路を教えてくれた深呼吸  
 アメリカで兜が称うホームラン  
 おやつまで報道される聰太さん  
 凡人でよいと昼間の缶ビール  
 古都めぐり妻は京都派ボク奈良派  
 フードコートへひとりで行ったことがない  
 刺り跡の青ざ息子にもう負けた  
 泣かんとき私の元気あげるから

木本 朱夏  
 森 廣子  
 川端 六点  
 福田 正彦  
 新家 完司  
 折田 あきこ  
 平井 美智子

加藤江里子  
 「異常なし」気分は生まれたての朝  
 ぴたりと去年と同じ日につけめ  
 バイデンも私も転けている段差  
 治癒力が落ちたな三日目の朝に  
 カナヘビのカナ君庭で虫退治  
 輪になつて踊ろう銃は捨てなさい  
 恋活をやめて豚カツ食べて寝る  
 小野 雅美  
 谷口 東風  
 青木 隆一  
 立藏 信子  
 柴本ばつは  
 眠つてる間も少し背が縮む  
 懶みなさい遠回りしなさいと風  
 水くさいぐらいが母にいい介護  
 住 佳

内田志津子  
 地  
 石田 孝純  
 柴本ばつは  
 きとうこみつ  
 皇族は一人もいない飲み仲間  
 新家 完司  
 内藤 憲彦  
 古今堂蕉子  
 立藏 信子  
 古今堂蕉子  
 小野 雅美  
 谷口 東風  
 青木 隆一  
 立藏 信子  
 立藏 信子  
 天

手を繋ぐ心が通じますように  
 不足言つたらキリが無いけど愛してる  
 人  
 皮アノを弾いていた母の日のひとり  
 地  
 父親になつた何かをあきらめた  
 軸  
 居谷真理子  
 宇都満知子  
 中岡千代美  
 藤井 宏造

## 第17回 岡山県川柳大会

と き 9月 10日(日) 11時 30分 投句締切  
 と こ ろ 天神山文化プラザ 1階大ホール  
 岡山市北区天神町 8-54  
 駅前から路面電車徒歩 3分

○課題と選者 (各題 2句)

「王 様」	藤井 智史	選
「干 す」	しばたかずみ	選
「路 地」	坪井 新	選
「嫁 ぐ」	永見 心咲	選
「コ ント」	高木 勇三	選
「クレヨン」	杉山 静	選
「流 れ 星」	田辺与志魚	選
「沈 む」	平井美智子	選

○当日席題 杜 青春 選

★参加料 1,000円(大会誌呈弁当・記念品無し)

★欠席投句あり

投句料 1,000円 締切 8月 20日(日) 消印有効

投句先 〒719-0104 浅口市金光町占見新田 1325-10

北川 拓治 宛 電話 0865-42-6039

※問合せ先 遠藤 哲平 電話 090-1687-9080



神秘のベールでわたくしの値を上げる和子

恋人の名前を付けて謎にする

悩み事誰にでもある大丈夫

努力義務八十路に辛いヘルメット

写経しても雑念が未だ残り

花吹雪私を浄化して去りぬ

みんな笑顔道ばたのチューリップ

弁当を作る母ちゃんみな偉い

あめふつてさくらはつぱになつちやつた

ヒザのきずバレーをがんばつたあかし

やさしいけどおこるとこわいお母さん

小三沙弥

初史子音子

厚貞幸子

歩輝恵子

美史子

惣子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる

洋次郎

宏之

俊郎

楓雄

國子

瀬高

霜石

選義明

昌鼓

隆彦

之

和子

和弘子

世渡る助け合つて夫婦箸

ひよつとして君は助けた雀かい

物価高妻へのそくり助け舟

裏方に徹し手柄は人のもの

今一つ相手転んで得た勝利

三十年娘と同居ラッキーだ

处分前透かした祝儀袋から

茶柱が立つて喜ぶ小市民

縁を得て君と歩いた長い道

ラッキーが続くつねると痛くない

ラッキーといつも努力を無視される

ビルの谷間から陽が昇るのを拝む

切つて取るそれしかないと冷めた医者

白髪をブルーに染めてさあ旅へ

失った記憶を戻す子守唄

甘言に弱い自分を責めている

この道もマスク外すと別世界

ヘルメットマスクにめがねあんただれ

気づくことたくさんあつた下り坂

ボチ撫でて血压下げている夫

足腰を和式トイレで鍛えてる

挨拶をしなきや笑顔は生まれまい

まだ充分あると思つていた預金

不可侵条約を夫婦でも結ぶ

勝ち組になれぬ仕組みができる



無印にノーブランドの意地をみる

五十年連れ添う免許感謝する

頭頂部輝き増すが銷びる脳

向こうから見れば私が檻の中

隠し味目立たぬ様に仲間入り

嘔吐して誤嚥はいえん娘が介護

妻黙るその間が不気味正座する

雨宿り相合傘は忍ぶ仲

無印になつて気軽に物が言え

ひとり夜に駄句をひねつて紙の辞書

川柳ささやま(兵庫)

北澤  
稠民報

(北)哲  
克己  
靖博  
孝

隆明  
巳  
正博

純風  
巳  
博

静恵  
巳  
博

周  
巳  
博

ゆたか  
巳  
博

弘六  
巳  
博

すみれ  
巳  
博

孔美子  
巳  
博

春文  
巳  
博

完司  
巳  
博

草文  
巳  
博

盛櫻  
巳  
博

友真  
巳  
博

弘峰  
巳  
博

一由  
文夏

正壽  
巳  
博

あかり  
巳  
博

か壽  
巳  
博

友真  
巳  
博

恵一  
巳  
博

折角の晴着も影に無視される

共に生きいつか互いの好む味

金と暇あるけど遊べぬ要介護

長生きへ百葉の長欠かせない

迷わずに即決めた夫今もなお

無理しないわが限界をわきまえる

藤が咲く娘もむらさきに恋ほのか

(長)哲  
すみえ  
良子  
美智子  
重男  
稠民  
剛  
孝

弘六  
巳  
博

孔美子  
巳  
博

春文  
巳  
博

完司  
巳  
博

草文  
巳  
博

盛櫻  
巳  
博

友真  
巳  
博

弘峰  
巳  
博

一由  
文夏

正壽  
巳  
博

あかり  
巳  
博

か壽  
巳  
博

恵一  
巳  
博

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花

宏章

孝子

蝶番が咲く娘もむらさきに恋ほのか

黄昏の光もとめて納沙布岬

じいちゃんの通信簿ある資料館

侘助の凜と一輪床の間に

何もかもただ全力でぶつかつた

川柳塔鹿野みか月(鳥取)  
福西

茶子報

楓花





気に入つた嘘は何度もついている

何かあるビールを注いでくれる妻

タッチパネル孫が仕切つて廻る寿司

ワクチンは何回打てば終えるのか

九十歳残された日々どうするか

どうすると夜逃げの途中言われても

月水金は夫が料理と決めました

玄関の脱ぎっぱなしの靴そろえ

スポーツはルールまもつて競い合い

校則を一度破つてみたかった

夫婦間ルール作つて良く揉める

スカートの丈にルールは要りません

子に送る荷のクッショն新聞紙

この先も僕の連休まだ続く

一度だけ下見をしたい天国を

菜園に忘れられたかねぎ坊主

飲む打つ買うやるとついがい破産する

カップのルージュさつとふき取るいい女

割勘は割勘らしく飲みましよう

イエスとノー共にあいづち打つ弱氣

久仁雄 終電の子を持つ母のエピラフ

母の愛息子のちやわんてんこ盛り

結局は守るルールに守られる

なるようになるのさ小石ポンと蹴る

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

声高に話し秘密は持たぬ主義

笑い声ずっと続くと思つた日

転勤族住めば都を実感す

睡眠をすらすと体だるくなる

仮設にも花は咲きます陽もあるたる

好不調聴き分けている母の耳

声変わり同時に孫の反抗期

銀行は腹巻ですぞおじいちゃん

アナログな爺は無口のまま枯れる

平和ボケ安全な国住む不安

便箋とベンにこだわるアナログ派

住めば都粗野な浪花も厚い情

行つてらつしやい妙に弾んだ妻の声

ずらさずにやんわり諭す年の功

住み慣れた町に小さな輪を作る

ここだけと声を落とされ身構える

墓に住む亡父と月一酒を飲む

亡き妻の声が聞こえて墓参り

左遷地の住めば都に酔つ地酒

少しだけずらせば見える裏表

こころざし忘れ浮世の隅に住む

此の所ホームのチラシ溜めてます

レコードの何とも言えぬあのノイズ

コーラス部ですが輪唱担当です

鉛筆と消しゴムアナログの極み

おいしいと言つて頂く母の味

少子化を嘲笑うよう猫の恋

声出して言葉をつなぐ難しさ

桜見てマスクをすらし深呼吸

少しずつずらし妊婦を座らせる

福貴子 芳香

志津子

智子

満作

ばつは

真桜子

龍

雅美

克己

憲彦

ぶりこ

さくら

篤

久仁雄

宏造

壽之

俊雄

万紗子

直子

満知子

裕之

ゆみ子

小枝子

陽一

うちの妻声だけ聞けば美人です  
あなたとは住んで見たいあの世でも  
倦怠期互いにすらすタイミング  
お母ちゃん声に出てくる呼んでみる  
親切な猫なで声に甘い罠

敏明

民子

哲夫

比呂志

ヨシエ

### 川柳さんだ(兵庫) 洒井 健二報

耕英利子

宗野民代

俊朗薰

三ツ代鐵

紀恵

義明

敏和

哲

登志子

真桜子

夫子

修哲

明

白魚の指も両手で大ジョッキ

少女からレディになつた愛子さま

レディファースト一番風呂が大好きで

春の風遊び心をつれてくる

夜遊びを覚えた猫の朝帰り

元気に遊ぶ最高のラストイン

若葉風ふわりふわりと三田駅

羽振りよいちよい悪親父もてている

背は縮み髪と鼻毛は直ぐ伸びる

抜き足差し足忍び寄る原発

孫の歳に何をしてたかふと思う

要人の警護は漁協に任せたい

慣わしと言ふ名の壁がそり立つ

はびきの市民川柳会(大阪)藤原洋一

旗振れば鳩と雀が降りて来た

ウクライナの国旗揚げるパン屋さん

白旗も覺悟妻との口げんか

覇者の権威無くして揺らぐ星条旗

停戦へストレス多き国連旗

旗に背く私に決めた道がある

再エネの旗が家計を追い詰める

世界一おいしい桃は日本産

桃太郎軍拵の鬼退治せよ

食べるより描くのが先と筆をとる

孫が来る上等な桃食われるぞ

ダム出来て桃が流れこない川

哲男

博迪

廣光

千賀子

美津子

洋次郎

義博

雅尚

勝弘

洋和

徳郎

義徳

温暖化桃栗2年柿6年

触れないで目で選んでと果実店

完熟の桃に触れてはなりません

昔の子暗くなるまで鬼ごっこ

遊んでる時も献立を考える

かくれんぼ鬼が来ぬ間に寝てしまい

老いの身は仕事の如く遊ぶ日々

閉碁将棋遊ぶというには深すぎる

そうだけど遊ぶ度胸もないわたし

好きだなあ遊び心のある川柳

川柳で遊びましたよ二十年

好きやなあ大阪弁のまた遊ば

いつせいにキヤベツがとれてキヤベツデ

川柳塔さかい(大阪) 内藤憲彦報

キラキラ光るパンクシーの背負い投げ

キラ星を一人で探す春の宵

きらきらと星降る夜の天体ショー

きらきらと輝く過去が懐かしい

一軒家きらめく正座ひとり占め

約束を守った結果四面楚歌

もたつくも結果良ければすべてよし

悪友がいつの間にやら無二の友

空白の日記に結果だけ残す

手続きが大変ですと元の鞘

太鼓橋渡つた結果背骨折れ

おしゃれした伊達の薄着で風邪をひく

ぶり返る轍にでこぼこが見える

桃太郎軍拵の鬼退治せよ

食べるより描くのが先と筆をとる

孫が来る上等な桃食われるぞ

ダム出来て桃が流れこない川

勝久

ちづる

理恵

正義

さくら

サヨナラ

玄也

満作

富夫

清五

志津子

万紗子

人生に笑うチャンスはたんとある

悔しかる君の努力は見ていたよ

出来不出来あって子育ておもしろい

楽天家離婚されても楽天家

結果どうあれ頑張つてみる母真似て

結果より中身は勝つっていた試合

プロセス無視生きづらくする成果主義

(江)勝弘

愛されどやはり美魔女へ目が眩む

アスリート野次を気にせず名シーン

みっこ

阿吽の呼吸やんわり紡ぐ冥途まで

ひさ子

あげた服安く売られたメルカリで

(申)佳子

赤い糸やつとあなたと巡り合う

あきまへんやめときなはれ日で合図

蕉子

自肃解け気持ゆるんで遊びたり

緩む頃走つて君に逢いに行く

マドンナの向かいに座り緩む頬

とも子

残り香を支えに思い出と生きる

恵子

残された妻には羽根が生えてくる

(米)淑子

人生の余白へ未練まだ残る

今できる事に残り火搔きたてる

サヨナラの余韻が残る大合唱

結果だけ見て評価するのが世間

頑張る子きっと結果もついてくる

住んで居た人ふと偲ぶこの更地

樂天家離婚されても樂天家

人生に笑うチャンスはたんとある

悔しかる君の努力は見ていたよ

出来不出来あって子育ておもしろい

結果どうあれ頑張つてみる母真似て

結果より中身は勝つっていた試合

プロセス無視生きづらくする成果主義

(江)勝弘

愛されどやはり美魔女へ目が眩む

アスリート野次を気にせず名シーン

みっこ

阿吽の呼吸やんわり紡ぐ冥途まで

ひさ子

あげた服安く売られたメルカリで

(申)佳子

赤い糸やつとあなたと巡り合う

あきまへんやめときなはれ日で合図

蕉子

自肃解け気持ゆるんで遊びたり

緩む頃走つて君に逢いに行く

マドンナの向かいに座り緩む頬

とも子

進子

柳歩報

相見

島根

川柳塔まつえ吟社

桃

ドバイから迎えが来てもいい頃だ  
朝明けに素敵な予感君と僕  
予報士よりよく当たります雨男  
田舎から理想の政治家が育つ  
イーハトーブ賢治が俺の中に棲む  
あなたでも踏み絵で転ぶ多数決  
転居との知らせは遠く会えぬ地へ  
満腹になると転がす箸の先  
転移するほどに難儀なガン治療  
記憶ない転んだ時か肘の傷  
転換の羽根はやつぱり出て来ない  
すつてんころり象形文字になつてゆく

吹喜ビルモナカ柳歩芳山小鹿米佑雪仙青帆知恵子美智子

見送つてながく長く楽しまん  
乾杯の泡が消えてもまだ喋る  
良い人だ話が長いこと以外  
手術中のランプいかにも長すぎる  
長い例見れば一応並ぶ癖  
ストレスを溜めたどうしの長電話  
傘寿の会幼稚園から知る仲間  
余生だと言うには長い定年後  
傘寿過ぎ風に任せせる今日明日  
長男の嫁に任せた義母の愛  
妻の任近頃重い物価高  
任せると言つた議員が昼寝する  
軍括が好きなお方に任せられぬ  
後期高齢任せています運命に  
愚息でもおだて任せりや独り立ち  
口先で任せても何もしない人  
任せた人見当たらぬが行く選挙  
トラブルは部下に任せて第三者  
官僚にすべて任せた答弁書  
神様に任すわたしのエピローグ  
大物よ出てこい日本任せよう

みっこ武人裕之保州一隆恭昌さざえ崇明志津子ゆきみ恭正昭彰一歩天行久羅一彰千鶴子一勝弘歩  
核禁会議に行かぬお国の倫理感  
あんなトロフィー断捨離に出しました  
釣り日和魚の留守に油断した  
さつぱりした人にもあつた思いやり  
春うらら講師喋らせ生徒寝る  
暖かいうどん啜つて夜なべする  
師の百句写して重いなと思う  
内緒です金塊一つ持つてゐる  
正論を吐いて重責担がされ  
シングルで子ども育てる任重い  
ふところが軽く重たい初デート  
同じこと言つても格が重くする  
肩書きの重さに耐えてる名刺  
重かった父のからだがふわり浮く  
もうすでに思い病の地球号  
散つてなお花のじゅうたん敷き詰める  
葉桜が口惜しいよとおぼろ月  
今日も言う延命治療しないこと  
次つぎにあわてんぼうの花が咲く  
歩いたら遅れ走れば転ぶ歳になる  
面影を思い出すときホッとする  
ゲレンデに春が林立する蕨  
一步だけ引けばまるくなる紺  
無理をせず怠けもせずに花は咲く  
いい土に返ろう少しは役に立つ  
夏帽子どこか野心のするおしゃれ  
散り急ぐ桜へ虚しさがつのる

高志甲博泉美砂子篇  
みっこ朝子千鶴子一勝弘歩  
朝常武人高壽武和千鶴子一勝弘歩  
朝朝子高順和千鶴子一勝弘歩  
朝定生高利子一勝弘歩  
朝ひろ子朝峰彦峰一勝弘歩  
朝祥昭高鷺子一勝弘歩  
朝いさお高鷺子一勝弘歩  
朝武人高鷺子一勝弘歩  
朝常男高鷺子一勝弘歩  
朝銀杏一勝弘歩  
川柳ねやがわ(大阪)籠島惠子  
川柳塔なら 大久保眞澄報

吹喜ビルモナカ柳歩芳山小鹿米佑雪仙青帆知恵子美智子

樂々と世間渡れぬ平泳ぎ  
らくらくに見えても実は火の車  
スマホさえあれば梅地下迷わない  
人生の山坂越えた楽天家  
ひと目見りや家族の悩み見抜く母  
らくらくより人生起伏あつてこそ  
緑のおばさん今では孫に付き添われ  
日本では青いとも言う緑色  
クレヨンの緑が早く減る五月  
春一番去つて新緑よく映える  
緑陰にセールス疲れベンチ埋め  
いささかの緑に和むビルの街  
爺はなぜ緑で行かず赤で行く  
みどり児の一歩踏み出す白い地図

比呂志げんえい江里子よう子ふりこかづお和夫

見送つてながく長く楽しまん  
乾杯の泡が消えてもまだ喋る  
良い人だ話が長いこと以外  
手術中のランプいかにも長すぎる  
長い例見れば一応並ぶ癖  
ストレスを溜めたどうしの長電話  
傘寿の会幼稚園から知る仲間  
余生だと言うには長い定年後  
傘寿過ぎ風に任せせる今日明日  
長男の嫁に任せた義母の愛  
妻の任近頃重い物価高  
任せると言つた議員が昼寝する  
軍括が好きなお方に任せられぬ  
後期高齢任せています運命に  
愚息でもおだて任せりや独り立ち  
口先で任せても何もしない人  
任せた人見当たらぬが行く選挙  
トラブルは部下に任せて第三者  
官僚にすべて任せた答弁書  
神様に任すわたしのエピローグ  
大物よ出てこい日本任せよう

みっこ武人裕之保州一隆恭昌さざえ崇明志津子ゆきみ恭正昭彰一歩天行久羅一彰千鶴子一勝弘歩  
核禁会議に行かぬお国の倫理感  
あんなトロフィー断捨離に出ました  
釣り日和魚の留守に油断した  
さつぱりした人にもあつた思いやり  
春うらら講師喋らせ生徒寝る  
暖かいうどん啜つて夜なべする  
師の百句写して重いなと思う  
内緒です金塊一つ持つてゐる  
正論を吐いて重責担がされ  
シングルで子ども育てる任重い  
ふところが軽く重たい初デート  
同じこと言つても格が重くする  
肩書きの重さに耐えてる名刺  
重かった父のからだがふわり浮く  
もうすでに思い病の地球号  
散つてなお花のじゅうたん敷き詰める  
葉桜が口惜しいよとおぼろ月  
今日も言う延命治療しないこと  
次つぎにあわてんぼうの花が咲く  
歩いたら遅れ走れば転ぶ歳になる  
面影を思い出すときホッとする  
ゲレンデに春が林立する蕨  
一步だけ引けばまるくなる紺  
無理をせず怠けもせずに花は咲く  
いい土に返ろう少しは役に立つ  
夏帽子どこか野心のするおしゃれ  
散り急ぐ桜へ虚しさがつのる

高志甲博泉美砂子篇  
みっこ朝子千鶴子一勝弘歩  
朝常武人高順和千鶴子一勝弘歩  
朝朝子高利子一勝弘歩  
朝朝子高鷺子一勝弘歩  
朝朝子高鷺子一勝弘歩  
朝朝子高鷺子一勝弘歩  
川柳ねやがわ(大阪)籠島惠子  
川柳塔なら 大久保眞澄報

吹喜ビルモナカ柳歩芳山小鹿米佑雪仙青帆知恵子美智子





ヒロシマの扉を開けて核ゼロに  
開けっぱなしいつでもどなたもおこしやす  
五月こそネット調べてラツキヨ漬け  
輪の中に赤ちゃんひとりいるだけで  
詳細を読まず契約印を押す  
重い扉から青息吐息漏れ  
個性消し八方美人受けも消し  
戦より対話で和む世を目指す  
表情で母は全てを理解する  
ガス電気鍵もかけたわさあいこう  
みそ作りうでも確かな祖母の味  
大方の事件の鍵は金か色  
ビールの当て意外といけるポチの餌  
合鍵を貰つたところで目が覚めた  
神様も賽銭箱に鍵かける  
赤とんぼ歌つて和むケアハウス  
鍵かけて春のうたたね一人占め  
ユニークにふあつところぶ卒寿です  
百歳まで続く私のドア開ける

憧れは月光仮面だつたなあ  
カルチャードさわやかな夢膨らます  
ひとことのゴメンで丸くいく話  
何枚もあるブーチンの鉄仮面

川柳藤井寺(大阪)  
鈴木い

睦子信己世紀子和美タカコ義泰ふさゑ恵子規予子喜代志國代一彦勝彦夫歩英香代夫五十美子ひろ子

弁舌はさわやかなれど黒い腹  
風邪治り布団干す身に春の風  
ピアニッシモフルート爽やか朝を呼ぶ  
マスク取り笑顔さわやか里帰り  
善人の仮面のままで逝く予定  
さわやかな空を見たからウクライナ  
さわやかなに別れて恋がなお募る  
まん丸い月見て恥じること多し  
さわやかな空だ素直に謝ろう  
仮面ぬぐ以下同文の人でした  
さわやかな妖精だったヘプバーン  
  
大山漣句座(鳥取) 新家  
  
手の温み貴いハートは落ち着いた  
アメ玉貰つてイエスマン通す  
腹の虫鳴つて安堵の健康度  
無農薬野菜の虫は人がとる  
紛争止まず迷路になつた世界地図  
マイフェアレディ毛虫が蝶になつちやつた  
君好きと尺取り虫の歩で迫る  
弱虫の私に護るものがない  
G7繋がつてゐる祈りの輪  
父母に貰つた愛を子に返す  
迷路突入シートベルトは締めました  
迷路です五七五がまとまらぬ  
沢山の迷路を越えて仏の座  
虫キライ都会つ子夏帰省せず  
苦虫を食つた顔した喜寿の亡父

勝久  
ちづる  
比呂志  
憲彦  
まつお  
喜代子  
久仁雄  
一歩  
扶美代  
ダン吉  
いさお

日本という巨大迷路に暮らして  
ブーチン殿虫けらですか人間も  
前世は糞転がしの家系です  
虫一匹殺さぬ顔で人を食う  
安心を貰う厄払いの祈り  
水虫も定年までは勤め上げ  
カラフルを貰つて帰る玉手箱  
アインシュタインの頭脳は迷路で  
ヤクマンを振り込んでからヤツは  
お邪魔虫人の都合を考えせず  
正道は無難迷路は魅惑的  
芋虫も毛虫も何処へ行つたやら  
闇バイトSNSがきづかけに  
貰いもの何処に回すか考える  
吉備団子ひとつ貰つて人殺し

銭湯ではつこり遇こす爺と孫

こたつでのほつこり独り眠りこむ  
独りではないほつこりの友が居る

ほつこりとしてますうどん一杯で  
赤ちゃんの笑顔でさくくれが治る

ドーナツは穴があるからこそ想い  
ドーナツの輪をくぐり抜け夢紡ぐ

ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツの中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため

八十路来て頭の中はドーナツ化  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツの中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため

ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツの中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため

ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツの中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため

ドーナツも悼みもてのひらの穴だ  
ドーナツの穴に詰めてる愚痴本音

ドーナツの中はドーナツ化  
ドーナツの穴は笑顔を覗くため

徑子 明 梶和田川柳会(大阪(前月分)石田ひろ子報  
眞弓 知香 大輪 富美子

よしこ あきこ 胡子 川柳会(大阪(前月分)石田ひろ子報  
タカ子 節香 球泰 珠子  
タカ子 規予子 隆雄 ひろ子

日本中熱狂野球胸に金  
友達が出来たと話す子の瞳  
九条の輝く地球とり戻す  
穏やかに輝く余世レイアウト

名古屋城尾張の空に金の鯱  
四十路越え指に輝くエンゲージリング  
百歳で輝く女腹八分  
輝いていたのは他人だった頃  
季の陣の御馳走食べて幸せを  
若葉萌え歩く嬉しさかみしめる  
城石の寡黙ひとりだけの和み

和親 洋子 喜代志 二子  
敏美 子弘代 三子

## 第46回 鳥取県川柳大会

とき 10月15日(日) 10時開場

ところ 県民ふれあい会館

鳥取市扇町21

電話 0857-21-2266

席題なし 出句締切 11時30分

※昼食は各自でお願いします

宿題と選者(各題2句)

「おいしい」	萩原みゆき	選
「思い、想い」	木天 麦青	選
「採る」	伊塚美枝子	選
「匙・スプーン」	門脇かずお	選
「ボタン」	石橋 芳山	選
「舌」	大和 旅愁	選
「拾う」	新家 完司	選

表彰会費 鳥取県知事賞など7賞

1,500円

欠席投句 1,000円(締切9月15日必着 用紙  
自由 作品集呈 小為替(切手不可))

投句先 〒689-0405

鳥取市鹿野町鹿野1065

山野すみれ宛

主催 鳥取県川柳作家協会

## 第54回記念

### 水戸市芸術祭参加川柳誌上大会

課題『平』(2句詠1口・複数口応募可)  
(表現自由)

選者10名 高瀬 霜石 相田 柳峰  
江畑 哲男 平井美智子  
矢沢 和女 他

締切 8月31日(木) 消印有効

投句用紙 所定用紙(コピー可) または便箋  
賞 上位入賞者にギフト券

発表 11月予定

投句先 〒311-4152

水戸市河和田2-2222-10

水戸川柳会 佐瀬 貴子 宛

電話 029-252-9233

# 柳界展望

を「願う会」を出版。27  
編所収。A4判、77頁  
1000円+送料250円。

仁部四郎さん（唐津市）  
より川柳塔まつりへ金一  
封を頂きました。

▽訂正とお詫び△  
六月号P2目次下本文1  
行目「新版川柳歳時記」  
↓「新版川柳歳時記」。

▽新誌友紹介△  
三田市 岡田 晴美  
紹介者 北野 哲男  
四国中央市 西村 寛子  
紹介者 大内せつ子  
大阪市 久木野タ力  
紹介者 平井美智子  
大阪市 小谷 集一  
紹介者 池野恵美子  
大阪市 西出 楓葉  
仙台市 高橋 治代  
紹介者 後藤 宏之  
竹村紀の治

P34上段1行目、美術館  
心に御洒落して帰る→美  
術館心に御洒落して帰  
る。P67上段4行目、奥  
田由実→奥田由美。P44  
下段「バランス」9句目、  
立藏信子→出口セツ子。

大阪市 久木野タ力  
紹介者 平井美智子  
大阪市 小谷 集一  
紹介者 池野恵美子  
大阪市 西出 楓葉  
仙台市 高橋 治代  
紹介者 後藤 宏之  
竹村紀の治

〒722-00215  
尾道市美ノ郷町三成206-1  
小 番(ばたけ)  
道(みち) 川(がわ)  
—蘭幸・完司推薦

〒722-00215  
尾道市美ノ郷町三成206-1  
小 番(ばたけ)  
道(みち) 川(がわ)  
—蘭幸・完司推薦

—蘭幸・完司推薦

★木本朱夏さん（和歌山  
市）は、森中恵美子小論  
「白椿の人」で、第13回  
高田寄生木賞を受賞。

★川柳水柳会第19回記上  
川柳大会。参加者262名。  
同人・誌友成績。

天位 郷田 みや  
木漏れ日で低温火傷し  
てみたい

大内せつ子  
ユトリロの白い街から  
覗かれる

合点賞第一位柳田かおる  
感謝賞（長年応募者）

青木 公輔

○坂上淳司さん（堺市）  
が、同級生3名で「戦火  
のなかを生き抜いて」  
80年前のわたしたち  
久代→吉村侑久代。

▽ご芳志お礼△

(木) AM10:

## 第59回 水府忌句会

日 時 8月6日(日)  
所 在 たかつガーデン  
近鉄大阪上本町駅または地下  
鉄谷町9丁目下車11番出口  
受付開始 18時  
会 費 1000円  
お 話 水府こぼれ話 森中恵美子  
宿題と選者 (各題2句・席題なし)  
「ざらざら」 神田 良子 選  
「付録」 西澤 知子 選  
「不思議」 大堀 正明 選  
「踏ん張る」 西 美和子 選  
「きっかけ」 居谷真理子 選  
「眺める」 田中 新一 選

新 同 人 紹 介

〒722-00215  
尾道市栗原町3200-18

小 番(ばたけ)  
道(みち) 川(がわ)  
—蘭幸・完司推薦

〒722-00215  
尾道市美ノ郷町三成206-1  
小 番(ばたけ)  
道(みち) 川(がわ)  
—蘭幸・完司推薦

—蘭幸・完司推薦

「孫たちの世代にも平和

句会名	日時と題	会場と投句先
あかつき 川柳会	14日(金) 染・解禁・ゆらいだこと 時事吟(詠み込み不可)	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
岸和田 川柳会	15日(土) 14時締切 涙・もてなす・穏やか バランス	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川柳 たちばな	15日(土) 13時45分締切 席題・台所用品・あける・自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	15日(土) 17時締切 結論・読む・全力	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稻見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	16日(日) 14時締切 主張・じろじろ	会場 パープルホール4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	17日(月) 14時40分締切 方言・抜ける・ついつい・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	17日(月) 14時締切 透明・頼る・こっそり・自由吟	会場 豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	18日(火) 13時締切 風上・恐ろしい・差額 うっかり・自由吟	会場 寝屋川市産業振興センター 〒573-1104 枚方市楠葉丘1-9-13 藤村亞成
川柳 さんだ	18日(火) 13時30分締切 連想・軽い・エレベーター 払う・自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すづかけ台3-4-1 E棟4-1 田村 博
和歌山 三幸 川柳会	22日(土) 13時15分締切 泳ぐ・星・迷う	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民 川柳会	23日(日) 14時締切 朱・忙しい・オアシス・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	23日(日) 13時から 自由吟・台本・自然 仕返し・席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳塔 すみよし	29日(土) 14時締切 口・飛び上がる さすがと思う事	会場 住吉区民ホール集会室4(図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。  
 ★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

## 7月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北川柳会	1日(土) 開場13時 締切14時 訳あり・ベース・笑顔・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳とんだばやし富柳会	1日(土) 14時締切 夏山・耕す・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉川柳会	1日(土) 14時締切 閑・規則・スコップ・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳塔まつえ社	1日(土) 13時40分締切 雨・配達・魚・泳ぐ	会場 雜貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
川柳塔なら	7日(金) 13時50分締切 リサイクル・そわそわ・らしい	会場 奈良市中部公民館 近鉄奈良駅奈良駅③番出口徒歩5分 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
おりひめ☆ひこぼし川柳会	7日(金) 消印有効 凍る・美しきもの・印象吟・グラデーション・衣・ヒーロー	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
六甲川柳会	8日(土) 14時締切 席題・他人・ぎりぎり 植える・自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川柳塔打吹	8日(土) 13時30分締切 星・捨てる・そよそよ・席題	会場 倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳塔わかやま吟	9日(日) 14時10分締切 兼 題=簡単・遅い・ダンス 課題吟=学校	会場 和歌山県JAビル1階 兼 題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諫訪森町東2-208-5 斎原道夫
西宮北口川柳会	10日(月) 13時30分締切 席題・証拠・迷う・ひとまず 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる川柳同好会	11日(火) 13時30分締切 豆・傾く・どんどん	会場 豊中市立螢池公民館 阪急・モノレール螢池 螢池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔さかい	11日(火) 14時締切 無駄・あつさり 折句: よ・め・な	会場 東洋ビルディング(堺東駅北改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら
川柳あまがさき	11日(火) 14時締切 頼る・波(連記)・固い・自由吟	会場 東園田町総合会館2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造

# 第29回 川柳塔まつり

とき 2023年(令和5年)10月7日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

ところ ホテル・アウイーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12(近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

## 《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・樽櫻賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏選

兼題 「刻 む」 川柳塔社 藤 井 智 史 人選

「まっすぐ」 川柳塔社 藤 田 武 人選

「揺れる」 川柳塔社 大久保 真 澄選

「未 来」 川柳塔社 斎 原 道 夫選

「 笛 」 番傘川柳本社 片 岡 加 代選

事前投句 「自由吟」(8月31日必着) 川柳塔社 小島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させて頂きます

出句締切 正午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎呈 記念品

## 《懇親宴》

とき 令和5年10月7日(土) 午後5時~7時

ところ ホテル・アウイーナ大阪 3階 葛城の間

☆会費 7,000円 先着申込み 130名様

\*事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて  
8月31日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

\*会費は当日受付をお願いします。

\*新型コロナの情況により中止せざるを得ないときはご容赦願います。

主催 川柳塔社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201  
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490

## 第38回 国民文化祭・いしかわ2023 川柳作品募集要項（概要）

### 「日本列島の真ん中・能登半島」文華の粹を詠う in 七尾市「川柳の祭典」

応募受付期間  
2023年5月1日（月）～7月31日（月）（当日消印有効）

#### 2. 応募規定

- (1) 作 品
- (2) 応募料

一人各題二句詠（未発表作品に限る）  
事前投句 1,000円、当日投句 1,000円（ただし、海外投稿者、身体障害者手帳等の写しを添付された方は無料）

振替口座 00960-2-276220 加入者名

所定の応募用紙に必要事項を記入し、郵便振替請求書兼受領証又はその写しを添えて応募してください。

一般社団法人全日本川柳協会

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

一般社団法人全日本川柳協会

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

#### 3. 題・選者

（事前投句）

「兼ねる」「梅嶋流青（福岡）」「スイーツ」「佐藤清泉（静岡）」

（当日投句）

「地味」「浜山嵐子（宮城）」「アラス」「岡本聰（石川）」

第二次選者

「石隆」「片岡加代（大阪）」「大竹洋子（千葉）」「大楠紀子（奈良）」

第三次選者

「新家完司（鳥取）」「黒川孤遊（熊本）」「千葉」「大楠紀子（奈良）」

#### 4. 賞

文部科学大臣賞／国民文化祭実行委員会会長賞／石川県知事賞／石川県教育委員会教育長賞／七尾市長賞

七尾市教育委員会教育長賞／一般社団法人全日本川柳協会理事長賞／石川県川柳協会会长賞

川柳の祭典（事前投句作品や、当日投句作品の入選・入賞発表、披講、選評、表彰式）

2023年10月22日（日）9時30分～16時30分 七尾市文化ホール

後日、入選作品集として刊行し、応募者全員に無料配布します。

#### 6. 問い合わせ先と募集要項の依頼先

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905 一般社団法人全日本川柳協会

TEL (06) 6352-2210 FAX (06) 6352-2433

文化庁 厚生労働省／石川県／石川県教育委員会／七尾市／七尾市教育委員会  
いしかわ百万石文化祭2023石川県実行委員会／いしかわ百万石文化祭2023七尾市実行委員会

一般社団法人全日本川柳協会／石川県川柳協会

#### 7. 主催者

暑中お見舞い申し上げます

# 竹原川柳会

監査会計会長 小島蘭幸  
國兼古田比呂子  
ほか会員一同 千代美

秀句奔流

# 【大山滝(5)】

大山滝句座メンバーの佳吟秀吟 600 句（総て寸評付き）を収録。

価額： 1,000 円（税・送料込み）（冊子到着後送金で可）

ご注文： ☎ 689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万 597 新家完司  
ハガキかファックスにて、FAX 0858-52-2449

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔さかい

会長 憲彦  
副会長 藤藤さくら

吉田	山本	山村	谷瀬	高木	澤井	正信	寺尚邦	鴨谷	古今堂	谷川	玉瀬	谷瀬	高木	澤井	鈴木	桑原	柳本	池野	内田	出海	綾田
禮子	吉田	内山	村上	世紀	敏治	寺尚邦	扶美代	瑠美子	芭蕉子	扶美代	佳子	淑子	玄也	進	いさお	ひさ子	舞夢	恵美子	志津子	素頓馬	清
米澤	横山	里子	山下	西出	西井	西井	西井	楓葉	中林	中林	中井	中井	中井	中井	みつこ	廣子	木満作	江島谷	浦上	綾田	綾田
淑子	淑子	育子	じゅん子	佳子	佳子	桂子	桂子	光雄	佳子	扶美代	勝弘	勝弘	勝弘	勝弘	勝弘	和夫	時雄	勝弘	惠子	志華子	彦

暑中お見舞い申し上げます

# 翠洋会

田中	高橋	佐々木	古今堂	太田	大久保	大川	池野	東	安福	安福	安土	谷口
廣子	敬子	木満作	芭蕉子	江里子	眞澄	桃花	恵美子	定生	和夫	和夫	理恵	義
渡辺	千歩	小谷	集一	昭	眞澄	舞夢	志津子	辻内	寺井	寺井	辻内	げんえい
富子	恭昌	佐々木	前川	藤原	降幡	飛永	素頓馬	げんえい	弘子	弘子	谷口	義
		木満作	善之	大子	弘美	ふりこ						
			室田	山本	山本							
			行久	希久子								

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔すみよし

代表 内田 志津子

坂	石田ひろ子	佐々木満作	藤井 宏造
裕之	石橋 直子	柴本ばっは	藤島たかこ
長谷川崇明	磯島福貴子	清水久美子	藤原 大子
斎藤さくら	今井万紗子	鈴木いさお	松岡 篤
古今堂蕉子	井丸 昌紀	田中 廣子	松下小枝子
野口 龍	宇賀 史郎	飛永ふりこ	三宅 保州
埜田 陽一	宇都満知子	内藤 憲彦	宮崎シマ子
渡辺 敏明	江島谷勝弘	中井 萌	森松 芳香
奥村 五月	榎本 舞夢	中村 民子	森松まつお
大隅 克博	大治 重信	長浜 美籠	矢倉 五月
小野 雅美	大隅 克博	長高 俊雄	山野 寿之
川端 一步	西村 哲夫	楓楽 山村 猛	
古今堂蕉子	吉村久仁雄	横山 里子	

暑中お見舞い申し上げます

# 富 柳 会

川柳とんだばやし

秋田 あかり	中村 惠
穂山 常男	林 澄子
井澤 壽峰	肥山 一文
坂本 晴美	藤田 武人
久世 高鶩	堀内きみ子
沢田 和子	松井 正義
鈴木 かこ	松谷 由夏
関 よしみ	松本 正治
土田 欣之	村山 佳子
都筑 文重	山野 寿之
柄尾 奏子	
他一同	

暑中お見舞申し上げます

# 南大阪川柳会

会員一同

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔みちのく

主幹 福士慕情

同人一同

事務局 ☎036-8275 弘前市城西1-3-10

福見則彦 (☎0172-36-8605)

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳塔鹿野みか月

会員一同

会長 森山盛桜

暑中お見舞い  
申し上げます

## 川柳茶ばしら

早川遡行  
板山まみ子  
関本かつ子  
山本三樹夫  
金子美千代

暑中お見舞い申し上げます

## 六甲川柳会

会員一同

会長 糀谷和郎

暑中お見舞い申し上げます

## はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄

会員一同

暑中お見舞申し上げます

# 川柳さんだ

## 会員一同

例会：毎月第3火曜日 開場12時30分  
JR三田駅前 キッピーモール 6F

暑中お見舞い申し上げます

# 川柳あまがさき

## 会員一同

暑中お見舞い申し上げます

## ほたる川柳同好会

場所	豊中市螢池公民館	水野 黒兎	田中 螢柳
句会	第二火曜日 午後一時より	中山 春代	樋口 順子
飯車禮	久仁子	貝塚 正子	多田 契子
松田	蟻日路	倉本 守啓	藤井 則彦
		一弥	藤井 宏造
		江島谷 勝弘	齋藤 奈津子

暑中お見舞申し上げます

## 豊中もくせい川柳会

会員一同

暑中御見舞い  
申し上げます

川柳藤井寺

会長 鈴木 いさお  
世話人 鴨谷 瑞美子

津吉園太  
田田田扶美代  
シルク 喜代子 婦美枝

暑中お見舞い申し上げます

## 川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14

川上大輪方

電話・FAX 073-462-7229

暑中お見舞申し上げます

# 川柳塔きやらぼく

会員一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304 竹村 紀の治  
TEL 0859-21-7656

暑中お見舞申し上げます

# い ズ も 川 柳 会

会長 竹治 ちかし  
会員一 同

事務局 〒693-0013 出雲市荻杼町363 柳楽たえこ 方  
TEL 0853-22-6023

会計監査 顧問 世話人 開会 計集編会 副会長 長谷川 中飛堀永中安宇賀福史和里里夫優 ふりこ 優明澄 大久保 真澄

江島谷 渡辺富弘 安理子 恵子 岩井子 塔 な ら 川柳

暑中お見舞い申し上げます

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保真澄

暑中お見舞申し上げます

番傘川柳本社

森 中 恵 美 子

〒566  
-0022  
揖津市三島二丁目五番二一五一四

暑中お見舞申し上げます

新 家 完 司

〒689  
-2303  
鳥取県東伯郡琴浦町徳万五九七

暑中お見舞申し上げます

西 出 楓 樂

〒543  
-0012  
大阪市天王寺区空堀町八一五

暑中お見舞申し上げます

小 島 蘭 幸

〒725  
-0022  
竹原市本町一丁目一四一三

暑中お見舞申し上げます

川 上 大 輪

〒640  
-8482  
和歌山市六十谷一一八八一一四

暑中お見舞申し上げます

仁 部 四 郎

〒847  
-0082  
唐津市和多田天満町一一一一三

暑中お見舞申し上げます

村上玄也

〒590-0016 堺市堺区中田出井町三丁四一三一

この汗がビールをうまくうまくする

平田実男

〒755-0241 宇部市東岐波区丸尾原東五三九五

暑中お見舞申し上げます  
難聴により句会の欠席を  
ご容赦願います。

太田昭

〒565-0851 吹田市千里山西  
四一三七一一四〇一

暑中お見舞申し上げます

木本朱夏

〒640-8392 和歌山市中之島八七一

暑中お見舞申し上げます

片山かずお

〒569-1022 高槻市日吉台六番町一二一一五

暑中お見舞申し上げます

久保田千代

〒343-0023 越谷市東越谷  
三一一六一七一一〇五

暑中お見舞申し上げます

柿 花 和 夫

〒592  
-8349  
堺市西区浜寺諏訪森町東二丁一八五

暑中お見舞申し上げます

古 今 堂 蕉 子

〒558  
-0054  
大阪市住吉区帝塚山東二丁四一九

暑中お見舞申し上げます

初 代 正 彦

〒569  
-0073  
高槻市上本町五二六

暑中お見舞申し上げます

岸 本 宏 章

〒689  
-0202  
鳥取市美萩野一一三四

暑中お見舞申し上げます

矢 倉 五 月

〒599  
-0033  
堺市東区菩提町五一一七一

暑中お見舞申し上げます

鴨 谷 瑞 美 子

〒583  
-0026  
藤井寺市春日丘二一八一二二二

暑中お見舞申し上げます

飛 永 ふ り こ

〒630-0122 生駒市真弓四一三一―三

暑中お見舞申し上げます

松 原 寿 子

〒649-6313 和歌山市楠本三八六一四

暑中お見舞申し上げます

宇 都 満 知 子

〒558-0043 大阪市住吉区墨江四十一―十一

暑中お見舞申し上げます

坂 裕 之

〒558-0044 大阪市住吉区帝塚山東三十九一四

暑中お見舞申し上げます

安 福 和 夫

〒636-0344 奈良県磯城郡田原本町宮森一〇〇一九三

暑中お見舞申し上げます

吉 村 久 仁 雄

〒583-0861 羽曳野市西浦六一四一二一

暑中お見舞申し上げます

藤井宏造

〒661-0953  
尼崎市東園田町三一四九一五

暑中お見舞申し上げます

平井美智子

〒550-0006  
大阪市西区江之子島  
一一七一二二一三〇一

暑中お見舞申し上げます

松岡篤

〒569-1116  
高槻市白梅町五一五一一〇〇八

暑中お見舞申し上げます

藤村亜成

〒573-1104  
枚方市楠葉丘一一九一一三  
一一九一一一三

暑中お見舞申し上げます

山下じゅん子

〒639-0254  
香芝市関屋北六一一〇一

暑中お見舞申し上げます

平賀国和

〒536-0014  
大阪市城東区鴨野西  
三一四一一一三〇五

暑中お見舞申し上げます

江 島 谷 勝 弘

〒536  
-0001  
大阪市城東区古市一一八一四

大 久 保 真 澄

暑中お見舞申し上げます

暑中お見舞申し上げます

内 藤 憲 彦

〒590  
-0013  
堺市堺区東雲西町二一一五

稟 <sup>くわ</sup>  
原 <sup>ばら</sup>  
道 夫

暑中お見舞申し上げます

〒631  
-0078  
奈良市富雄元町一一一七一一四

〒592  
-8349  
堺市西区浜寺諏訪森町  
東二二二〇八一五

暑中お見舞申し上げます

# 西宮北口川柳会

例 会 每月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや 6F

投句先 〒663-8112 甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

暑中お見舞申し上げます

酒 井 紀 華

〒562  
-0001 箕面市箕面四一六一二六

暑中お見舞申し上げます

内 田 志 津 子

〒558  
-0013 大阪市住吉区我孫子東  
三一八一二一〇六

暑中お見舞申し上げます

山 田 耕 治

〒661  
-0953 尼崎市東園田町二一四五一一八

暑中お見舞申し上げます

前 田 洋 子

〒351  
-0035 朝霞市朝志ヶ丘四一一一六  
スチューディオ8  
304号

暑中お見舞申し上げます

石 田 ひ ろ 子

〒597  
-0082 貝塚市石才二五一三

暑中お見舞申し上げます

柏 原 夕 胡

〒640  
-8442 和歌山市平井五五

暑中お見舞申し上げます

居 谷 真 理 子

〒634  
-0051 檜原市白樺町五一一一一四〇五

暑中お見舞申し上げます

岩 切 康 子

〒861  
-2233 熊本県益城郡益城町惣領  
一六二四一一

暑中お見舞申し上げます

黒 木 栄 子

〒883  
-0067 宮崎県日向市龜崎東四一七

暑中お見舞申し上げます

西田美恵子

〒797  
-1324 西予市野村町大西二二三

暑中お見舞申し上げます

福士慕情

〒036  
-8275 弘前市城西一丁目九一五

暑中お見舞申し上げます

辻内次根

〒787  
-0558 土佐清水市宗呂丙一二六七一三

暑中お見舞申し上げます

津守柳伸

〒545  
-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北  
一一三一一

暑中お見舞申し上げます

松本文子

〒699  
-0401 松江市宍道町宍道三八五一一二

暑中お見舞申し上げます

宮尾みのり

〒790  
-0045 松山市余戸中二一五一四

暑中お見舞申し上げます

恵利菊江

〒889  
-1201 宮崎県児湯郡都農町  
大字川北二〇七三四

暑中お見舞申し上げます

澤井敏治

〒590  
-0114 堺市南区槇塚台一一六一五

暑中お見舞申し上げます

石田孝純

〒546  
-0033 大阪市東住吉区南田辺  
一一一一六

暑中お見舞申し上げます

糀 谷 和 郎

〒673  
-0883 明石市中崎二一四一一一六二二

暑中お見舞申し上げます

大 内 朝 子

〒639  
-0251 香芝市逢坂二一七二〇一一二〇

暑中お見舞申し上げます

田 中 廣 子

〒558  
-0055 大阪市住吉区万代六一八一三二

暑中お見舞申し上げます

敏 森 廣 光

〒658  
-0083 神戸市東灘区魚崎中町  
二一一二一五

暑中お見舞申し上げます

小 野 雅 美

〒545  
-0037 大阪市阿倍野区帝塚山  
一一一六一三一一〇七

暑中お見舞申し上げます

榎 本 舞 夢

〒545  
-0051 大阪市阿倍野区旭町  
二一一一一一一一七

暑中お見舞申し上げます

上 田 ひ と み

〒669  
-1324 三田市ゆりのき台三一一四一九

暑中お見舞申し上げます

水 野 黒 兔

〒561  
-0813 豊中市小曾根二一一四一一一

暑中お見舞申し上げます

川 端 一 步

〒536  
-0024 大阪市城東区中浜一一一一二七

暑中お見舞申し上げます

鈴木いさお

〒583  
-0007 藤井寺市林五一八一二〇一三〇三

暑中お見舞申し上げます

齋藤さくら

〒599  
-8122 堺市東区丈六 七七一四

暑中お見舞申し上げます

太田扶美代

〒583  
-0037 藤井寺市津堂一丁目一一一九

暑中お見舞申し上げます

小川道子

〒722  
-0022 尾道市栗原町三二〇〇一八

暑中お見舞申し上げます

森田旅人

〒586  
-0027 河内長野市千代田台町一三一一五

暑中お見舞申し上げます

原田すみ子

〒540  
-0014 大阪市中央区龍造寺町二一一〇

暑中お見舞申し上げます

山崎武彦

〒683  
-0804 米子市米原五一一一三一三〇四

暑中お見舞申し上げます

竹村紀の治

霜石

10月7日行くぞー行きます!!  
行けるかな?

暑中お見舞申し上げます

黒田茂代

〒797-0015 西予市宇和町卯之町五二三一

暑中お見舞申し上げます

畠山ルイ子

〒572-0043 寝屋川市錦町八一二三

暑中お見舞申し上げます

富永恭子

〒651-1514 神戸市北区鹿の子台南町  
四一四六一五

暑中お見舞申し上げます

福田正彦

〒663-8141 西宮市高須町二一一一三一一八三〇

暑中お見舞申し上げます

谷口義

〒546-0043 大阪市東住吉区駒五一一〇一一六

暑中お見舞申し上げます

川本信子

〒572-0063 寝屋川市春日町一一一二六

暑中お見舞申し上げます

安土理恵

〒633-0054 桜井市阿部七八七

暑中お見舞申し上げます

八甲田さゆり

〒440-0892 豊橋市新本町六二

暑中お見舞申し上げます

古手川光

〒790-0924 松山市南久米町一七六一八

暑中お見舞申し上げます

杉野羅天

〒861-8064 熊本市北区八景水谷  
一三二一一七

暑中お見舞申し上げます

本田さくら

〒811-2502 福岡県糟屋郡久山町上山田  
二五四一六

暑中お見舞申し上げます

栗田忠士

〒791-0101 松山市溝辺町甲六一〇

暑中お見舞申し上げます

徳山みつこ

〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘二二一八

暑中お見舞申し上げます

川本真理子

〒155-0033 東京都世田谷区代田二二二四一一  
一九三三一一六一七〇八

暑中お見舞申し上げます

川名洋子

〒193-0812 八王子市諏訪町  
一九三三一一六一七〇八

暑中お見舞申し上げます

渡辺富子

〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾  
六二一一六

暑中お見舞申し上げます

雪本珠子

〒596-0076 岸和田市野田町二二一八一二七

暑中お見舞申し上げます

上田和宏

〒657-0011 神戸市鶴甲四一一一一一

暑中お見舞申し上げます

池田純子

〒560-0022 豊中市北桜塚  
四一〇一〇一〇一三〇三

暑中お見舞申し上げます

永井松柏

〒799-2206 今治市大西町脇甲六四〇

暑中お見舞申し上げます

藤原大子

〒583-0857 羽曳野市誉田三一一一二

暑中お見舞申し上げます

永見心咲

〒704-8194 岡山市東区金岡東町  
三一二一七一六

暑中お見舞申し上げます

津村志華子

〒582-0018 柏原市大県一一五一三六  
オリーブ柏原プラス三〇五

暑中お見舞申し上げます

緒方美津子

〒663-8123 西宮市小松東町三一六一三

暑中お見舞申し上げます

城北川柳会

会員一同

暑中お見舞申し上げます

# 川 柳 塔 社

主幹	小島蘭幸
理事長	新家完司
副主幹	川上大輪
常任理事長	内藤憲彦
副理事長	居谷ひとみ
	内田真理子
	上田志津子
	江島谷勝弘
	宇都満知子
	大久保道真
	平井和郎
	平賀国和

会計監査	相談役	常任理事
		藤井宏造
西初	木吉	藤村武人
村代	本村	松岡亜成
哲正	久仁雄	森まつお
夫彦	朱夏	山下篤
	楓楽	藤井
	仁四郎	田武人
	上玄也	松武人
	吉也	岡亜成
	下也	藤武人

## 編集後記

★ 麻生路郎は昭和40年7月7日逝去。8月6日に催された路郎追悼句会も含めると、今年の路郎忌句会は59回目になる。

のため、増井不二也・脇田梅子がそれぞれ代読。最後は麻生蔵乃選。句会終了後、野外パーティで、路郎の胸像をじつくりと見直したい。

★ 没後一年の昭和41年7月10日には「路郎忌川柳大会」として大々的に催された。出席164名。会場は天王寺公園内の慶沢園（旧・住友別邸）。

（道夫）

◆「本社句会あれこれ②」

本社句会場の入口に掛けられている垂れ幕は、

路郎師が書かれたものです。

す。昭和30年2月に藤田一三夫氏（同人・大阪市）からご寄贈されたものです。

◆本社句会場の演壇の懸

会費は300円（記念品贈呈）。当時の本社句会の会費は150円。午前

10時から「一周年祭典」。

中島生々庵主幹の祭詞に

続き献花・合掌。12時か

ら「川柳大会」。堀口塊

人と岡橋宣介の追憶談に

続き披講。席題4題（当

時の本社句会は3題）、

兼題4題（当時の本社句会と同じ）。兼題選者である近江砂人が病気のため生島鳥語が代選。相元紋太・川上三太郎も病氣

リアルと誌上

世の中は「ウイズコロナ」を目指し、行動抑制も行わない方針。（流行かも）となっています。ま

た、誌上だと参加するための様々

てあります。たしかに、リアル句会

は、耳で聞く川柳としての楽しさ

や心の響きがあります。

誌上は、どうでしょうか？ 発表

誌が送付され自らの雅号を探して

一喜一憂して終わりです。リアル

と違い、会場での臨場感はあります。しかし、目で見る川柳を作

る者は意識しているのか、色々な

経営されている「コー」の夫が何年か前に睡蓮鉢

キーローボレーシヨン

を置いた。雨量計のよう

からご寄贈されている句

箋です。この度は、本社

句会と同じ句箋を、どこ

がビチャビチャになつて

なりました。7000枚、

送到込み5000円で

本一だと思います。

◆本社句会の句箋は、タ

テ25cm、横4.5cmと大き

くて書きやすいと好評で

すが、鴨谷瑞美子さん（参

与・藤井寺市）のご主人が

用庭がある。チヨー夫人

いるではないか！

括弧・強調の点・一文字の空白等、

田

梅子

がそれ代読。

由

田

梅子

がそれを代読。

由

田

# 川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目

」発表(9月号)

地名

市  
県  
府  
道  
都  
姓  
雅  
号

きりとりせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いいたします。

# 檸 檬 抄 投 句 用 紙

「サイズ」(7月15日締切)

9月号発表

川本真理子選 —— 共選 —— 鈴木いさお選

	B	A			B	A	
地名				地名			
県 市 府 道 都				県 市 府 道 都			
姓 雅 号				姓 雅 号			

切らないで下さい

左右に同じ句を書いて下さい

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

きりとりせん



川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

紹介者	電話	住所	氏名
		〒 —	
○ ○ 年 月から半年 月から一年	— —		
5000円 9800円			
該当の方に○をつけて下さい			

〒543  
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

川柳塔社

(電話 06-6779-3490)  
振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい





創刊大正十三年  
令和五年七月一日発行  
通巻一  
五四号

川柳  
塔

七  
月  
号

定価  
八百円  
(送料)

百円)

# 箸がとまらん極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超どろ火の火加減により、  
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

## 舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはごちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283 イイコブヤサン

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

# あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにするお手伝いをいたします。

## 美研アート

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> メール [bikenart@ea.mbn.or.jp](mailto:bikenart@ea.mbn.or.jp)

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日：土/日/祝